ISSN 0389-8105

大阪市立自然史博物館

館報51

令和7年度
(2025年度)

大阪市立自然史博物館　令和8年6月26日発行

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

目　　次

巻頭言 …… 1

調査研究事業 …… 2

資料収集保管事業 …… 15

展覧事業 …… 21

普及教育事業 …… 31

広報事業 …… 43

刊行物・情報システム …… 46

連携（ネットワーク） …… 48

庶務 …… 51

巻頭言：「学芸員の仕事」を展示する

自然史博物館では、2025年11月１日から2026年２月１日まで、第56回特別展「学芸員のおしごと－集める・調べる・伝える－」を開催した。当館の自主企画による特別展は、「チョウ」「貝」や「大阪湾」「都市」など特定の分類群や地域、環境をテーマにしたものがほとんどである。しかし、今回の特別展では、博物館が収集する標本や普及教育事業などを紹介しつつ、「学芸員の仕事」を通して博物館の社会的役割を伝えていこうという一風変わったテーマであった。本稿ではなぜこのような特別展を開催するにいたったか、そして担当者の特別展を終えての雑感を述べていきたいと思う。

2017年、とある大臣によるいわゆる「学芸員はがん」発言によって、図らずも学芸員という職業が社会的に脚光を浴びることとなった。最近では博物館法の改正や、博物館資料・標本の廃棄問題、国立博物館の中期計画に盛り込まれた収入目標に関する事項など、博物館とそこで働く学芸員に関する話題がしばしば報道で取り上げられている。これらの報道に関する解説や論評はここでは述べないが、これらをきっかけに、SNS上ではしばしば「#学芸員のお仕事」「#学芸員のおしごと」のハッシュタグが付けられた学芸員の多様な仕事内容が語られるようになった。学芸員の仕事は研究、標本の収集と管理、展示、普及教育に区分されることが多いが、実際にはこれらの仕事は複雑に絡み合い、かつそれらに関わる会議や調整などにも大きな時間を割かれる。また、上記の仕事に区分できないようなものも多くある。当館の学芸員は来館者や友の会の人たちの前に出ることが多く、対外的に仕事内容を発信していることが比較的多いと思われるが、それでも研究室や収蔵庫での仕事を十分に理解していただいているとはいえないだろう。これらの社会情勢を受けて、学芸員の仕事そのものを理解してもらうような展示をしなければという気運が私たちの中で芽生えていた。

そんな中、2025年度に計画していた特別展が、約１年前に諸般の事情で中止せざるをえなくなった。通常、自主企画の特別展は３年以上の期間をかけて展示内容や展示物の検討をしていくが、開催まで１年あまりの段階で計画していた特別展が中止となり、急遽新たな特別展を企画しなければならなくなった。短い準備期間の中で、単独あるいは少人数での特別展の企画準備は担当者の負担が大きいと考えた私たちは、多くの学芸員が関わることができる特別展を企画することが必要であるとの結論にいたり、ぼんやりと意識の中にあった「学芸員の仕事」に関する特別展を開催することになった。

展示テーマは決まったものの、仕事といういわば「行為」を展示で表現するにはどのようにすればいいか。私たちは博物館には欠かせない「標本」を軸に、学芸員の仕事にはどのようなものあるかを展示として表現しようという結論にいたった。展示構成は全８章で、特別展の副題である「集める・調べる・伝える」を表現した。標本を収集することにはどのような意義があるのか、標本を半永久的に保存するためにどうすればよいか、集められた標本をどのように研究に活用するのか、そして標本を展示や教育活動でどのように伝えていくかを、学芸員が実際行っている仕事という切り口から展示を構成した。展示内容の詳細は展覧事業の項に譲るが（25 ～ 28ページ）、来館者アンケートやSNS上での反応を見ると、博物館・学芸員の仕事内容を知ることができたという意見が多く、またその展示内容も概ね好評だったことがわかる。同時に学芸員の仕事という展示によって、博物館の今日的課題を提示することができたと考えている。

今回の特別展で印象的だったのが、他館の学芸員や学芸員志望者が多く来館していたことである。特別展会場に顔を出すと、しばしば知った顔を見かけることがあった。私たちと面識のない学芸員の方も来られていたことを考えると、相当数の同業者が興味を持って来館していたことが想像できる。また、学芸員志望者にも興味を持ってもらえたことが実感できたのが、会期終盤に開催したイベント「学芸員・研究者になりたい方向け相談会」であった。その内容は表題の通り、学芸員の仕事内容や就労の仕方について学芸員と直接話をできる機会を設定したものである。このイベントには４日間の開催でのべ73名の参加者があった。相談者とは30分以上話すことも多く、担当した学芸員は朝から夕方までずっと話し続けることとなった。参加者は学生だけでなく、社会人からの転職を考えている方もいた。そして自然史系の学芸員を志望している人だけではなく、民俗系や歴史系の学芸員を志望する人や、中にはこのイベントのために近畿圏以外から訪れた人も複数いた。これらのことから、学芸員という職業に対しての関心の高さがうかがわれるとともに、興味があっても直接学芸員と話し、その仕事内容を知る機会が多くないことが実感できた。

自然史系博物館の特別展としては、ダイナミックな恐竜化石や美麗な昆虫標本、動植物の不思議で美しい映像などが、来館者の目を引き多くの集客を得ることは間違いない。一方で、学芸員の仕事といういわば裏方をテーマにした特別展に多くの人が関心を寄せたことは、博物館とその役割そのものが魅力のある場所であることを示している。そして博物館そして私たち学芸員をもっと知りたいという来館者の思いは、私たちの仕事の糧となり、それがさらなる博物館の魅力向上に繋がっていくだろう。

大阪市立自然史博物館　研究主幹（令和８年４月１日昇任）　中条武司

調査研究事業

Ⅰ．研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、６部門の研究室で研究業務に携わっている。

館　長	川端　清司	（Kiyoshi KAWABATA）	
保存科学担当	藤田　浩明	（Hiroaki FUJITA）	主任学芸員
動物研究室	和田　　岳	（Takeshi WADA）	主任学芸員
	石田　　惣	（So ISHIDA）	学芸係長
	松井　彰子	（Shoko MATSUI）	学芸員
昆虫研究室	松本吏樹郎	（Rikio MATSUMOTO）	主任学芸員
	長田　庸平	（Yohei OSADA）	学芸員
	藤江　隼平	（Shunpei FUJIE）	学芸員
植物研究室	佐久間大輔	（Daisuke SAKUMA）	学芸課長
	長谷川匡弘	（Masahiro HASEGAWA）	主任学芸員
	横川　昌史	（Masashi YOKOGAWA）	主任学芸員
地史研究室	久保田克博	（Katsuhiro KUBOTA）	主任学芸員
	前川　　匠	（Takumi MAEKAWA）	学芸員
	西野　　萌	（Megumi NISHINO）	学芸員
第四紀研究室	石井　陽子	（Yoko ISHII）	主任学芸員
	中条　武司	（Takeshi NAKAJO）	学芸課長代理

令和８年３月31日現在

Ⅱ．研究テーマ

■川端　清司（館長）
（１）遺跡から出土する石製品の石材に関する文化地質学的研究、主に豊臣期大坂城の石垣に関して
（２）白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
（３）津波被災した地質標本の修復に関する予察的・実験的研究
（４）いけず石の分布・地質的背景に関する調査研究

■藤田　浩明（保存科学担当）
（１）自然史標本の劣化要因（温湿度・有害物質・光・害虫）の解明と保存環境の最適化に関する研究
（２）自然史標本の保存処理技術および博物館 IPM に基づく防除技術に関する研究
（３）被災自然史資料の保存処理に関する科学的評価と手法に関する研究

■和田　　岳（動物研究室）
（１）ヒヨドリの採食生態に関する研究
（２）大阪府周辺の鳥類及び哺乳類・両生爬虫類の分布調査
（３）大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
（４）日本の外来生物（ハッカチョウ、ヌートリア）の生息状況調査
（５）大阪府のため池で繁殖する鳥の調査
（６）大和川水系の生物の分布調査

■石田　　惣（動物研究室）
（１）大阪湾及び大阪府域の無脊椎動物相
（２）大和川水系の無脊椎動物の分布と生態
（３）博物館標本から推定する生物相の変遷
（４）軟体動物の生態学・行動学的研究
（５）自然史映像のアーカイビングとその活用

■松井　彰子（動物研究室）
（１）大阪府および大阪湾の魚類相
（２）大和川水系の魚類・両生爬虫類の分布
（３）大阪府周辺における外来魚の分布変遷と生態
（４）沿岸性魚類の系統地理学的研究

■松本　吏樹郎（昆虫研究室）
（１）ヒメバチ科の分類・系統・行動学的研究
（２）近畿地方のハチ目昆虫相の解明
（３）アミメカゲロウ目の分類、生活史
（４）近畿地方を中心とした外来昆虫の侵入と分布拡大

■長田　庸平（昆虫研究室）
（１）有用きのこの鱗翅類害虫の総合的同定手法の開発
（２）屋内で発生する小蛾類害虫の検索表の作成
（３）東京都心部の昆虫相調査
（４）農業害虫ハマキガ科の識別法

■藤江　隼平（昆虫研究室）
（１）近畿地方の甲虫目・半翅目昆虫相の解明
（２）甲虫目・半翅目昆虫の天敵昆虫の多様性解明
（３）大阪湾とその周辺における海浜性昆虫相の解明

■佐久間　大輔（植物研究室）
（１）本郷次雄菌類関連資料及びアマチュアによる菌類資料のアーカイブ化及びデジタル公開を軸とした研究活用
（２）里山利用の民俗生態学的研究
（３）自然史博物館の社会的使命とコミュニケーション
（４）博物館利用者コミュニティの発達に関する教育学的研究
（５）自然史標本の文化財制度及び保存科学
（６）地域文化資源の保全と多面的活用

■長谷川　匡弘（植物研究室）
（１）顕花植物の送粉者を介した生態的種分化
（２）開花フェノロジーと訪花昆虫ネットワークに関する研究
（３）絶滅危惧植物の保全生物学的研究

■横川　昌史（植物研究室）
（１）半自然草原の管理と植物群集の関係
（２）絶滅危惧種の保全遺伝生態学
（３）海岸植物の分布と生態
（４）標本から見た大阪周辺の植物相の変遷

■前川　　匠（地史研究室）
（１）中・古生層におけるコノドント化石を用いた生層序学的研究
（２）コノドントの古生態学的研究
（３）中・古生代の微化石の記載学的研究

■西野　　萌（地史研究室）
（１）新生代中新世の植物化石の形態学的な研究
（２）新生代古第三紀の材化石の研究

■久保田　克博（地史研究室）
（１）モンゴルやウズベキスタンから発見された獣脚類恐竜等の記載および分類学的研究など

■石井　陽子（第四紀研究室）
（１）大阪平野の第四系の地質層序と地質構造の研究
（２）大阪平野のボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序の研究
（３）ボーリング標本を用いた小・中学校理科地学分野の教材開発に関する研究
（４）自然史博物館での視覚障害者の学びの支援に関する研究

■中条　武司（第四紀研究室）
（１）干潟・汀線など沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
（２）遺跡データに基づく大阪平野形成に関する研究
（３）日本の砂浜環境と砂組成
（４）市民科学による「いけず石」の分布と岩石種

Ⅲ．文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

１．当館研究者が研究代表者となったもの

■基盤研究（B）
研究課題：市民科学者参加型きのこ「デジタル拡張標本」整備は新たなニーズを掘り起こすか？
研究代表者：佐久間　大輔
当館分担者：横川　昌史
（課題番号：24K00475、５年間継続の２年目）
○デジタル拡張標本に関する議論を日本菌学会、生態学会で行った。
○図書館総合展、オンラインシンポジウム「越境フォーラム」での研究会を開催した。
○神奈川県立生命の星・地球博物館「自然史のアーカイブス展」の展示でデジタル拡張標本の概念解説を担当し、ワークショップを行った。

■基盤研究（C）
研究課題：博物館における海浜砂資料収集の意義とその環境教育への活用
研究代表者：中条　武司
当館分担者：川端　清司
（課題番号24K06405、４年継続の２年目）
○新潟県、鹿児島県などで、砂浜の地形調査および海浜砂の収集を行った。
○砂浜の砂と環境に関する行事や講演会を実施した。
○「いけず石」に関して市民科学的手法を用い調査を行い、その成果をweb上に公開した。またその成果について、日本地質学会において発表を行った。また、朝日新聞（大阪版）から取材を受けた。

■基盤研究（C）
研究課題：中心的送粉者の欠落が送粉生態の多様化を促進させる～屋久島における実証的研究～
研究代表者：長谷川　匡弘
（課題番号：20K06793、５年継続に１年延長で最終年度）
○屋久島高地において、ハナヤマツルリンドウ、ノギランなどの送粉生態調査を実施した。

■基盤研究（C）
研究課題：日本アルプス高山帯の「お花畑」の送粉生態系及びシカ食害が及ぼす影響の解明
研究代表者：長谷川　匡弘
（課題番号：25K09792、５年間継続の１年目）
○北アルプス北部において今後の調査ルートの確認、植物相調査を行った。

２．当館研究者が研究分担者となったもの

■基盤研究（C）
研究課題：自然史系博物館の教育資源を使った幼児のための環境教育の支援
研究代表者：釋　知恵子（外来研究員）
当館分担者：石井　陽子、佐久間　大輔
（課題番号：25K06660、３年継続の１年目）
○環境教育学会（オンライン参加）や乳幼児期のSTEAMラーニングの講演会などに参加し、幼児と環境教育、幼児の博物館教育等の情報収集を行った。

■基盤研究（C）
研究課題：島嶼環境に直面した広域分布種の送粉生態型分化と侵入定着過程の解明
研究代表者：岡崎　純子（大阪教育大学）
当館分担者：長谷川　匡弘
（課題番号：17H02027、４年間継続の４年目）
○三宅島のツリガネニンジン集団において、送粉生態調査を実施した。

■基盤研究（C）
研究課題：植物の送粉生態型分化過程の解明：広域分布種の訪花昆虫シフトと開花特性の分化要因
研究代表者：岡崎　純子（大阪府立教育大学）
当館分担者：長谷川　匡弘
（課題番号：25K09740、３年間継続の１年目）
○ツリガネニンジンの分布調査を行い、日本植物分類学会に参加した。

■基盤研究（C）
研究課題：侵略的外来生物対応における不適合メカニズムと政策革新の社会的要因の解明
研究代表者：上河原献二（滋賀県立大学）
当館分担者：横川　昌史
（課題番号：24K15417、３年継続の２年目）
○特定外来生物オオバナミズキンバイの近畿圏での生育状況の調査と取りまとめを行った。
○ヒメタデハグロをはじめ大阪周辺の外来植物について分布情報の整理を行った。

■基盤研究（C）
研究課題：自然史系博物館におけるレファレンス機能の分析と新たな価値の創出に関する研究
研究代表者：金尾　滋史（滋賀県立琵琶湖博物館）
当館分担者：横川　昌史
（課題番号：23K00968、３年継続の３年目）
○博物館の質問用メールアドレス「monitor」にやってきた質問および回答のメールについてデータ整理を行った。
○横川に寄せられる質問について取りまとめを行った。

■基盤研究（C）
研究課題：実践者の経験を起点とした博物館でのワークショップ評価指標と手法開発
研究代表者：北村　美香（外来研究員）
当館分担者：佐久間　大輔、釋　知恵子
（課題番号：20K01134、５年継続に１年間延長で最終年度）
○2025年度に実施したシンポジウム「博物館でおこなわれるワークショップの実践知の共有をめざして」（会場：大阪市立自然史博物館）の報告書を作成した。
○ヒアリング等で協力していただいた30の関係機関等への研究報告をし、今後の展開等についても研究協力を引き続きしていただけることになった。
○報告書は国会図書館等へ納本し、さらにリポジトリにPDFを格納することで、成果を広く活用できる環境を作った。

Ⅳ．財団等の助成を受けて行った研究

■第35期（2024）年度プロ・ナトゥーラ・ファンド助成
研究課題：開発が迫る海岸風衝草原における絶滅危惧植物の分布および送粉生態調査
研究代表者：長谷川　匡弘
○宇久島で確認される絶滅危惧種の中から、特に重要と考えられるカイジンドウ、ハマウツボ、ヒメツルアズキ、ヒゴタイの送粉生態調査を実施した。

■環境研究総合推進費・委託費
研究課題：ゲノム情報と正確な同定にもとづく維管束植物の統合データベース構築と多様性指標・保全優先度の地図化技術の開発
研究代表者：矢原　徹一（一般社団法人九州オープンユ

ニバーシティ）
当館分担者：長谷川　匡弘
○当館所蔵標本の登録作業、注目すべき分類群の画像データベース化作業を行い、ママコナ属等の調査を実施した。
研究課題：S-23「沿岸環境・生態系の統合的管理のためのデジタルツインプラットフォームの構築」／テーマ２「自然共生サイトの生物多様性と構成種の生態に関する観測研究・基盤データ集積」サブテーマ１「干潟底生動物の多様性と食物網」
研究代表者（サブテーマ）：金谷　弦（国立環境研究所）
当館分担者：石田　惣
（５年継続の２年目）
○東京大学三崎臨海実験所、豊橋市自然史博物館、千葉県立中央博物館本館および海の分館、福井市自然史博物館、福井県立恐竜博物館、天理高校、東京大学総合研究博物館において、主に高度経済成長期以前に大阪湾で採集された貝類・無脊椎動物の標本調査、もしくは標本収蔵状況のヒアリングを行った。

Ⅴ．海外派遣

なし

Ⅵ．委託調査

業務名：大和川水系における生物相調査のための環境DNA分析
期　間：2025年10月１日～ 2026年３月31日
内　容：大和川水系の生物相把握を目的とし、大和川水系で採取した水サンプルの環境DNA分析を山口大学に委託した。10地点で採水したサンプルについて魚類の定量メタバーコーディング解析および甲殻類のメタバーコーディング解析に供した。

Ⅶ．著作活動

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study 誌は、ns.と略記した。当館職員には二重線を、当館外来研究員には一重線を付した。また、館内の複数の職員が関わった著作は筆頭著者または先にくる著者の研究室の項にのみ記した。館出版物記事は刊行物（47ページ）の項参照。館蔵資料を用いた研究は、末尾に※印を付した。

【館長】
＜査読なし＞
川端清司（2026）巻頭エッセイ　第73回全国博物館大会の開催　これも博物館連携. 博物館研究. 61（3）: 4-5.
＜学会発表＞
川端清司（2025）「内なる・身近なネットワークと外に向かうネットワーク　大阪市立自然史博物館周辺の事情」第73回全国博物館大会（大阪市）　博物館フォーラム「信頼のネットワークを築く―博物館同士の連携と倫理の実装」講演. 2025年11月19日

【保存科学担当】
＜査読なし論文及び雑誌原稿など＞
藤田浩明（2025）文化財と自然史標本を未来へつなぐ―見えないところで支える保存科学の仕事. ns. 71（8）: 5-8.

【動物研究室】
＜査読あり論文＞
福田　宏・池田　等・石田　惣・芳賀拓真（2025）アコヤエビス（古腹足類：ニシキウズ目：エビスガイ科）の学名 *Akoya akoya*（Y. Hirase, 1922）の適格性と有効性，ならびに胎殻・頭部―腹足・歯舌・顎板の形態. Molluscan Diversity 7 : 11-25.※
Ito T., Matsui S., Hirashima K., Inui R.（2025）Is *Luciogobius dormitoris*（Perciformes: Gobiidae）a valid species? Comparative morphology of two subterranean species of the genus *Luciogobius*. Journal of Asia-Pacific Biodiversity（Online first）. ※
岩崎敬二・石田　惣・柏尾　翔・亀田勇一・久保弘文・齊藤　匠・澤田直人・芳賀拓真・早瀬善正・平野尚浩・福田　宏（2025）日本産軟体動物の稀少な未記載種の形態的標徴，分布ならびに棲息環境. Molluscan Diversity 7 : 93-210.
松井彰子・中島　歩（2026）大阪府泉州地域において採集された他地域産ウグイ．大阪市立自然史博物館研究報告（80）: 1-9. ※
向井貴彦・井藤太亮・松井彰子（2025）北海道網走市能取湖で採集されたキセルハゼ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 54 : 54-59. ※
＜査読なし＞
石田　惣（2026）標本ラベルの筆跡からわかること. ns. 72（1）: 7.
石田　惣（2025）古川田溝コレクションの横浜産ハイガイ. 博物館だより（389）: 3.
石田　惣（2025）1970年に淀川汽水域で採集されていたコウロエンカワヒバリガイ. ns. 71（8）: 2-4. ※
松井彰子（2025）大和川水系の魚の今　～プロジェクトY魚班の中間報告と標本募集～. ns. 71（7）: 4-6, 12. ※
和田　岳（2025）大和川水系のカワウ・サギ類の繁殖コロニー情報募集！. ns. 71 : 63.
和田　岳（2025）身近な鳥から鳥類学　第77回大阪府のため池で繁殖する鳥の新興勢力？．むくどり通信,（288）: 15.
和田　岳（2025）判明した奈良盆地のイワツバメの繁殖分布の拡大、一方、コシアカツバメは？. ns. 71 : 70-71.
和田　岳（2025）身近な鳥から鳥類学　第78回羽根を拾って鳥を調べる．むくどり通信,（289）: 11.
和田　岳（2025）身近な鳥から鳥類学　第79回カワウが繁殖をはじめる季節．むくどり通信,（290）: 9.
和田　岳（2026）身近な鳥から鳥類学　第80回大阪のウミウ　今とこれから．むくどり通信,（291）: 9.
和田　岳（2026）播磨灘岸の水鳥・猛禽類の分布と個体数の季節変化について．むくどり通信,（292）: 9.
和田　岳（2026）身近な鳥から鳥類学　第81回身近な観察で鳥類目録改訂に参加. むくどり通信,（292）: 9.
＜学会発表＞
石田　惣（2026）沖縄戦で米軍兵が採集した動植物標本とその有用性．第73回日本生態学会大会：P2-048.
和田　岳（2025）大和川下流部の水鳥の30年．日本鳥学会2025年大会　講演要旨集：113-114.
柚原　剛・赤星　怜・東　博紀・青木美鈴・上野綾子・石田　惣・菅孔太朗・加藤健司・小林元樹・古賀庸憲・上村了美・三浦　収・多留聖典・海上智央・横岡博之・金谷　弦（2025）大阪湾に残された干潟群のベントス群集の特徴と生物多様性. 2025年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会講演要旨集：73.

【昆虫研究室】

＜査読あり論文＞

泉　裕隆・藤江隼平・矢野修一（2025）コナガサムライコマユバチ *Cotesia vestalis*（Haliday）の新寄主の記録とその生態学的意義．昆蟲ニューシリーズ, 28（2）: 56–57.

小林　温・松本吏樹郎（2026）奈良県におけるエサキアメンボ *Limnoporus esakii* の記録と越冬に関する知見 大阪市立自然史博物館研究報告（80）: 51–57.

Nakamine H., Matsumoto R.（2025）Venational anomalies in the snakefly *Inocellia japonica* Okamoto, 1917（Raphidioptera: Inocelliidae）. Japanese Journal of Entomology（New Series）28（4）: 144.

Osada Y., Park J. and Kitajima H.（2025）Redescription of immature stages of the shiitake fungus moth, *Morophagoides moriutii*（Lepidoptera: Tineidae）. Applied Entomology and Zoology 60（2）: 141–147.

＜査読なし論文及び雑誌原稿など＞

藤江隼平（2025）いろいろなツノゼミ. ns. 71（8）: 11.

藤江隼平（2025）大阪市立自然史博物館で中高生を集めるジュニア自然史クラブ．博物館研究, 60（12）: 15–19.

藤江隼平（2026）昆虫採集入門講座「石川河川敷」で確認した昆虫. ns. 72（3）: 2–3.

松本吏樹郎（2025）移入種タテスジカマキリモドキの近畿地方での分布拡大 ns. 71（9）: 6–8, 12.

松本吏樹郎（2026）寄生者は遠くへ運ばれることもある ns. 72（2）: 9.

長田庸平（2025）沖縄県糸満市でヤエナミクチバを採集. 誘蛾燈（260）: 82.

長田庸平（2025）樹液を吸汁するシンジュキノカワガ成虫．蛾類通信（314）: 407–408.

長田庸平（2025）オオトモエとヤエナミクチバが吸水. 誘蛾燈（261）: 127.

長田庸平（2025）マエモンマダラカギバヒメハマキの九州からの記録．蛾類通信（315）: 439.

長田庸平（2025）沖縄県南城市奥武島における蛾類３種の記録．誘蛾燈（262）: 156–157.

長田庸平（2025）沖縄県豊見城市瀬長島における昼行性スズメガ科３種の記録．誘蛾燈（262）: 156.

長田庸平（2025）沖縄県南城市奥武島における蝶類の記録. Pulex（104）: 1024–1026.

長田庸平（2025）沖縄県豊見城市瀬長島における蝶類の記録. Pulex（104）: 1027–1028.

長田庸平（2025）沖縄県浦添市でクスベニヒラタカスミカメの吸汁痕を確認. Pulex（104）: 1029.

長田庸平（2025）沖縄諸島瀬底島でチョウセンカマキリを確認. Pulex（104）: 1029.

長田庸平（2025）沖縄県豊見城市瀬長島でシオカラトンボを確認. Pulex（104）: 1030.

長田庸平（2025）沖縄県大宜味村宮城島における蝶類の記録. Pulex（104）: 1038–1039.

長田庸平（2025）沖縄県名護市屋我地島および奥武島におけるルリウラナミシジミの記録. Pulex（104）: 1040.

長田庸平（2025）沖縄諸島屋我地島におけるオキナワハンミョウの記録. Pulex（104）: 1040.

長田庸平（2025）沖縄諸島瀬底島でギンヤンマとコモンヒメハネビロトンボを採集. Pulex（104）: 1041.

長田庸平（2025）沖縄諸島屋我地島でオオシマゼミを確認. Pulex（104）: 1042.

長田庸平（2026）瀬長島から記録したイチモンジホウジャクをクロオビホウジャクに訂正．誘蛾燈（263）: 30.

長田庸平（2026）アレチヌスビトハギの果実にトラップされたホタルガ．誘蛾燈（263）: 41.

長田庸平・松井悠樹（2026）大阪市立自然史博物館所蔵の青木浩コレクションのシャクガ科・コブガ科・ヤガ科標本目録．ホシザキグリーン財団研究報告（29）: 291–317.

＜著書＞

前年度収載漏れ

長田庸平（2024）ミカドアゲハ日本本土亜種の分類学的特徴と分布拡大．環境動物昆虫学のすゝめ―生物多様性保全の科学―（石井　実・平井規央・上田昇平・平田慎一郎・那須義次編）. pp. 267–278．大阪公立大学出版会，堺.

＜学会発表＞

廣瀬勇輝・藤江隼平・平山貴美子, 堅果食のゾウムシ上科２種に寄生するヒメフチガシラコマユバチ亜科（ハチ目：コマユバチ科）の分類と生態,日本昆虫学会第85回大会, 東京農業大学（厚木市）2025年９月15日

藏滿司夢・田村和暉・藤江隼平・石川夏帆・江川和総. Sex and the Pity：強固な外骨格を持つシロコブゾウムシ成虫に寄生する寄生蜂 *Perilitus* sp. の寄主特異性と特異な産卵戦術，第70回日本応用動物昆虫学会大会，熊本城ホール（熊本市）2026年３月28日

松本吏樹郎（2025）クモヒメバチの社会性クモ攻略法. 日本昆虫学会第85回大会，東京農業大学（厚木市）2025年９月13日

坂井俊介・長田庸平・森直樹・吉川徹朗．猛毒植物シキミの葉・花・果実をめぐる節足動物群集とその多様性. 第73回日本生態学会大会，京都大学（京都市）2026年３月14日

長田庸平・朴　鎮亨．有用キノコ害虫を含む日本産 *Morophaga*属（チョウ目，ヒロズコガ科）の形態・分子による識別法．第70回日本応用動物昆虫学会大会，熊本城ホール（熊本市）2026年３月28日

【植物研究室】

＜査読あり論文＞

弘岡知樹・横川昌史（2026）大阪府堺市のため池で分布拡大する侵略的外来水生植物オオバナミズキンバイ. 大阪市立自然史博物館研究報告 80：67–84.

Ohkubo Y., Sakuma D., Masumoto H.（2025）Three new tricholomatoid dark blue *Entoloma* spp. from temperate forests in Japan, with the redescription of *E. cyanonigrum*. Mycoscience 66（6）: 322–333. https://doi.org/10.47371/mycosci.2025.07.007

高川晋一・角谷　拓・石井　実・石濱史子・植田睦之・大森威宏・尾崎煙雄・片山直樹・北沢宗大・中村康弘・平井規央・横川昌史（2025）種組成のネスト構造を考慮した指標種による生物多様性評価手法．保全生態学研究30（1）: 41–45.

田邊裕樹・藤野義人・横川昌史（2025）京都市青少年科学センターの腊葉標本コレクションの概要．植物地理・分類研究73（2）: 201–206.

横川昌史・伊吹寛子（2025）京都府南部におけるコキクモおよびキクモの標本記録．植物地理・分類研究 73（2）: 125–131.

横川昌史・志賀　隆（2026）1896年に採集された大阪府産のヒメシロアサザ（ミツガシワ科）の標本の発見. 大阪市立自然史博物館研究報告80：59–65.

＜査読なし論文及び雑誌原稿など＞

博物館総合調査委員会（2026）令和６年度日本の博物館総合調査 調査結果の概要（速報版）（佐久間大輔分担執筆）.

長谷川匡弘（2026）博物館を飛び出して～野外での調査・研究の実際～. ns. 72（1）: 2-4.
長谷川匡弘（2026）小難しい学芸員のやさしい小咄 早春に咲く花と年度末. ns. 72（3）: 7.
伊吹寛子・横川昌史・澤田　徹（2026）本梅川のノウルシを訪ねて. 京都植物 36: 39-44.
大久保泰和・佐久間大輔・升本　宙（2026）紺色のイッポンシメジ属3新種とコンイロイッポンシメジの再記載. 関西菌類談話会会報（53）: 2-11.
佐久間大輔（2025）地域版レッドデータブックの意義と有効性 フォーラム「レッドデータから見る府の生物多様性～京都府における生物多様性はいかにあるべきか～」の総合討論から. 地域自然史と保全 47（2）: 103-108.
佐久間大輔（2025）「わからない」の魅力、「わかりにくい」のいらだち. 現代思想 53（12）: 129-139.
佐久間大輔・松井彰子・山中亜希子・神山雄人（2025）博物館を「SDGsを語る場」とするために必要な仕掛けと人材 ～大阪市立自然史博物館RISTEX事業の取り組みから～. 金属 95（9）: 35-42.
佐久間大輔（2025）ミュージアムコミュニティと学芸員の内的動機. LRG（51）.
佐久間大輔（2025）博覧会と自然史博物館の「大阪の宝」. ns 71（4）: 2-4.
佐久間大輔（2025）書評：文化的コモンズ 文化施設がつくる交響圏. 専門図書館（322）: 57-58.
佐久間大輔（2026）持続可能な博物館の未来は開けるのか：大会シンポジウムを振り返って. 博物館研究 61（3）: 24-26.
可児光生・北村美香・五月女草子・佐久間大輔・佐藤優香・島津斉明・釋 知恵子・中脇健児・三ツ木紀英・宮元正博（2026）シンポジウム博物館でおこなわれるワークショップの実践知の共有をめざして報告書. ワークショップ評価研究会 84pp.
横川昌史（2025）大阪府レッドリストに掲載されている種子植物の標本総点検と生育状況の把握. 自然保護助成基金助成成果報告書 34: 91-101.
横川昌史・小林　智・森小夜子（2026）深泥池のフサザキウワミズザクラ（バラ科）の生育状況と近畿地方での標本記録. 近畿植物同好会々誌 49: 12-16.
横川昌史（2025）ヒキノカサ. ns. 71（4）: 6.
横川昌史（2025）六甲山のゴルフ場で採集されたオキナグサの標本. ns. 71（6）: 14.
横川昌史（2025）ススキが見つからない?! 葛城川堤防に繁茂するセイバンモロコシ（追記）. ns. 71（6）: 9.
横川昌史（2025）さく葉標本のデジタル化（小難しい学芸員のやさしい小咄）. ns. 71（7）: 7.
横川昌史（2025）本の紹介「植物の季節を科学する 魅惑のフェノロジー入門」. ns. 71（9）: 8.
横川昌史（2025）講演要旨：さく葉標本から考える大阪湾沿岸の海浜植生の変遷. 近畿植物同好会会報 141: 11-12.
横川昌史（2025）瀬戸剛先生を悼む（追記）. ns. 71（10）: 15.
横川昌史（2025）関西におけるバルカンノウルシの標本記録. ns. 71（11）: 5-6.
横川昌史（2025）本の紹介「日本のネコノメソウ」. ns. 71（11）: 10.
横川昌史（2025）植物標本室を管理する学芸員のおしごと. ns. 71（12）: 2-4.
横川昌史（2026）淀川水系にやってきた外来水草ヒメタデハグロ. ns. 72（2）: 7-8.

＜著書＞
日高真吾・小谷竜介・国立文化財機構文化財防災センター 編（2026）『必携文化財防災の手引き』丸善出版. ISBN：9784621312360（佐久間大輔分担執筆）.
湯本貴和・佐久間大輔・鎌田磨人・原慶太郎 編（2025）『図説 日本の里山：73の里山のくらしと生物多様性』朝倉書店. ISBN：9784254171976.
山住一郎・長谷川匡弘（2025）大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第56集　新訂 大阪府植物目録　第1巻シダ植物, 大阪市立自然史博物館, 大阪, 131pp, 80pls.

＜学会発表＞
佐久間大輔（2025）新菌類図鑑掲載種の標本所在と関連資料、採集地情報の整理（1）―再検証のための基礎資料として. 日本菌学会第69回大会 2025年5月18日
Daisuke SAKUMA（2025）Review from "Looking for Urban Nature from Cat's View" International Forum on Urban Ecoloy Cases studies（for museum exhibition and outreach）, Dec 2, 2025, National Taiwan Museum
奥山精市, 佐久間大輔（2026）自然史系博物館との連携. 一般社団法人全国美術館会議第40回学芸員研修会「地域社会と美術館」. Feb 26, 2026
佐久間大輔（2026）市民科学のための菌類研究資料データデジタル公開の課題と応用範囲の検討. 第73回日本生態学会大会, Mar 15, 2026, 日本生態学会
池田智輝・廣田　峻・的場英行・稲葉一文・瀬井純雄・横川昌史・藤井紀行（2025）阿蘇の絶滅危惧植物ハナシノブのMIG-seq解析を用いた保全遺伝学的研究. 日本植物学会第89回大会（福岡）口頭発表 2025年9月
横川昌史・松田　度・尾上聖子・梅原　徹・山住一郎・道盛正樹（2026）奈良県大淀町から大阪市立自然史博物館に移管された大正時代のさく葉標本（岸田日出男コレクション）について. 日本植物分類学会第25回大会（熊本）ポスター発表 2026年3月
志賀　隆・加藤　将・海老原淳・大森威宏・尾形　灯・黒沢高秀・齊藤由紀子・首藤光太郎・高山浩司・内藤芳香・三浦克仁・横川昌史（2026）標本庫調査に基づく絶滅危惧植物標本および標本種子収蔵量の評価. 日本植物分類学会第25回大会（熊本）ポスター発表 2026年3月
池田智輝・廣田　峻・陶山佳久・横川昌史・綱本良啓・的場英行・藤井紀行（2026）阿蘇の固有亜種ハナシノブの起源を探る. 日本植物分類学会第25回大会（熊本）ポスター発表 2026年3月
長谷川匡弘（2025）白花で早く咲くミヤマ（シコク）ママコナの正体. 長野県植物研究会2025年度大会, 2025年6月14日（土）（長野県環境保全研究所 飯綱庁舎）.
長谷川匡弘（2025）ハナヤマツルリンドウの「驚き」の送粉者（中間報告）. 屋久島学ソサエティ第13回大会, 2025年12月13日～14日（屋久島町役場フォーラム棟（小瀬田）12/14）.
矢原徹一・廣田　峻・鈴木まほろ・尾関雅章・大西　亘・布施健吾・佐藤広行・夫婦石千尋・社川武徳・高野温子・長谷川匡弘・永濱　藍・志賀　隆・田金秀一郎・松元颯紀・末次健司・陶山佳久（2026）1種から14種へ：日本におけるニワトコ複合体のMIG-seqによる解析と形態比較. 日本植物分類学会　第25回大会, 2026年3月6日～8日, 熊本.（熊本大学, PB-63, 3/6）
岡崎純子・長谷川匡弘・阿部晴恵・水澤玲子・木下　桂・川西　遙・冨岡優衣・大川紗樹子（2026）広域分布種ツリガネニンジンにおける島嶼と本土での昼夜の訪花昆虫の繁殖成功の比較. 日本生態学会第73回全国大

会, 2026年３月11日～15日, 京都. （京都大学, 京都国際会館, P2-101, 3/15）

【地史研究室】

＜査読あり論文＞

Choi, S., Zhang, S., Kim, N., Kweon, J., Tanaka, K., Kubota, K., Lee, Y., Xie, J., Paik, I., and Lee, S. (2025) Thermal maturity and colors of Cretaceous East Asian fossil eggs. Sedimentary Geology, 481 : 106855.

久保田克博・田中康平 (2025) 兵庫県丹波篠山市と丹波市に分布する下部白亜系（下部－中部アルビアン階）大山下層から新たに産出した主竜類とシャジクモ類化石について. 化石 118 : 35-50.

＜査読無し論文及び雑誌原稿など＞

久保田克博 (2025) 博物館の新しい学芸員の自己紹介. ns. 71 (5) : 8.

久保田克博 (2025) 小難しい学芸員のやさしい小咄「ワニと鳥に板挟みにされる恐竜」. ns. 71 (10) : 5.

久保田克博 (2025) 大阪から恐竜化石はみつかるのか？ ns. 72 (2) : 2-4.

前川　匠 (2025) ＜表紙の写真＞ 野火のあと. ns. 71 (10) : 1.

前川　匠 (2025) 小難しい学芸員のやさしい小咄「化石の発掘」. ns. 71 (12) : 11.

西野　萌 (2025) 裏が表で 表が裏で. ns. 71 (9) : 5.

＜著作活動＞

久保田克博・田中康平 (監訳) (2025) ビジュアルガイド 恐竜の生態と行動. 創元社. 224p.

久保田克博 (2025) 第21章 本州Ⅰ―東北・関東・中部. (小林快次編『恐竜学』東京大学出版会.) pp.398-427.

久保田克博 (2025) 第22章 本州Ⅱ―近畿・中国・四国. (小林快次編『恐竜学』東京大学出版会.) pp.428-449.

＜学会発表＞

小林快次・久保田克博・田中康平 (2025) モンゴル・上部白亜系バヤンシレ層におけるテリジノサウルス類の多様性. 日本古生物学会2025年年会. 講演要旨集 : 6.

久保田克博・小林快次・木吉智美・田中康平・キシグジャヴ=ツクトバートル・ダムディンスレン＝イデルサイカン・ツクトバートル＝チンゾリグ (2025) デイノニコサウルス類の進化戦略. 日本古生物学会2025年年会. 講演要旨集 : 5.

前川　匠・ジェンクス ジェームス・重田康成 (2025) ネバダ州Crittenden Springsに分布する下部三畳系ディンウッディー層から産出したコノドント化石とアンモノイド化石. 日本地質学会第132年学術大会. T12-P-12.

前川　匠・吉村優輝・小松俊文・重田康成 (2025) 宮崎県高千穂町に分布する三畳系上村層から産出したスパシアン亜期（オレネキアン期後期）のコノドント化石群集. 日本古生物学会第175回例会. 講演予稿集 : 28.

御前明洋・三宅優佳・前川　匠・小松俊文 (2025) 九州南西部甑島列島の上部白亜系姫浦層群から産出した複数種のスフェノディスクス科アンモノイド. 日本古生物学会第175回例会. 講演予稿集 : 24.

田中康平・松本廣直・久保田克博・小林快次・外山欧樹・大友絢琳・アルポミシュ＝アンワロフ・アクマジョン＝アーメシャエフ (2025) ウズベキスタンの恐竜：白亜紀後期の大型獣脚類の生態系変遷. 日本古生物学会2025年年会. 講演要旨集 : 4.

【第四紀研究室】

＜査読あり論文＞

別所孝範・中条武司, 2025, 日本の海浜砂―源岩グループの検討とその分布―. 地学教育と科学運動, (94) : 37-48. ※

＜査読なし論文及び雑誌原稿など＞

石井陽子 (2025) ＜小難しい学芸員のやさしい小咄＞ボーリング柱状図が増えると地質断面図はどうなる？ ns. 71 (6) : 13.

石井陽子 (2025) 平野の地下に埋もれた大昔の淀川の谷の崖を探す. ns. 71 (11) : 2-4.

中条武司 (2025) 昔の人たちのお好みの貝は？ ns. 71 (4) : 54-55.

中条武司 (2025) 特別展の作り方. ns. 71 (10) : 126-128.

＜学会発表＞

石井陽子 (2026) 博物館所蔵ボーリング標本を用いた学校向け貸し出し教材開発による地学教育支援. 第33回全国科学博物館協議会研究発表大会資料 : 93-99.

中条武司・横山康子・いけず石調査グループ (2025)「いけず石」に用いられる石製品から探る地域文化. 日本地質学会第131年学術大会（熊本）講演要旨 : T3-O-5.

Ⅷ. 館外活動・社会貢献など

報文一覧にふくまれない館外活動をここに採録した。

川端　清司

吹田市文化財保護審議会委員
公益財団法人日本博物館協会参与
公益財団法人日本博物館　第73回全国博物館大会（大阪市）大会運営責任者
全国科学博物館協議会理事
一般財団法人　大阪科学技術センター評議員
地質の日事業推進委員会　副委員長
地学団体研究会大阪支部運営委員
大阪公立大学非常勤講師「博物館経営論」

藤田　浩明

大阪公立大学非常勤講師「博物館資料保存論」
大阪芸術大学非常勤講師「博物館資料保存論」「工芸特論Ⅱ」
博物館における資料保存に関する研修・技術指導（モンゴル博物館等関係者）

和田　岳

日本生態学会関西地区会自然保護専門委員会　委員
大阪府環境影響評価審査会　委員
大阪府レッドデータブック事業専門部会　委員
堺市レッドリスト・堺市外来種アラートリスト改訂懇話会構成員
京都府レッドデータブック改訂専門委員会　鳥類分科会委員
枚方京田辺環境施設組合オオタカ保全専門家会議　委員
安威川ダムの自然環境保全対策等に関する懇話会　委員
西日本高速道路株式会社　新名神高速道路淀川橋工事環境アドバイザー
関西自然保護機構　事務局長

石田　惣

日本貝類学会評議員・研究連絡誌「ちりぼたん」編集幹事
日本ベントス学会自然史学会連合派遣委員
軟体動物多様性学会「Molluscan Diversity」編集委員
環境省モニタリングサイト1000沿岸域調査検討会委員（磯分科会座長）

淀川環境委員
奈良県自然環境保全審議会専門委員（奈良県レッドデータブック改訂その他無脊椎動物分科会委員）
大阪府レッドデータブック事業専門部会　委員
堺市レッドリスト・堺市外来種アラートリスト改訂懇話会　構成員
大阪公立大学非常勤講師「博物館資料保存論」
神戸大学非常勤講師「臨海実習I（動物）」
奈良女子大学非常勤講師「博物館展示論」

松井　彰子
日本魚類学会　代議員
日本魚類学会　学会賞選考委員
大阪府レッドリスト検討委員
関西自然保護機構　運営委員
淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク　理事
城北ワンドイタセンパラ協議会　協議会員
阪南２区人工干潟　調査協力
テレビ岸和田　潜水調査・ナレーション協力

松本　吏樹郎
日本昆虫学会代議員
関西昆虫学研究会運営委員
滋賀県生き物総合調査委員会昆虫類部会
奈良県レッドデータブック改訂分科会委員
奈良県希少野生動植物保護専門員
大阪府レッドリスト改訂検討委員会委員
生駒市市史編纂委員
堺市レッドリスト・堺市外来種アラートリスト改訂懇話会構成員
大阪公立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

長田　庸平
南大阪昆虫同好会編集幹事

藤江　隼平
日本甲虫学会渉外・図書管理幹事
日本甲虫学会大阪例会運営委員
大阪府レッドリスト改訂検討委員会委員
蒜山自然再生協議会鳩ヶ原昆虫調査員

佐久間　大輔
和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会 委員長(岸和田市・貝塚市)
大阪府環境審議会生物多様性地域戦略部会委員
京都府レッドデータ改訂検討委員会
京都府希少野生生物保全専門委員会
京都府生物多様性地域戦略の改定等に関する専門委員会
日本博物館協会「新登録制度実行のための体制の検討・整備に係る検証・普及事業」に係るアドバイザリー・ボード委員
明石文化博物館あり方検討委員会委員
環境省大台ケ原自然再生推進委員
近畿中国森林管理局保護林管理委員会委員
特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク　理事
デジタルアーカイブ学会評議員
日本菌学会代議員
日本生態学会誌 日本生態学会誌編集委員
和歌山大学 非常勤講師「博物館経営論」
奈良女子大学非常勤講師「博物館展示論」分担
大阪公立大学非常勤講師「博物館展示論・経営論」分担
東京都自然環境デジタルミュージアムに係る機能詳細検討会委員
東京都自然環境デジタルミュージアム情報基盤検討会委員
堺市レッドリスト・堺市外来種アラートリスト改定懇話会構成員

長谷川　匡弘
大阪府レッドリスト改訂検討委員会委員
環境省レッドリスト大阪府主任調査員
大阪府文化財保護審議会委員
淀川環境委員

横川　昌史
河内長野市文化財保護審議会委員
岸和田市環境審議会 環境審議会委員
日本植物分類学会 研究・普及推進委員
日本植物分類学会 講演会担当委員
日本生態学会近畿地区会 委員
大阪府レッドリスト選定ワーキンググループ

久保田　克博
北海道大学総合博物館 資料部研究員

中条　武司
日本堆積学会運営委員および行事委員
地学団体研究会大阪支部委員
大阪府環境審議会温泉部会専門委員
大阪公立大学非常勤講師「博物館展示論」「博物館経営論」
京都大学大学院理学研究科非常勤講師「地層フィールド科学」

石井　陽子
土壌汚染対策コンソーシアム（CSCC）　アドバイザー
公益社団法人地盤工学会　Urban Geo-informatics 国内委員会（ATC10）委員

Ⅸ．外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要綱（https://omnh.jp/page-12511）により、令和７年度に受け入れた外部研究員を表１に示す。

表１

受入期間：2025年４月１日～2026年３月31日

氏名	種別	依頼元	担当学芸員
有山　啓之	外来研究員	本人	石田　惣
安藤　義範	外来研究員	本人	長谷川匡弘
市毛　勝義	外来研究員	本人	松本吏樹郎
伊藤　建夫	外来研究員	本人	藤江　隼平
伊藤　昇	外来研究員	本人	藤江　隼平
井藤　竜大	外来研究員	本人	松本吏樹郎
井上　泰江	外来研究員	本人	松本吏樹郎
乾　公正	外来研究員	本人	和田　岳
植村　修二	外来研究員	本人	長谷川匡弘
梅原　徹	外来研究員	本人	横川　昌史
大久保泰和	外来研究員	本人	佐久間大輔
大古場　正	外来研究員	本人	石田　惣
太田　陽子	外来研究員	本人	横川　昌史
大住　克博	外来研究員	本人	横川　昌史
大谷　道夫	外来研究員	本人	石田　惣
大宮　正也	外来研究員	本人	松本吏樹郎
小倉　徹也	外来研究員	本人	川端　清司
柿沼　進	外来研究員	本人	松本吏樹郎
笠城　道男	外来研究員	本人	松本吏樹郎
梶原　秀高	外来研究員	本人	長谷川匡弘
数見　保則	外来研究員	本人	横川　昌史
角野　康郎	外来研究員	本人	横川　昌史
金澤　至	外来研究員	本人	長田　庸平
川上　誠太	外来研究員	本人	石田　惣
河上　康子	外来研究員	本人	藤江　隼平
河村　善也	外来研究員	本人	前川　匠 和田　岳
北村　美香	外来研究員	本人	石井　陽子
熊澤　辰徳	外来研究員	本人	松本吏樹郎

倉園　知広	外来研究員	本人	横川　昌史
近藤　高貴	外来研究員	本人	石田　惣
迫田　昌宏	外来研究員	本人	長谷川匡弘
佐藤　隆春	外来研究員	本人	中条　武司
釋　知恵子	外来研究員	本人	石井　陽子
初宿　成彦	外来研究員	本人	藤江　隼平
末長　晴輝	外来研究員	本人	藤江　隼平
菅井　薫	外来研究員	本人	佐久間大輔
鈴木　寿之	外来研究員	本人	松井　彰子
平　祥和	外来研究員	本人	松本吏樹郎
高田みちよ	外来研究員	本人	松井　彰子
髙萩　敏和	外来研究員	本人	佐久間大輔
竹本　拓史	外来研究員	本人	石井　陽子
谷田　一三	外来研究員	本人	松本吏樹郎
田村芙美子	外来研究員	本人	松本吏樹郎
樽野　博幸	外来研究員	本人	前川　匠 和田　岳
趙　哲済	外来研究員	本人	中条　武司
塚腰　実	外来研究員	本人	西野　萌
長江眞紀子	外来研究員	本人	石田　惣
鳴橋　直弘	外来研究員	本人	長谷川匡弘
西澤真樹子	外来研究員	本人	和田　岳
畠　康平	外来研究員	本人	横川　昌史
畑山武一郎	外来研究員	本人	藤江　隼平
波戸岡清峰	外来研究員	本人	松井　彰子
濱田　信夫	外来研究員	本人	佐久間大輔
板東　誠	外来研究員	本人	佐久間大輔
別所　孝範	外来研究員	本人	中条　武司
堀江　明香	外来研究員	本人	和田　岳 石田　惣
松江実千代	外来研究員	本人	石井　陽子
松岡　數充	外来研究員	本人	西野　萌
松田　潔	外来研究員	本人	藤江　隼平
松田　真平	外来研究員	本人	長田　庸平
丸井　英幹	外来研究員	本人	長谷川匡弘
丸山健一郎	外来研究員	本人	佐久間大輔
道盛　正樹	外来研究員	本人	佐久間大輔
村井　貴史	外来研究員	本人	石田　惣
安井　通宏	外来研究員	本人	藤江　隼平
山内　悠司	外来研究員	本人	長田　庸平
山住　一郎	外来研究員	本人	長谷川匡弘
山西　良平	外来研究員	本人	石田　惣
山本　睦徳	外来研究員	本人	川端　清司
山本　好和	外来研究員	本人	佐久間大輔
吉澤　聡史	外来研究員	本人	松本吏樹郎
米津　晃	外来研究員	本人	松本吏樹郎
渡邊　克典	外来研究員	本人	石井　陽子
受入期間：2025年５月１日～ 2026年３月31日			
河野　勝行	外来研究員	本人	藤江　隼平
受入期間：2025年６月１日～ 2026年３月31日			
木野田　毅	外来研究員	本人	藤江　隼平

期間内に外来研究員が公表した論文、著書などの業績は下の通り（学会発表は含まない）。一重下線が当館外来研究員。館出版物に掲載された論文等は刊行物（47ページ）の項に、学芸員が共同執筆している論文等は学芸員の研究成果（４～７ページ）に掲載している。

天野治紀・河野勝行（2026）コマダラナガカメムシの伊豆諸島初記録となる八丈島からの発見．月刊むし（660）：61.

Aoya, K., Iwata, T., Noda, S., Yuki, M., Takahashi, D., and Tanida, K.（2026）Seasonal dynamics of benthic macroinvertebrate community in a highly acidic geothermal stream of the Tamagawa Hot Spring area, northern Japan. Limnology 27: 335–345. https://doi.org/10.1007/s10201-025-00821-9

Ariyama, H., Kohtsuka, H., Hoshino, O., Kodama, M., Moritaki, T. and Chen, C.（2025）*Lobatoradarea*, a new genus of the family Calliopiidae Sars, 1895（Crustacea: Amphipoda）from Japan, with descriptions of ten new species. Zootaxa 5699（1）：1–72.

有山啓之（2025）日本産“フナムシ”３種の色彩について．南紀生物 67（2）：123–126.

坂東　誠（2025）池田市細郷地域で確認した地衣類．池田人と自然の会だより（159）：17–18.

Damaška, A. F., Fikáček, M., Suenaga, H., Lee, C.-F., Náhlovský, J., Bryjová, A., and Munclinger, P.（2025）Complex evolution and biogeographic history of mossinhabiting flea beetles from the Taiwan–Ryukyu Island Arc（Coleoptera: Chrysomelidae: Alticini）. Systematic Entomology e70013：1–17.

Guerra-García, J. M. and 59 authors（including Ariyama, H.）（2025）The spread of *Aoroides longimerus* Ren & Zheng, 1996 across the Mediterranean and the Atlantic: genetic diversity, anthropogenic transport, and ecological implications. Mediterranean Marine Science 26（4）：842–859.

浜田信夫・馬場　孝・原田一宏・荻野文敏（2025）靴のカビ汚染の特徴と季節変動．環境管理技術 43：151–162.

浜田信夫・原田一宏・御厨真幸・荻野文敏（2025）靴のカビ汚染に関する要因とその対策．環境管理技術 43：233–242.

波戸岡清峰（2025）1-1．クロアナゴ属の分類学．片山知史・望岡典隆・東海 正編著，「あなご」とは　身近で不思議なナガモノの生態，恒星社厚生閣，東京，pp.1–4.

星野　修・有山啓之・今原幸光（2026）ホソヨコエビ属の営巣によるトゲナシヤギ（八放サンゴ綱）の成育阻害．うみうし通信（130）：6–7.

市毛勝義（2025）*Polypathomyia stackelbergi* アシマダラニセヒメコバエ（双翅目：ニセヒメコバエ科）の京都府からの記録．はなあぶ（59）：10–11.

市毛勝義（2025）*Psarochilosia djakonovi* プサロクロハナアブの四国からの記録．はなあぶ（59）：17.

市毛勝義（2025）日本産アリノスアブ亜科の未記載種の属名についての考察．はなあぶ（60）：65–66.

市毛勝義（2025）日本産ハネフリバエ科に関するいくつかの記録．はなあぶ（60）：68–70.

池田裕介・北村美香（2025）参加者自身が学びの機会を選べる教育普及事業を目指して―高槻市立自然博物館での企画展と関連イベントの事例紹介―．金属 95（9）：28–34.

稲田　晃・西村祥子・金子陽子・上中央子・島村健二・志水里美・松江実千代・林　竜馬（2025）滋賀県彦根市芹川の段丘堆積物の花粉分析結果―植生変遷および姶良Tn火山灰の降灰季節とその植生への影響．第四紀研究 64（4）：79–97.

石川　輝・石井健一郎・松岡數充・今井一郎（2025）海産珪藻類の新たな生活史戦―浮泥層中の珪藻細胞に着目して―．日本プランクトン学会報 72：52–54.

伊藤建夫（2025）関西甲虫談話会1000号記念―水野弘造さんの思い出によせて―．関西甲虫談話会資料（22）：35–36.

Ito, T.（2025）Notes on the species of Staphylinidae from Japan XXVIII. Description of a new species of the genus *Lobrathium* from Okinawa Pref. Elytra, Tokyo, New Series 15（1）：65–68.

伊藤建夫（2025）アミメクビボソハネカクシの分布記録．さやばねニューシリーズ（58）：50.

伊藤建夫（2025）林靖彦さんを偲んで．さやばねニューシリーズ（58）：72–74.

伊藤建夫・的場　績・金子道夫（2025）コケシトガリハネカクシ分布記録．さやばねニューシリーズ（58）：16.

Iwasaki, K., Kawamura, A., Kim, H. Y., Kawamura, Y., Chang, C.-H. and Mitamura, M.（2025）Holocene terraces along the Tsailiao River, Western Foothills, southwest Taiwan: Lithofacies, chronology, fossil assemblages, and neotectonic implications, Island Arc 34（1）: https//doi.org/10.111/iar.70016

岩嵜広大・河村　愛・河村善也・張　鈞翔・三田村宗樹（2025）台湾の陸上で最も重要な第四紀哺乳類化石産地である台南市菜寮地域の哺乳類化石とその産出層―これまでの研究と今度の展望―．第四紀研究 64（3）：55–75.

川上誠太（2025）神戸市産貝類目録（1944）掲載種の情報源の推定復元．ちりぼたん55（1–2）：1–32.

川上誠太（2025）兵庫県における陸淡水産貝類相調査の歴史　明治編―陸貝３種のタイプ産地に関する新解釈も提示―．かいなかま59・60：29–54.

河上康子・平田慎一郎・澤田智子（2025）昆虫類・クモ類．ちきりアイランドの人工干潟における環境保全活動実践業務令和７年度報告書：24–29.

河上康子・平田慎一郎 2025．きしわだ自然資料館昆虫類収蔵目録（5）：甲虫目コガネムシ科（コフキコガネ亜科II, スジコガネ亜科I）．きしわだ自然資料館研究報告．（10）：31–38.

河村 愛・河村善也（2026）東アジアにおけるシロハラネズミ属化石の分布．愛知教育大学研究報告（自然科学編）75：1–8.

金澤　至（2026）フジバカマ園での白絹病対策など；訪花植物や食草の栽培テクニック2. We love! アサギマダラ情報（305）：13–15.

木村全邦・土永浩史・道盛正樹・藤井久子・盛口　満（2025）奈良県におけるクマノチョウジゴケ（キセルゴケ科）の新産地と近畿地方における胞子体形成時期．奈良植物研究（46）：1–4.

北村美香（2025）文化・歴史のなかのスッポン．亀崎直樹編著，日本のいきものビジュアルガイド はっけん！スッポン，緑書房，東京, pp.128–137.

北村美香・池田裕介・大久保その子（2026）ワークショップにおける実施環境改善の実践的検討―親子の対話と体験の持続性に着目して―．Musa 博物館学芸員課程年報（40）：33–40.

北村美香・釋 知恵子ほか（2026）シンポジウム博物館でおこなわれるワークショップの実践知の共有をめざして報告書．ワークショップ評価研究会．84pp.

近藤高貴・佐野　勲（2025）タガイ属４種の貝殻形態．ちりぼたん 55：130–138.

河野勝行（2025）日本におけるイチジクカサンの最も早い目撃事例となる石垣島での観察．蛾類通信（315）：450–451.

河野勝行（2025）鈴鹿市岸岡山緑地公園における2018年～2023年のアサギマダラ標識調査．ひらくら 69（4）：75–80.

河野勝行（2025）秋から咲き始めるホトケノザとその白花型．自然誌だより（三重自然誌の会）（146）：2–3.

河野勝行（2026）三重県で初めて発見されたコブハサミムシに寄生するハエ．ひらくら 70（1）：6–8.

河野勝行（2026）追補：鈴鹿市岸岡山緑地公園における2018年～2023年のアサギマダラ標識調査．ひらくら 70（1）：14.

河野勝行・新開 孝・中谷至伸（2025）ヤエヤマアカナガカメムシ*Thunbergia* sp.（マダラナガカメムシ科）の新寄主植物オオバナアサガオ（キョウチクトウ科）．Rostria（70）：124–126.

Suzuki, T., Li, H.-E. and Chen, I-S.（2025）***Lepusigobius***, a new generic name proposed for ***Gobiosoma pallida*** Herre, 1934（Gobiiformes: Gobiidae）from west Pacific with re-description of the species. Zootaxa 5738（no. 1）: 13–26. DOI: 10.11646/zootaxa.5738.1.5

Matsuda, K., and Ogata, Y.（2026）A review of the handsome fungus beetles of the genus *Panaleies* TOMASZEWSKA, 2000（Coleoptera: Endomychidae）from Japan, with description of a new species. Giornale italiano di Entomologia 17（71）: 389–402.

Matsuda, K., Ong, U. and Lee, C.-F.（2025）A new species of the genus ***Lycostomus*** MOTSCHULSKY, 1861（Coleoptera, Lycidae）from Taiwan. Elytra, New Series 15（1）: 95–100.

松田　潔・須田　亨（2025）群馬県におけるクロサハナボタルの初記録．さやばねニューシリーズ（59）：24–25.

松田真平・山本雄二・奥津晶彦（2026）生駒山地のシタベニハゴロモ・2025 年の記録．大昆Crude（70）：12.

松田真平（2026）生駒山地南部でシロズアツバ（ヤガ科）とオオミノガ（ミノガ科）を採集．大昆Crude（70）：15.

松田真平（2026）春型に近い斑紋のギンイチモンジセセリを８月下旬に採集，および同地で同時採集したガ類について．大昆Crude（70）：18.

松田真平（2026）大阪市産クロマダラソテツシジミのソテツ１本からの発生数の記録.大昆Crude（70）：19.

松岡數充（2025）I-3 大村湾―超閉鎖系内湾．長崎地学会編，ジオ長崎－空・海・山の地球科学―，長崎文献社，長崎, pp. 32–42.

松岡數充（2025）渦鞭毛藻．仲村康秀・山崎博史・田中隼人編，水の中の小さな美しい生き物たち，朝倉書店，東京, pp. 76–81.

松岡數充（2025）水圏パリノモルフ群集の構成生物（第一報 一次生産者）．化石 118：5–18.

松岡數充（2025）水圏パリノモルフ群集の構成生物（第二報 低次消費者）．化石 118：19–34.

松岡數充・石井健一郎（2025）珪藻と渦鞭毛藻の休眠細胞から見るdual nomenclature 生物命名規約における休眠胞子（化石種）の位置づけ．日本プランクトン学会報 72：49–50.

Matsuoka, K. and Tanimura, M. W. L. T.（2025）Wat factors control the distribution of aquatic palynomorphs in surface sediments of Osaka Bay, central Japan? With special reference to the cysts of ***Alexandrium catenella/pacificum***（Dinophyceae）. Paleontological Research 29: 149–168, DOI: 10.2517/prpsj.250002

村井貴史（2026）マイコトラガ. ns. 72：29, 40.

中田勝之・八神徳彦・大宮正也（2025）2024年に石川県白山市白峰の焼畑で火入れ後の熱い地面に潜るツマグロキンバエの記録．石川県白山自然保護センター研究報告（51）：65–66.

西澤真樹子（2025）読書のすすめ2025「クジラがしんだら」「化石をみつけた少女―メアリー・アニング物語―」．全科協ニュース55（6）：2–3.

西澤真樹子（2025）博物館と人々をつなぐ活動 前編「なにわホネホネ団」の活動．理科教育ニュース（1284）：2–3.

西澤真樹子（2026）博物館と人々をつなぐ活動 後編「て

こぽこさんとはくぶつかん」の活動．理科教育ニュース (1286) : 2–3.
岡本素治・塚腰　実 (2025) 化石研究のためのヒシ属果実の形態学的観察ノート―ヒシ属とアスナロビシの果壁の構造差に言及．きしわだ自然資料館研究報告 (10) : 1–9.
大古場　正 (2025) カワムラガイの記録．ひたちおび (142) : 20–21.
大古場　正・北藤眞人 (2026) せんなん里海公園で見つかったカヤノミカニモリ．ns. 72 : 32.
大宮正也 (2025) 徳之島で採集した有弁翅類の記録．はなあぶ (60) : 50–55.
大宮正也 (2025) 岩手県の有弁翅類の記録．はなあぶ (60) : 58–62.
大宮正也・川瀬英夫 (2025) 岐阜県でニッポンシカシラミバエを採集．はなあぶ (59) : 36–37.
大宮正也・川瀬英夫・高井　泰 (2025) 2024年白山の有弁翅ハエ類の記録．啓蟄43 (80) : 5–10.
大宮正也・大石久志・柿沼　進 (2025) 京都府と大阪府で採集された珍しいカトリバエ属2 種 (双翅目，イエバエ科)．はなあぶ (59) : 44–46.
大住克博 (2025) 森林管理の視点から広葉樹資源活用論を考える―採取林業に堕とさないために―．林業経済 78 (5) : 1–11.
Oyama, D., Saito, H., Fukatani, M., Arao, K., Suzuki, T. and Senou, H. (2026) *Rhinogobius brunneus* collected from Hachijo-jima island: first specimen-based records of the genus Rhinogobius (Teleostei: Gobiidae) in the Izu Islands, Tokyo Metropolis, Japan. Aquatic Animals, DOI: 10.34394/aquaticanimals.2026.0_AA2026-11
Sano, I. and Kondo, T. (2025) Revision of *Sinanodonta* species (Bivalvia: Unionidae) native to Japan with description of two new species. Venus 83: 43–55.
Sasaki, D. Sugimoto, S. and Yamauchi, Y. (2025) Additional records of a non-native species, *Thelaxes suberi* (Hemiptera: Aphididae: Thelaxinae) on its distribution, host plant, and attending ant in Japan, with notes on its nymphal morphology and phenotypic plasticity. Japanese Journal of Systematic Entomology, 31 (1) : 64–68.
佐藤隆春・山口卓也 (2025) 大阪府南東部の寺ヶ池安山岩の産状．地球科学 79 (4) : 229–232.
釋 知恵子 (2025)【紹介】大阪市立自然史博物館 特別展「学芸員のおしごと」について．全日本博物館学会学会ニュース152 : 11.
釋 知恵子 (2025) 読書のすすめ2025「みーつけた！生きものからの挑戦状 冬の生きものをさがせ！」「わたしたちのカメムシずかん やっかいものが宝ものになった話」．全科協ニュース55 (6) : 3–4.
釋 知恵子 (2026) アベノバシ半径２㎞をめぐる記憶．アベノバシ半径２㎞プロジェクト2025年度活動報告 : 35–38.
釋 知恵子 (2025) 分科会１「スマートミュージアムの可能性」報告②「大阪博」事業は博物館をどう変えたのか．第73回全国博物館大会資料Ⅱ　レジュメ集 : 14–15.
釋 知恵子 (2025)【紹介】大阪市立自然史博物館 特別展「学芸員のおしごと」について．全日本博物館学会 学会ニュース152 : 11.
白金晶子・谷田一三 (2026) 矢作川中流 (扇状地区間) のLED 灯火パントラップで確認されたトビケラ目成虫．矢作川研究 (30) : 17–27.
初宿成彦 (2025) 講演会「北海道の昆虫化石」記録．幕別町忠類ナウマン象記念館2024年度事業実施報告書 : 35–40.
初宿成彦 (2025) 滋賀県産ハネカクシ科29種の記録．Came虫 (220) : 18–19.
Shiyake, S. (2025) Two circumpolar ground beetle species (Coleoptera: Carabidae) were in Hokkaido, Japan, late in the Last Glacial period. Quaternary, 8, 22. https://doi.org/10.3390/quat8020022
初宿成彦 (2025) ハルゼミとエゾハルゼミの分布の現状把握と形成史解明２ 徳島県剣山におけるエゾハルゼミの分布状況．Cicada 32 (1) : 9.
初宿成彦 (2025) 大阪でのクマゼミ初鳴日記録への協力依頼．Cicada 32 (1) : 24.
初宿成彦 (2025) ユーカリの樹とユーカリハムシを滋賀県内で探しています．Came虫 (221) : 5.
初宿成彦 (2025) 滋賀県産ヒメドロムシ科７種の追加データ．Came虫 (221) : 8.
初宿成彦 (2025) 滋賀県レッドデータブック2020年版掲載13種の未発表データ．Came虫 (222) : 16–17.
初宿成彦 (2025) 和泉山脈 (大阪府・和歌山県) 西部のヒグラシ空白地帯．Cicada 32 (2) : 48–49.
初宿成彦 (編) (2025) 宮崎県綾ユネスコエコパーク調査観察例会2023・24報告．地域甲虫自然史 (8) : 62pp, 2pls.
初宿成彦 (2025) 江戸時代の七十二候は現代に合わない．青淵 (921) : 17–19.
初宿成彦 (2026) 滋賀県におけるアイヌハンミョウの記録．Came虫 (223) : 15.
初宿成彦 (2026) 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目標本 島根県産未発表データ ―オサムシ科ハンミョウ亜科，ガムシ科，エンマムシ科，コガネムシ科食葉コガ ネ，タマムシ科，オオキノコムシ科，テントウダマシ科，カミキリムシ科カミキリ亜科トラカミキリ族，オトシブミ科，チョッキリ科―．ホシザキグリーン財団研究報告 (29) : 131–137.
菅井　薫 (2026) 困難な歴史をいかに学ぶか：博物館における省察を通じた「自分ごと」化の活路と隘路」．MUSEUM STUDY 明治大学学芸員養成課程紀要 37 : 1–12.
杉谷華世・大住克博 (2025) ヒノキ人工林の下層における4種の樹木個体群の間伐に対する応答．日本森林学会誌　107 : 215–224.
末長晴輝・神澤由己・南　雅之・宮内博至・吉武　啓 (2025) オーストラリアからの移入種アカエリクビボソハムシ (新称) *Oulema rufotincta* (Clark) (コウチュウ目ハムシ科クビボソハムシ亜科) の日本における初記録．さやばねニューシリーズ (60) : 50–55.
平　祥和 (2025) 捕虫カップ掛置式UV-LED ライトトラップの試作とその効果の検証．陸水生物学報 (40) : 13–19.
竹村　望・西澤真樹子 (2025) てこぽこさんとはくぶつかんについて．from M (93) : 1–2.
玉田亮太・戸篠　祥・村井貴史・奥泉和也 (2025) 長崎県で採集された国内2例目のインテグラルクラゲ *Orchistoma integrale* (ヒドロ虫綱、軟クラゲ目)．日本生物地理学会会報 80 : 62–68.
Tanaka, Y. and Taruno, H. (2025) Two new materials of whale remains from the Holocene (Quaternary) of Osaka, Japan: filling the age of lacking reports on Holocene baleen whales from Japan. Mammal Study 50 (3) : 297–305.

谷田一三・平　祥和（2025）大阪府四條畷市室（むろ）池のトビケラ相（予報）．陸水生物学報（40）：33–41.

Tanimura, M. W. L., Kayama, M. and Matsuoka, K.（2026）Evolutionarily Distinct Enzymes Uncovered through Sequence Similarity Network Analysis of De Novo Transcriptomes from Underexplored Protist Axenic Cultures. fermentation–4067467.

Tanimura, M. W. L., Nagai, Y., Matsuoka, K. and Toyofuku, T.（2025）Endogenous glycoside hydrolases reveal foraminiferal capacity to degrade terrestrial and marine polysaccharides. ISME Communications 5（1）: ycaf149. https://doi.org/10.1093/ismeco/ycaf149

Tomikawa, K. Yamato, S. and Ariyama, H.（2025）Black–and–white disruptive coloration may be convergent: a new species of *Melita* Leach, 1814（Amphipoda: Melitidae）from Japan. Zoological Science 42（6）: 605–619.

梅原　徹（2025）大阪の植物―最近30年の変化と要因―．都市と自然 50（2）：4–7.

脇　悠太・高塚和彦・末長晴輝（2025）ルイスコトビハムシをナチシダで採集．さやばねニューシリーズ（60）：82.

山本好和・畑中幸次郎・中村康則・鹿野雄一（2025）熊本県産の興味ある地衣類Ⅰ．南紀生物 67（1）：11–14.

山本好和・阿部ちひろ・伊東真那実・綿貫　攻・草間裕子・高橋奏恵・川上寛子・原 光二郎・小峰正史（2025）秋田県仙北市田沢湖畔の地衣類．南紀生物 67（1）：43–48.

山本好和・盛口　満（2025）鹿児島県沖永良部島の地衣類．南紀生物 67（1）：79–83.

山本好和・堀木　俊・木村優紀・上杉 毅（2025）長崎県佐世保湾岸の地衣類．南紀生物 67（2）：114–118.

山本好和・安斉唯夫・石原　峻・中野　剛・松崎　務・Wei X.–L.（2024）長野県産の興味ある地衣類Ⅰ．南紀生物 67（2）：144–148.

山本好和・坂東　誠・高萩敏和・川上寛子（2025）京都府産の興味ある地衣類Ⅵ．南紀生物 67（2）：180–184.

山本好和・佐藤幸子・鈴木まほろ（2026）岩手県岩手山の地衣類．岩手県立博物館研究報告（43）：1–7.

山本好和・佐藤幸子・鈴木まほろ（2026）岩手県花巻市大沢温泉の地衣類．岩手県立博物館研究報告（43）：8–11.

山内健生・松田　潔（2025）富山県の山地においてマレーズトラップで捕獲されたベニボタル科とホタルモドキ科．さやばねニューシリーズ（59）：39–41.

山内悠司（2025）タテスジヒメジンガサハムシの冬季の採集例．月刊むし（656）：60–61.

山内悠司・新田　亘・畠佐代子（2025）京都府におけるマルヒラタガムシの新産地．ns. 71：62.

山内悠司（2026）大阪市内におけるキイロヤマトンボの追加記録．ns. 72：5.

山内悠司・鈴木真裕（2025）大阪府と和歌山県でシンジュキノカワガ（コブガ科）を春期に採集．誘蛾燈（261）：117–118.

山内悠司・鈴木真裕・喜多亮介（2025）冬季に大阪府堺市のため池から採集されたヒメケシゲンゴロウの記録．月刊むし．（657）：53.

米山団体研究グループ（著者に佐藤隆春を含む）（2025）鮮新―更新統米山層にみられる直立した火山岩層．地球科学 79（3）：113–115.

米山団体研究グループ・相澤正隆・飯川健勝・金井克明・黒金道雄・大野隆一郎・佐藤隆春・佐藤和平・仙田幸造・寺崎紘一・徳間正一・山元正継・矢野孝雄（2025）柏崎市谷根の米山層：火山層序と堆積環境．地球科学 79（3）：120–148.

吉澤聡史（2025）岡山県真庭市におけるミドロミズアブ（双翅目：ミズアブ科）の記録．はなあぶ（60）：1.

吉澤聡史（2025）関東地方におけるウミベカトリバエとイワミハマカトリバエ（双翅目：イエバエ科）の新記録．衛生動物（76）：151–152.

Yurimoto, T., Chaweepack, T., Matsuoka, K. and Sangrungruang, K.（2025）Histological conditions of farmed oysters during the rainy season in Welu Estuary, Thailand. Research in Marine Sciences 10: 825–836.

X．収蔵資料を利用した研究

収蔵資料を研究材料として利用した論文リストは次の通りである。

■動物標本

Ariyama H., Kohtsuka H., Hoshino O., Kodama M., Moritaki T. and Chen C.（2025）Lobatoradarea, a new genus of the family Calliopiidae（Crustacea: Amphipoda）from Japan, with descriptions of ten new species. Zootaxa 5699（1）: 1–72.

福田　宏（2025）佐多岬の浜辺に打ち上げられたマボロシリュウグウボタル（新腹足目：マクラガイ上科：リュウグウボタル科）．Molluscan Diversity 7：63–73.

福田　宏・池田　等・石田　惣・芳賀拓真（2025）アコヤエビス（古腹足類：ニシキウズ目：エビスガイ科）の学名 *Akoya akoya*（Y. Hirase, 1922）の適格性と有効性，ならびに胎殻・頭部―腹足・歯舌・顎板の形態．Molluscan Diversity 7：11–25.

Fukuda H. and Kubo H.（2025）A new species of *Ovassiminea* Thiele, 1927（Gastropoda: Truncatelloidea: Assimineidae）from the Yaeyama Islands, Okinawa, southern Japan　— the northernmost record among recent species of the genus. Molluscan Research 45: 58–73.

邉見由美・前之園唯史（2025）京都府舞鶴湾と島根県隠岐諸島西郷湾から採集されたノコハオサガニの小型個体について．Cancer 34：e7–e11.

Kronenberg G. C.（2025）Notes on *Canarium* sensu Abbott. 1. The primary types of two species currently assigned to *Maculastrombus* Liverani, Dekkers & S. J. Maxwell, 2021 and recognition of the epifamily Stromboidae Rafinesque, 1815（Caenogastropoda: Strombidae）. Basteria, 89（1）: 24–28.

近藤高貴・佐野 勲（2025）タガイ属 4 種の貝殻形態．ちりぼたん 55：130–138.

Nakajima H. and Naruse T.（2025）Description of a new littoral mantis shrimp species of the genus *Bigelowina*（Crustacea: Stomatopoda: Nannosquillidae）from Japan, with a note on the identity of a congeneric species from the Ryukyu Islands. Species Diversity 30: 213–224.

Nishi E., Abe H., Jimi N., Tanaka K., Kobayashi G. Makiguchi N. and Kupriyanova E. K.（2025）Description of a reef–forming *Neosabellaria upopoy* sp. nov.（Annelida: Polychaeta: Sabellariidae）from shallow waters off Iburi, Hokkaido, Japan, with notes on its reproduction and early development. Sessile

Organisms 42 (1) : 1–17.
Ota Y. and Yoshimatsu S. (2025) Two gnathiid isopods utilizing empty tubes of the polychaete worm *Spirobranchus akitsushima* in the Seto Inland Sea, western Japan, with the description of a new species. Plankton and Benthos Research 20 (4) : 248–262.
太田悠造・吉松定昭 (2025) 瀬戸内海から見つかったシカツノウミクワガタ属 2 種の記録 (等脚目：ウミクワガタ科). Nature of Kagoshima 52: 135–138.
阪口正樹 (2025) 瀬戸内海で見つかったトゲアリンコワレカラ (新称) *Perotripus koreanus* (甲殻綱: ワレカラ科). 南紀生物 67 (2) : 151–156.
Sano I. and Kondo T. (2025) Revision of *Sinanodonta* species (Bivalvia: Unionidae) native to Japan with description of two new species. Venus 83: 43–55.
Sawada N., Kameda Y. and Fukuda H. (2025) *Cavernacmella dentata* n. sp. (Caenogastropoda: Truncatelloidea: Assimineidae) endemic to the Sekigahara Limestone Cave, central Honshū, Japan. Molluscan Research 46: 49–67.
Sawada N., Kirinoki M. and Fukuda H. (2026) *Oncomelania hupensis iriomotensis* n. ssp. (Caenogastropoda: Truncatelloidea: Pomatiopsidae) from waterfalls on Iriomote Island, Okinawa, southern Japan. Malacologia 68 (1–2) : 81–108.
Suzuki T., Li H-E. and Chen I-S (2025) *Lepusigobius*, a new generic name proposed for *Gobiosoma pallida* Herre, 1934 (Gobiiformes: Gobiidae) from west Pacific with re-description of the species. Zootaxa 5738 (1) : 13–26.
内野　透・布部淳一・徳丸直輝・野元彰人 (2025) 高知県宿毛市で発見されたオイランカワザンショウ (腹足綱：カワザンショウ科). Molluscan Diversity 7: 45–52.
内野　透・相馬理央・津下麻樹・馬場涼平 (2025) 徳島県で採集されたタブネドブガイ属の一種. ちりぼたん 55 (1–2) : 162–170.
山川宇宙・山下龍之丞・山本貴仁・清水孝昭 (2025) 愛媛県御荘湾で採集されたヒメベンケイガニ. 南予生物フィールドノート 2025: 25007.

■昆虫標本

Arashima H., Oku J., Sohn J-C., Yagi S., Tomura S., Oka T. and Hirowatari T. (2025) Two new species of the genus *Odites* Walsingham, 1891 (Lepidoptera: Peleopodidae) from Japan with taxonomy and larval biology of *Odites sungsookimi* (Sohn & Wu, 2023) comb. nov. Zootaxa 5716 (3) : 349–364.
Hsu C-T., Yanagisawa S., Ohgita S., Hiruta S.F., Huang C-Y., Yeha W-B. (2025) New Species of the Genus *Perisphaerus* Audinet-Serville, 1831 (Blattodea: Blaberidae) from Japan and Taiwan, and Redescription of the Female of *Perisphaerus pygmaeus* Karny, 1915. Japanese Journal of Systematic Entomology, 31 (1) : 185–197.
Imada S., The Type Specimens of the Genera *Choragus* Kirby and *Melanopsacus* Jordan (Coleoptera: Anthribidae) Described by the Japanese Authors: Towards a Revision of the Tribe Choragini from Japan, Part 1. Japanese Journal of systematic Entomology 31 (1) : 140–147.
Kato D. (2025) A new genus of the subfamily limnophilinae (Diptera: Limoniidae) with unspurred tibiae from Japan. Journal of Asia-Pacific Biodiversity 18: 886–891.
Nakamine H. (2025) A new synonym of *Isoscelipteron pectinatum* (Navás, 1905) (Neuroptera: Berothidae) from Japan. Journal of Insect Biodiversity 63 (1) : 26–29.
Nakamura R., Takahashi K. (2025) A New Species of the Genus *Malthinellus* (Coleoptera: Cantharidae: Malthininae) from Yonaguni-jima Island, the Ryukyus, Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 31 (2) : 310–312.
初宿成彦 (2026) 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目標本 島根県産未発表データ ―オサムシ科ハンミョウ亜科，ガムシ科，エンマムシ科，コガネムシ科食葉コガ ネ，タマムシ科，オオキノコムシ科，テントウダマシ科，カミキリムシ科カミキリ亜科トラカミキリ族，オトシブミ科，チョッキリ科―. ホシザキグリーン財団研究報告 (29) : 131–137.
Okano R., Ohnishi O., Tojo K., Yoshitomi H. (2026) Revision of the Genus *Meloe* Linnaeus (Coleoptera: Meloidae) of Japan. Japanese Journal of systematic Entomology 31 (2) : 207–234.
Watanabe K. (2026) Taxonomic Study of Japanese Cryptinae (Hymenoptera, Ichneumonidae), with Descriptions of Six New Species. Bulletin of Kanagawa Prefectural Museum Natural Science (55) : 23–47.
Yanagisawa S., Ohgita S. (2025) New Macropterous Species of the Genus *Nocticola* Bolívar, 1892 (Blattodea: Nocticolidae) from Japan, and Description of Macropterous Form of *N. uenoi* Subspecies. Japanese Journal of Systematic Entomology, 31 (1) : 158–166.

■植物標本

Fukuoka G., Fujii S., Hayakawa H. 2026. Lectotypification of *Potamogeton* × *apertus* (Potamogetonaceae). Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 77 (1) : 41–44.
藤井伸二 2025. ネオタネツケバナ (アブラナ科) の新産地. 植物地理・分類研究 73 (2) : 237–240.
弘岡知樹・横川昌史 2025. 大阪府堺市におけるサデクサの記録. ns. 71 (4) : 11–13.
中野潤子 2026. 瀬戸剛先生とハネミギク. 近畿植物同好会々誌 49 : 8–9.
Oda J., Fuse S., Yamashita J., Katsuyama T., Tamura N.M. 2025. Phylogeny and Taxonomy of *Carex* (Cyperaceae) in Japan II. New Subsect. *Multifoliae* Separated from Subsect. *Pisiformes* s.l. (Sect. Mitratae). The Journal of Japanese Botany 100 (6) : 489–514.
Ohkubo Y., Sakuma D., Masumoto H. 2025. Three new tricholomatoid dark blue *Entoloma* spp. from temperate forests in Japan, with the redescription of *E. cyanonigrum*. Mycoscience 66 (6) : 322–333.
Shiga T., Yamada H., Fujii S., Kato S. 2025. Rapid loss of germinability and gradual loss of physiological activity in Japanese *Dryopteris uniformis* (Dryopteridaceae) spores stored in herbaria. Journal of Asia-Pacific Biodiversity 18 (4) : 845–850.
山住一郎 2025. 大阪市立自然史博物館特別展のご案内と大洞浩一さんの業績等の展示. 日本シダの会会報 4 (51) : 40–41.
山住一郎・岡田梢位 2025. ヒメイワヤナギシダについて.

日本シダの会会報 4 (49) : 1–7.
横川昌史 2025. 大阪府レッドリストに掲載されている種子植物の標本総点検と生育状況の把握 ―大阪府植物誌研究会―. 自然保護助成基金助成成果報告書 34: 91–101.
横川昌史 2025. 関西におけるバルカンノウルシの標本記録. ns. 71 (11) : 5–6.
横川昌史 2026. 淀川水系にやってきた外来水草ヒメタデハグロ. ns. 72 (2) : 7–8.
横川昌史・伊吹寛子 2025. 京都府南部におけるコキクモおよびキクモの標本記録. 植物地理・分類研究 73 (2) : 125–131.
横川昌史・小林　智・森小夜子 2026. 深泥池のフサザキウワミズザクラ（バラ科）の生育状況と近畿地方での標本記録. 近畿植物同好会々誌 49 : 12–16.
横川昌史・志賀　隆 2026. 1896年に採集された大阪府産のヒメシロアサザ（ミツガシワ科）の標本の発見. 大阪市立自然史博物館研究報告 80 : 59–65.

■化石標本

Tanaka, Y. and Taruno, H. (2025) Two new materials of whale remains from the Holocene (Quaternary) of Osaka, Japan: filling the age of lacking reports on Holocene baleen whales from Japan. Mammal Study 50 (3) : 297–305.
田中嘉寛・湯浅万紀子 (2025) 博物館における研究、資料収集保管、教育普及の有機的連携が示す可能性―大阪市立自然史博物館における 7 年間の実践として―. 日本博物館教育学研究 4 : 1–19.

Ⅰ．寄贈および交換標本

■動物研究室

オウギヨコエビモドキのタイプ標本 1点 有山 啓之氏
徳島県のタブネドブガイ属他 3点 内野 透氏
大阪湾の無脊椎動物 12点
大阪湾海岸生物研究会
サラシカエルアマダイのパラタイプ 1点 和田 英敏氏
京都市動物園のジャガー 1点 京都市動物園
奈良県のミナミタガイ 1点 丸山健一郎氏
奄美大島のメジロ他 14点 平城 達哉氏
富田林市のオオバン 1点 今井 玲子氏
松原市のゴイサギ 1点 わたなべ氏
千葉県のカワウ他 2点 宮越 和美氏
ウラウチコダマカワザンショウのタイプ標本
1点 福田 宏氏
西山動物園のフランソワルトン 1点
鯖江市西山動物園
愛知県のミナミタガイ 1点 中村 肇氏
京都府のヒメリンゴマイマイ 1点 稲本 雄太氏
大阪市のオオクビキレガイ 3点 市川 顕彦氏
愛媛県の鳥類 45点 小林 朋子氏
千葉県のキョン 4点 美澤 佑紀氏
枚方市のカワウ 1点 植本 拓治氏
高槻市のメジロ 1点 藤田 芙美氏
平野区のネズミ 1点 花﨑 勝司氏
箕面市のシカ 1点 植本 拓治氏
屋久島のメジロ 1点 小西 祐伸氏
堺市のメジロ 1点 浦野 信孝氏
兵庫県のメジロ 1点 並河 樹氏
兵庫県のメジロ 1点 阿久津淳子氏
山口県のメジロ他 4点 沖田 絵麻氏
和泉市のメジロ他 4点 本田 悦義氏
沖縄県のメジロ他 6点 堀江 明香氏
北海道のウポポイカンムリゴカイ 3点 西 栄二郎氏
天王寺動物園のブチハイエナ 1点 天王寺動物園
淀川区のイタチ 1点 中尾健太朗氏
奈良県のイタチ 1点 前田 一郎氏
大阪湾のカガミダイ他 4点 山下 隆司氏
東住吉区のスズメ 1点 桝井 優斗氏
茨木市のフクロウ 1点
小川 颯太氏・山崎 青葉氏
三重県のフクロウ 1点 宮越 和美氏
イカ釣り用集魚灯 1点
（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所
イカ釣り用集魚灯 1点 榊 修悦氏
京都府のシカ 1点 河野 甲氏
トリガイ種苗標本 13点
京都府農村水産技術センター海洋センター
福井県のズージャンフジツボ他 2点 山下 隆司氏
五月山動物園のアカクビワラビー 1点 五月山動物園
大阪湾の魚類 27点
大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター
日本全国のウミタナゴ類 123点 山本 真士氏
琵琶湖・淀川水系のドジョウ類 72点 三内 悠吾氏
北海道のウトウ・ウミネコ 4点 角谷 晴世氏
舞鶴湾他のノコハオサガニ 17点 邉見 由美氏
大阪湾洲本市沖のベントス 30点
大阪湾海岸生物研究会
五月山動物園のアカクビワラビー 1点 五月山動物園
和歌山県のタヌキ 1点 杉浦 陽子氏
奈良県のテン 1点 河原 和子氏
奈良県のイタチ 1点 河原 風花氏
箕面市のシカ 1点 植本 拓治氏
大阪湾のテヅルモヅル科 1点 北藤 眞人氏
山形県のコタマガイ 1点 里美 嘉英氏
長崎県のエツ 1点 松本 仁氏
沖縄島のリュウキュウアオヘビ 1点 池上 隆之氏
佐渡島のヤマカガシ 1点 西澤真樹子氏
京都府のコゲラ 1点 山田 明子氏
新潟県のキタノメダカ他 3点 中村 肇氏
佐渡島の無脊椎動物 4点
友の会佐渡島合宿参加者
大阪湾のユキノアシタ 1点 山下 隆司氏
奈良県のテン 1点 乾 公正氏
奈良県のネコ 1点 河原 風花氏
三重県のスズガモ他 2点 宮越 和美氏
五月山動物園のヒツジ 1点 五月山動物園
島根県のイタチ 1点 白石 泰志氏
群馬県のイタチ 1点 運天 政元氏
京都府のタヌキ 1点 奥村 一枝氏
兵庫県のタヌキ 1点 越谷 祐貴氏
泉佐野市のアカザ他 9点 中島 歩氏
淀川のワタカ他 10点 萩野 哲氏
長野県のメジロ 2点 古賀 和人氏
奄美大島の鳥 132点
奄美野生生物保護センター
奈良県のメジロ 1点 山田琉太郎氏
ウラシマヨコエビ科のタイプ標本 53点 有山 啓之氏
和歌山県のハシボソミズナギドリ他 3点 宮崎 息吹氏
貝塚市のカンムリカイツブリ他 4点 湯浅 章葉氏
能勢町のスズメ 1点 難波希美子氏
愛知県のカワバタモロコ他 13点 中村 肇氏
奈良県のタヌキ 1点 前田 一郎氏
茨木市のアナグマ 1点 植本 拓治氏
愛知県のハクビシン 1点 中村 肇氏
豊能町のノウサギ 1点 西澤真樹子氏
北区のメジロ・フクロウ 2点 山田 明子氏
和歌山県のメジロ 1点 矢田部弘州氏
堺市のメジロ 1点 樽野 博幸氏
高石市のメジロ 1点 大西 歩氏
和泉市のメジロ 1点 杉浦 斗真氏
山口県のメジロ 1点 前田 露氏
三重県のメジロ 1点 田辺 美保氏
松原市のメジロ 1点 太田 智恵氏
京都府のメジロ 1点 山田 明子氏
奈良県の両生類・爬虫類他 36点 木村 全邦氏
阿倍野区のコサギ 1点 山本 浩文氏
奈良県のニホンカモシカ 1点 冨永 修氏
兵庫県のイノシシ 1点 藤本 勝大氏
宮城県のタヌキ 1点 西澤真樹子氏
長崎県のゴマミミズハゼ 1点 尾山 大知氏
奈良県のシカ 1点 森川 尚幸氏
奈良県のニホンカモシカ毛皮 1点 吉田 光枝氏
西山動物園のレッサーパンダ 1点
鯖江市西山動物園
茨木市のハシボソガラス 1点 角田 紗也氏
枚方市のオオタカ 1点 松下 孝雄氏
浪速区のアオバト 1点 吉川 和文氏
千石正一氏撮影写真スライド 20,000点 疋田 努氏
カンザシウミクワガタのタイプ標本他
16点 太田 悠造氏

千早赤阪村の鳥とネズミ　26点
ちはや星と自然のミュージアム
三重県のハシボソミズナギドリ　7点　宮越　和美氏
藤井寺市のハシブトガラス　1点
西澤真樹子氏・坂田　洋乃氏
愛媛県のトゲアリンコワレカラ　1点　阪口　正樹氏
相模湾のミツクリザメ他　4点　向井　貴彦氏
北海道のキセルハゼ他　3点　向井　貴彦氏
奈良県のキツネ　1点　河原　風花氏
奈良県のアナグマ・ハシボソガラス　1点　前田　一郎氏
滋賀県のアライグマ・モグラ　2点　鹿田　良男氏
奈良県のアライグマ　1点
中尾　茂氏・中尾健太朗氏
岬町のスナメリ　1点
大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター
三重県のチュウサギ　1点　宮越　和美氏
滋賀県のアカショウビン　1点　藤村　弓枝氏
千早赤阪村のコジュケイ　1点
ちはや星と自然のミュージアム
新潟県のメジロ　1点　長　和宏氏
東京都のメジロ　1点　江川　史朗氏
愛知県のメジロ　1点　安達　直孝氏
奈良県のメジロ　1点　岡本　祐子氏
奈良県のメジロ　1点　丸山健一郎氏
奈良県のメジロ　1点　斎藤　史之氏
豊中市のメジロ　1点　前田　創氏
高石市のメジロ　1点　大田　歩氏
寝屋川市のメジロ　1点　倉田　孝之氏
平野区のメジロ　1点　今井　嘉明氏
兵庫県のアカメ　1点
神戸須磨シーワールド
岬町のオオヨシノボリ他　2点　羽多　宏彰氏
岸和田市のアミメコケムシ科　1点　大谷　道夫氏
埼玉県のオナガ　1点　中村　達郎氏
奈良県のスズメ　1点　乾　久子氏
交野市のヒヨドリ・シロハラ　3点
大阪公立大学附属植物園
埼玉県のアライグマ他　6点　藤田　宏之氏
平野区のチョウゲンボウ　1点　中西　正和氏
北区のハイタカ　1点
積水ハウス株式会社環境推進部
岬町のスナメリ　1点　北藤　眞人氏
阪南市のスナメリ　1点　河原美也子氏
岬町のオオヨシノボリ他　3点　羽多　宏彰氏
ミャンマーのシカ角　1点　井上さゆり氏
奈良県のノウサギ・メジロ　2点　前田　一郎氏
平瀬貝類博物館標本他　3点　広瀬　道雄氏
福岡県のメジロ　1点　河野　信子氏
東京都のメジロ　2点　呉　倩氏
東京都のメジロ　1点　中島　知佳氏
茨木市のメジロ　1点　植本　拓治氏
天王寺区のメジロ　1点　樋口　祥子氏
天王寺動物園のメガネグマ他　4点　天王寺動物園
淀川のヒラドカワザンショウ　1点　大阪市建設局
埼玉県のオナガ　1点　中村　達郎氏
泉大津市のハイタカ　1点　阪上　幸男氏
和歌山県のアカグツ　1点　守下　敏一氏
イリオモテミヤイリガイ他2種のタイプ標本
34点　福田　宏氏
宮崎県他の深海生物　69点　小川ゆか子氏

■昆虫研究室
日本産昆虫　81点　藤井　伸二氏
ケカゲロウ・クシヒゲカゲロウ　12点　塚口　茂彦氏
日本産甲虫　95点　有本　久之氏
大阪府産昆虫　11点　弘岡　智樹氏
日本産昆虫　114点　藤井　伸二氏
日本産チョウ類　435点　長田　庸平氏
アシナガモモブトスカシバ　2点　弘岡　智樹氏
台湾産チョウ類　92点　大内和太郎氏
キイメクラチビゴミムシ属タイプシリーズ
4点　芦田　久氏
日本産・海外産甲虫　210点　青木　哲郎氏
奄美大島産ケカゲロウ　1点　井藤　将大氏
ユーカリキジラミ　6点　宮武　頼夫氏
エノキカイガラキジラミ（虫えい）　3点　坂東　駿人氏
キジラミ類　29点　井上　広光氏
奈良県産昆虫・ダニ　3点　井手　泉氏
東南アジア産ハンミョウ科　9点　堀　道雄氏
日本産ヒメバチ科　7点　松田　潔氏
日本産ヒラタムシ上科　295点　青木　哲郎氏
日本産・海外産甲虫　467点　有本　久之氏
大和川水系昆虫　1,230点　冨永　修氏
ツヤハダクワガタ　2点　大平　廣士氏
日本産甲虫　366点　横関　秀行氏
日本産昆虫　56点　澤田　義宏氏
セノウナガタマムシ　1点　瑤寺　裕氏

■植物研究室
近畿産蘚苔類　51点　狩野登之助氏
隠花植物写真　一式　伊沢　正名氏
シロキツネノサカズキ属　18点　栃原　行人氏
能勢町産ムヨウラン類　1点　道盛　正樹氏
京都市産ムラサキオランダガラシ　2点　伊吹　寛子氏
奈良県宇陀市産エドヒガン　1点　神田　充朗氏
富田林市産アメリカコナギ　1点　松井　彰子氏
淀川周辺の植物　6点　高田みちよ氏
堺市7-3区共生の森のヒルムシロ科　2点　瀧華佐和子氏
高槻市産植物　3点　福田　実氏
堺市産ラン科植物　2点　谷　勝行氏
堺市産湿生植物　11点　弘岡　知樹氏
大和川産オオバナミズキンバイ　1点
三宅　規子氏・松井　彰子氏
熊本県・奈良県の植物　19点　梅原　徹氏
大阪市内の植物（ウマノアシガタ・タチナハカノコソウ・コイヌガラシ）　2点　中西　有美氏
クヌギハケタマバチ虫こぶ付きのクヌギ
1点　楠井　晴雄氏・楠井　陽子氏
和歌山県串本町産オオウミヒルモ　2点　渡邊　淳一氏
甲子園浜の植生前線の植物　145点
阪口　正樹氏・瀬戸　剛氏
書籍、近畿地方植物標本　一式　瀬戸　剛氏
大阪教育大所蔵近畿地方産植物標本及び標本棚
一式　岡崎　純子氏

■地史研究室
魚類の化石、その他化石および岩石　一式
株式会社海遊館
穂積遺跡のカガミガイ化石　1点　松永　和子氏
赤石山地四万十帯の赤色石灰岩　1点　川端　清司氏
イノセラムス化石　1点　前川　匠氏
地学教材　一式
大阪府立平野高等学校

ケイチョウサウルス	1点	横田　裕氏
ポーランド産中新世種実化石	12点	塚腰　実氏
地学系標本（学校教材と採集物）	一式	
		大阪市立勝山小学校
神岡鉱山の鉱石	9点	塚腰　実氏
四万十層群古城山層のソテツ様種子化石		
	5点	水野　岩根氏
相原安津夫氏の石炭コレクション	13点	塚腰　実氏
岐阜県一重ケ根の化石	1点	大石　久志氏
南極の石	1点	松原　聰氏
畦ノ谷産の植物化石	4点	塚腰　実氏

■第四紀研究室

海浜砂	11点	古谷亜矢子氏
砂漠砂	2点	河上　康子氏
海浜砂・砂丘砂	2点	高田みちよ氏
海浜砂	1点	中尾　茂氏
海浜砂	1点	益田　晴恵氏
大阪市内ボーリング資料	21件	
		大阪市都市整備局
	1件	
		大阪市立勝山小学校
令和6年度受領・館報未記載分	1件	
		大阪市都市整備局

Ⅱ．館員による収集

■動物研究室

担当学芸員は、和田…W，石田…Ｉ，松井…Ｍと略記する。

大阪府堺市でマッコウクジラの骨格の残りを回収（1月、W、Ｉ、M）
大阪府岬町・岸和田市・和歌山県和歌山市で海産無脊椎動物を採集（4～7、10月、Ｉ）
大阪湾で海産無脊椎動物を採集（5月、Ｉ）
大阪府河内長野市で無脊椎動物を採集（5～6月、Ｉ）
兵庫県洲本市で海産無脊椎動物を採集（7月、Ｉ）
奈良県大淀町、御所市、高取町で無脊椎動物を採集（9月、Ｉ）
大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産魚類を採集（4～6月、M）
大阪市住之江区で淡水魚類を採集（4月、M）
大阪府河内長野市・奈良県天理市・大和郡山市で淡水魚類を採集（5月、M）
大阪府河内長野市・奈良県大和郡山市・橿原市・高市郡明日香村で淡水魚類を採集（6月、M）
奈良県生駒市・桜井市で淡水魚類を採集（7月、M）
奈良県高市郡明日香村・大阪市東住吉区で淡水魚類を採集（10月、M）
大阪市東住吉区で淡水魚類を採集（11月、M）
大阪府南河内郡千早赤阪村で両生類を採集（12月、M）
大阪府南河内郡太子町で両生類を採集（3月、M）

■昆虫研究室

担当学芸員は、松本…M，長田…O，藤江…Ｆと略記する。

4月1日	京都府八幡市	昆虫一般(M)
4月4日	奈良県五條市	移入カマキリモドキ(M)
4月7日	奈良県葛城市	移入カマキリモドキ(M)
4月9日	河内長野市	水生昆虫(Ｆ)
4月13日	羽曳野市	昆虫一般(M・Ｆ)
4月16日	奈良県奈良市	クモ・カマキリモドキ(M)
4月18日	京都府八幡市	昆虫一般(M)
4月18日	河内長野市・富田林市	水生昆虫(Ｆ)
4月21日	奈良県曽爾村	水生昆虫(M)
4月24日	富田林市	水生昆虫(Ｆ)
4月30日	奈良県奈良市月ヶ瀬	クモヒメバチ(M)
5月1日	奈良県天川村	クモヒメバチ(M)
5月5日	兵庫県宍粟市戸倉	昆虫一般(M)
5月7日	兵庫県神戸市唐櫃	昆虫一般(M)
5月8日	奈良県生駒市	水生昆虫(M・Ｆ)
5月12日	奈良県奈良市	クモ・カマキリモドキ(M)
5月15-17日	新潟県佐渡市佐渡島	昆虫一般(M)
5月21日	京都府福知山市夜久野	昆虫一般(M)
5月22日	奈良県奈良市	クモ・カマキリモドキ(M)
5月23日	富田林市	水生昆虫(Ｆ)
5月24日	堺市	昆虫一般(Ｆ)
5月25日	滋賀県長浜市山門水源	クモ(M)
5月30日	枚方市	クサカゲロウ(M)
6月2-3日	茨城県つくば市	ゾウムシ(Ｆ)
6月13日	河内長野市	水生昆虫(Ｆ)
6月20日	奈良県奈良市高円山	オオセンチコガネ(M)
6月26日	岡山県真庭市蒜山	昆虫一般(Ｆ)
7月2-3日	沖縄島	鱗翅類(O)
7月19-20日	兵庫県宍粟市戸倉	昆虫一般(M)
7月23-24日	岡山県真庭市蒜山	昆虫一般(Ｆ)
7月25日	奈良県奈良市	水生昆虫(M)
8月9-11日	新潟県佐渡市佐渡島	昆虫一般(M)
8月30日	奈良県河合町・斑鳩町	水生昆虫(M・Ｆ)
9月1-3日	長崎県佐世保市宇久島	訪花性昆虫(M)
9月2-3日	大阪市～柏原市	水生昆虫(Ｆ)
9月13日	河内長野市	水生昆虫(Ｆ)
9月18日	河内長野市・富田林市	水生昆虫(Ｆ)
9月21日	滋賀県高島市西浅井町	昆虫一般(Ｆ)
9月25-27日	東京都	昆虫一般(O)
10月1日	大阪市	移入昆虫(M)
10月1日	奈良県御所市・大和高田市	水生昆虫(Ｆ)
10月8日	大阪市	移入昆虫(M)
10月9日	道明寺	昆虫一般(M)
10月22日	大阪市	移入昆虫(M)
11月3日	大阪市	移入昆虫(M)
11月3-6日	沖縄島	昆虫一般(O)
12月12日	河内長野市	水生昆虫(M・Ｆ)
1月23日	奈良県橿原市畝傍山	越冬昆虫(M)
3月6日	和歌山県橋本市・紀美野町	昆虫一般(Ｆ)
3月9日	大阪市西区	昆虫一般(Ｆ)

■植物研究室

担当学芸員は、佐久間…S、長谷川…Ｈ、横川…Ｙと略記する。

4月3日	柏原市ほか大和川	植物一般(Ｙ)
4月24-27日	長崎県宇久島	植物一般(Ｈ)
4月8日	大阪市長居公園	植物一般(Ｙ)
4月10日	羽曳野市石川河川公園	植物一般(Ｙ)
4月18日	東京大学本郷キャンパス	帰化植物(Ｙ)
4月23日	京都府亀岡市	植物一般(Ｙ)
4月24-27日	長崎県宇久島	植物一般(Ｈ)
4月28日	堺市樋の谷水路	植物一般(Ｙ)
4月30日	羽曳野市	帰化植物(Ｙ)
5月7日	羽曳野市石川河川公園	植物一般(Ｙ)

5月8日　大阪市内　ウツギ属(H)
5月9日　京都市比叡山　菌類資料収集（S）
5月11-14日　長崎県宇久島　ハマウツボ(H)
5月13日　奈良県桜井市　植物一般(Y)
5月14日　京都府精華町　植物一般(Y)
5月15日　羽曳野市　帰化植物(Y)
5月16日　大阪府夢洲　植物一般(H)
5月16日　大阪市　帰化植物(Y)
5月28日　奈良県大台ヶ原　植物一般(H)
6月4日　太子町　植物一般(Y)
6月5日　大阪府金剛山　植物一般(H)
6月5日　羽曳野市石川河川公園　植物一般(Y)
6月7日　河南町　植物一般(Y)
6月10日　奈良県大台ケ原　菌類資料収集(S)
6月12-13日　長野県編笠山　カイジンドウ(H)
6月13日　千早赤阪村　植物一般(Y)
6月20日　奈良県斑鳩町　カワヂシャ（H）
6月27日　大阪府金剛山　植物一般(H)
6月27日　東大阪市枚岡公園　菌類資料収集（S）
6月29日　奈良県生駒市　菌類資料収集(S)
6月29日　東大阪市　植物一般(Y)
6月30日　大阪府金剛山　植物一般(H)
6月30日　奈良県宇陀市　菌類資料収集（S）
7月1日　大阪府金剛山　植物一般(H)
7月3日　大阪府能勢町　植物一般(H)
7月6日　京都市比叡山　菌類資料収集（S）
7月7日　大阪市　帰化植物(Y)
7月7日　大阪府金剛山　植物一般(H)
7月12日　山口県櫃島　ヒゴタイ(H)
7月13日　島本町尺代　菌類資料収集(S)
7月14日　羽曳野市石川河川公園　植物一般(Y)
7月19日　箕面公園　菌類資料収集（S）
7月19-24日　鹿児島県屋久島　植物一般(H)
7月24日　大阪府金剛山　植物一般(H)
7月24日　長野県菅平　菌類資料収集(S)
7月26-28日　長崎県宇久島　ヒゴタイ(H)
7月31日　大阪府金剛山　植物一般(H)
8月3-4日　長崎県雲仙仁田峠　オトギリソウ属(H)
8月4日　奈良県大台ケ原　菌類資料収集（S）
8月4-5日　千葉県手賀沼周辺　水生植物(Y)
8月6-8日　東京都三宅島　ツリガネニンジン(H)
8月19日　羽曳野市石川河川公園　植物一般(Y)
8月19-22日　熊本県産山村　ヒゴタイ(H)
8月29日　大阪府金剛山　植物一般(H)
8月31日　京都東山　菌類資料収集(S)
9月1-2日　広島県道後山　植物一般(H)
9月2日　高槻市摂津峡　菌類資料収集（S）
9月3-5日　長崎県宇久島　ヒメツルアズキ(H)
9月8日　堺市ため池　水生植物(Y)
9月10日　大阪府金剛山　植物一般(H)
9月12日　茨木市千堤寺　菌類資料収集（S）
9月16-18日　長野県白馬岳　植物一般(H)
9月18日　岸和田市久米田池　植物一般(Y)
9月19日　熊本県阿蘇　植物一般(H)
9月19日　羽曳野市石川河川公園　植物一般(Y)
9月22日　奈良県曽我川　植物一般(Y)
9月23-25日　岩手県　植物一般(H)
9月25日　高知県高知市　植物一般(Y)
9月26日　愛媛県・徳島県塩塚高原　植物一般(Y)
9月27日　大阪府金剛山　植物一般(H)
9月28日　岸和田市久米田池　植物一般(Y)
9月29日　堺市ため池　植物一般(Y)
10月1-2日　北海道・青森県　植物一般(H)
10月5日　大阪市長居公園　植物一般
10月6日　岸和田市塔原　植物一般(Y)
10月6-9日　鹿児島県屋久島　ハナヤマツルリンドウ(H)
10月14-17日　長崎県宇久島　植物一般(H)
10月17日　高槻市摂津峡　菌類資料収集（S）
10月23日　高槻市摂津峡周辺　植物一般(Y)
10月24-25日　宮城県・福島県・茨城県 ママコナ属(H)
10月25-26日　京都府立植物園　菌類資料収集(S)
11月4-5日　静岡県・愛知県　ママコナ属(H)
11月7日　兵庫県神戸市摩耶山　植物一般(Y)
11月10日　堺市ため池　植物一般(Y)
11月10-12日　長崎県宇久島　植物一般(H)
11月12日　岸和田市塔原　植物一般(Y)
11月14日　羽曳野市石川河川公園　植物一般(Y)
11月19日　羽曳野市石川河川公園　植物一般(Y)
11月20日　大阪市東住吉区　帰化植物
12月2日　大阪市桃ヶ池町　植物一般(Y)
12月4日　豊中市服部霊園　植物一般(Y)
1月5日　高槻市淀川　植物一般(Y)
1月19日　高槻市淀川　植物一般(Y)

■地史研究室

担当学芸員は久保田…K，前川…M，西野…Nと略記する。

10月23日　和歌山県湯浅町　下部白亜系の化石(M)

■第四紀研究室

担当学芸員は石井…(Ⅰ)、中条…(N)と略記

5月14-16日　新潟県佐渡島　海浜砂(N)
7月19日　大阪市中央区　浜堤の地層(はぎ取り標本)(N)
2月12-14日　鹿児島県大隅半島　海浜砂(N)

Ⅲ．現有資料数

2025年度末　総計　2,113,900点

■動物研究室

海綿動物	162点
刺胞動物・有櫛動物	1,414点
扁形・紐形動物	478点
触手動物	168点
環形動物	10,423点
甲殻類	21,743点
軟体動物	61,309点
棘皮動物	3,113点
原索動物	525点
その他無脊椎動物	1,046点
魚類	55,968点
両生類	22,178点
爬虫類	8,189点
鳥類	9,627点
哺乳類	4,245点
（計）	200,588点

■昆虫研究室

日本産昆虫

カワゲラ目	559点
カゲロウ目	10,487点
トンボ目	27,238点
カマキリ目	731点
直翅類	24,632点
ナナフシ目	562点
ハサミムシ目	603点
ガロアムシ目	100点
ゴキブリ目	693点
シロアリ目	93点
シロアリモドキ目	75点
チャタテムシ目	335点
アザミウマ目	24点
同翅類	17,562点
異翅類	33,723点
脈翅類	1,883点
シリアゲムシ目	2,088点
トビケラ目	7,720点
ガ	69,813点
チョウ	91,653点
甲虫目	524,078点
ハエ目	59,804点
ハチ目	113,507点
その他の昆虫他	17,043点
クモなど	17,416点
	（計）1,022,422点

外国産昆虫

チョウ	84,788点
ガ	7,796点
ハチ目	8,154点
ハエ目	5,015点
甲虫目	196,357点
脈翅類	136点
同翅類	6,434点
異翅類	2,774点
直翅系昆虫	7,729点
トンボ目	6,873点
カワゲラ目	71点
その他	3,939点
クモなど	1,582点
南太平洋学術調査コレクション	4,700点
田中竜三氏コレクション	12,439点
韓国産昆虫コレクション	1,506点
アフガニスタンの昆虫	6,143点
	（計） 356,436点
	（計）1,378,858点

■植物研究室

種子・シダ植物さく葉標本	356,189点
蘚類標本	36,900点
苔類標本	25,340点
地衣類標本	363点
海藻標本	12,708点
菌類標本	20,364点
木材標本	1,772点
木材プレパラート	1,283点
果実標本	6,071点
	（計）460,990点

■地史研究室

古生代植物化石	237点
中生代植物化石	572点
第三紀植物化石	3,912点
岩石	1,317点
鉱物	3,097点
脊椎動物化石	3,056点
古生代無脊椎動物化石	1,435点
中生代無脊椎動物化石	3,123点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放散虫化石	135点
	（計）34,725点

■第四紀研究室

人類遺物	29点
第四紀植物標本	26,472点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941種
現生シダ植物胞子	362種
無脊椎動物化石	5,583点
大阪市内ボーリング資料	1,959件
砂標本	1,227点
はぎ取り標本	52点
	（計）38,739点

Ⅳ．収蔵庫利用者数

昨年度の収蔵庫を利用した延べ人数（学芸員、図書アルバイト、技術職員を除く）は以下の通りである。

■特別・一般収蔵庫

2025年度678人＋アルバイト221人＋実習127人

■液浸収蔵庫

2025年度84人

＊集会室や実習室、外来研など、収蔵庫に入らずに収蔵資料を整理するような活動は含めていない。

Ⅴ．自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への対応に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫および旧第 3 収蔵庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が 近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望

に応えられるように備えているが、現在のところ、サービスを開始できていない。

令和７年度は前年度に引き続き、図書整理のアルバイト要員を配置し、精力的に登録作業を行った。登録を行なった単行本は､1792部で、総計は29898部である。また、受け入れた逐次刊行物は2138冊で、累計226901冊である。

１．個人・機関からの受贈（令和７年度登録分のみ。交換分は除く、敬称略）

●**個人**：山口博物館　池田寛、石田惣、梅原徹、大内和太郎、大古場正、大洞孝一、桂孝次郎、金子寿衛男、目黒寄生虫館　亀谷俊也、北村美香、栗林実、桑島正二、幸塚久典、河野道明、小城喜枝・小池勝、齊藤佻三、斎藤史之、佐久間大輔、笹川満廣、さとうかよこ、初宿成彦、瀬戸剛、高須英樹、高見明宏、谷田一三、樽野博幸、塚口茂彦、仲野敏章、波戸岡清峰、林淳、林匡夫、日浦勇、引田茂、藤井健雄、堀勝、堀内二彦、前園泰徳、松井彰子、松岡数充、松田隆喜、松本吏樹郎、南木睦彦、宮誠而、森澤道明、八木沼健夫、吉田勝、滝川第二中学　米沢剛至、渡辺修、渡邊淳一、渡部元

●**民間団体、出版社、企業、政府機関、自治体および関連団体、大学、研究所など**：あまの街道と陶器山の自然を守る会、奥州市牛の博物館、大阪市環境局総務部企画課、大阪市長、大本花明山植物園、海外移住事業団兵庫県事務所、神奈川県土木部計画課、株式会社KANADEL、河出書房新社、環境省自然環境局生物多様性センター、きしわだ自然資料館、京都大学瀬戸臨海実験所、近畿地方整備局神戸港空港技術調査事務所調査課、公益財団法人アイヌ民族文化財団、公益財団法人　中海水鳥国際交流基金財団、甲虫学会、滋賀県漁業協同組合連合会、斜里町・斜里町教育委員会、高槻市立今城塚古代歴史館、丹青研究所、忠類総合支所、東京都環境保全局自然保護部、童心社、名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課、にいがた貝友会、日本甲虫学会、日本国際湿地保全連合、ひがし大雪自然館運営協議会、広島県教育委員会、三重県農林水産部みどり共生推進課、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、林野庁近畿中国森林管理局　計画保全部　計画課、和歌山県立博物館

２．購入等によるもの

●**図書購入費による購入**（科研費によるものを含む）
令和７年度　68冊

●**消耗品費による購入**　４誌
月刊海洋、月刊地球、月刊むし、植物研究雑誌。

●**学会への加入による収集**

８学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本動物学会（動物学雑誌）
日本生物地理学会（Biogeography、日本生物地理学会会報）
日本衛生動物学会（衛生動物）
日本藻類学会（The Japanese Journal of Phycology、藻類）
日本陸水学会（Limnology、陸水学雑誌）
日本地学研究会（地学研究）
日本博物館協会（博物館研究）
全国科学博物館協議会（全科協ニュース）

この他、個人名での加入や交換により、会誌を受領している学会も多い。

３．文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）NatureStudyと交換に、国内国外の研究・教育機関等と文献交換を行なっている。

■ 研究報告など出版物の配布

令和７年度の配布は以下の通り。

	国内	国外
研究報告79号	406ヶ所 414冊	324ヶ所 326冊
自然史研究 第４巻９号		
	320ヶ所 328冊	151ヶ所 153冊
収蔵資料目録 第56集	251ヶ所 261冊	０ヶ所 ０冊
ミニガイドNo.27「大阪の川原の石ころ」改訂版		
	251ヶ所 261冊	０ヶ所 ０冊
館報50号	581ヶ所 594冊	11ヶ所 11冊

Ⅵ. 資料保存環境向上に関する取り組み

資料保存環境の向上を目的として、温湿度管理、空気質調査、博物館IPM（総合的有害生物管理）、および光環境の管理について重点的に取り組んだ。温湿度管理では、新たに温湿度データロガーを10台導入した。特別展時におけるネイチャーホール内、本館展示室および各収蔵庫における計測データを継続的に収集・解析し、季節変動や局所的な変動の把握に努めた。

空気質調査では、新たに測定機器を２台導入した。おもに収蔵庫内と展示ケース内の有機酸を中心とした揮発性物質の測定を行い、展示・収蔵環境における化学的リスクの評価を進めた。特に収蔵庫内の木製棚や展示ケース内において高濃度の有機酸が検出されたため、換気の強化や材料由来の影響に関する検討を行った。

博物館IPM業務においては、日頃の目視点検や清掃を通じて、館内の害虫発生状況の把握と傾向分析に努めた。収蔵庫内でチャタテムシ類およびカツオブシムシ類の発生が確認されたが、早期対応により被害の拡大を防止した。害虫が発生した場合、速やかに殺虫処理を実施する必要がある。これまでは冷凍庫を利用した低温殺虫処理で対応してきたが処理量に制限があるため、新たに低酸素殺虫処理用器材を導入し即応できる体制を整えた。

令和７年度に館内照明機器のLED化工事が実施された。それに伴い､LED照明下における照度の測定を行い、資料種別に応じた適正照度の維持が必要になった。新たにLED用照度計を導入し、今後は照明条件の調整を行い、展示と保存の両立を図っていく。

これらの取り組みを通じて、環境データに基づく保存管理の精度向上と、リスクの可視化・低減に一定の成果を得ることができた。

自然史博物館の展示は、常設展示として大阪の自然誌展示室（無料ゾーン）、ナガスクジラなどが展示される屋外展示、本館のナウマンホール及び第１～第５展示室（うち第４展示室はギャラリーとして回廊部に設置）があり、ネイチャーホールで開催される「特別展示」や「企画展示」、本館２Ｆイベントスペースやナウマンホールで開催される「テーマ展示」、小規模に展示される「ミニ展示」などがある。

2025年度の入館者数は、常設展266,503人（うち有料入館者数141,341人；有料率53.0％）となり、前年度より約0.2％減とほぼ同等であった。前号で2014年以降の入館者数の推移を報告したが、それと比較するとコロナ禍以前の水準では2025年度の常設展入館者数は例年通りかやや好調という数字である。

特別展に関しては年度をまたいだものを含め、2024年度内に以下の３回の特別展が開催された。

「貝に沼る―日本の貝類学研究300年史―」（会期：2025年２月22日～ ５月６日）

「昆虫MANIAC」（会期：2025年７月12日～ ９月23日）

「学芸員のおしごと －集める・調べる・伝える－」（会期：2025年11月１日～ 2026年２月１日）

それぞれの特別展の詳細については各項目を参照してほしい。

Ⅰ．常設展示

■展示室のライトのLED化

館内各所のLED化工事に合わせて展示ケースのライトのLED化を行った。これに伴い、工事中の展示室は休室など、部分的に来館者への影響が生じた。

■ナガスクジラの骨格標本（ナガスケ）のメンテナンスなど

2025年11月23日～ 2026年３月19日の間、ナガスクジラの骨格標本（ナガスケ）がメンテナンスのため館外に持ち出された。また、2025年９月26日から劇場公開されている映画「沈黙の艦隊　北極海大海戦」の撮影に当館が使用され、ナガスクジラの骨格標本（ナガスケ）が映画に登場した。

Ⅱ．特別展

■第55回特別展

「貝に沼る―日本の貝類学研究300年史―」

美しい殻で人々を魅了する貝。地球上では数万種が知られ、極めて多様性の高い生き物である。中でも日本列島は暖流と寒流双方の影響を受ける位置にあり、またたくさんの島嶼を有することから、世界的に見ても多くの貝類が生息する地域である。このような背景からか、日本では古来より多くの人が貝のとりこになり、学問としてその実態に迫ろうとしてきた。この特別展では本草書から初期の図鑑、歴史的な発見をもたらした実物標本、最新の研究技術までを一堂に集め、日本の江戸時代から現代までの貝類学の研究史とその成果をひもとく内容とした。歴々の研究者が貝に"沼る"とはどういうことなのか、この特別展で実感してもらうことをねらいとした。

●展示の構成

１．江戸時代の貝類学

江戸時代の日本で行われていた本草学としての貝類学を紹介するとともに、同時期に西洋の生物学者が取り組んでいた日本近海の貝類の研究を紹介した。

主な展示：

・江戸時代の大坂の町人学者木村蒹葭堂の貝石標本
・幕末・明治の大阪に生きた博物家堀田龍之助の貝類標本
・貝類を扱った本草書（浄貞五百介図写本、貝尽浦之錦など）
・19世紀の西洋で発刊された日本の貝類のモノグラフ
・日本の本草学と西洋博物学との関わり

２．近代貝類学の幕開け

明治の開国以降、日本には西洋から近代科学が流入し、本草学は生物学に大きく転換した。貝類学においてその受容に貢献したキーパーソンと彼らの活動を紹介した。

主な展示：

・日本の貝類学のグローバル化と普及を目指した平瀬與一郎と平瀬介館、及び平瀬貝類博物館の活動
・平瀬介館が発行した多色木版画の図鑑「貝千種」の版木と洋画家西川 純による原画
・帝国大学の貝類学
・黒田徳米と黎明期の貝類学を支えた人々
・貝類専門博物館「舞子介類館」を開いた矢倉和三郎の活動
・化石貝類研究の始まり（巨智部忠承・横山又次郎らの論文図示標本）
・台湾、南洋群島など統治領での貝類学

３．貝類学のすそ野の広がり

大正から昭和、そして戦後にかけて、貝類学は様々な学問分野に展開し、標本の採集や収集活動は幅広い層に普及した。水産や公衆衛生における貝類学、図鑑などの出版による学校教育や収集家への普及活動の歴史を紹介した。

主な展示：

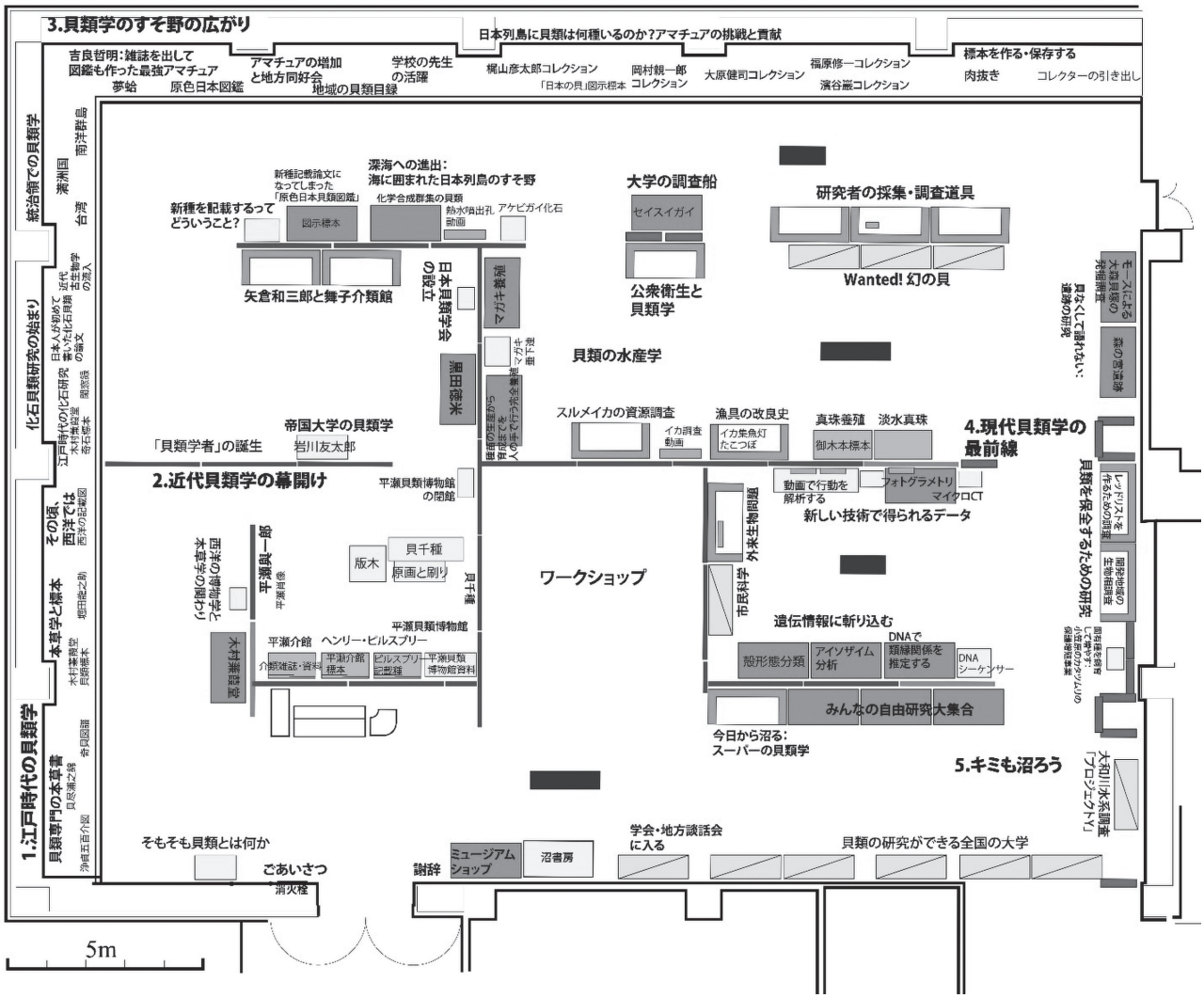
・水産重要種であるスルメイカの生態調査、マガキやトリガイなどの養殖研究
・様々な漁具の開発史（タコツボやイカ集魚灯）
・御木本幸吉が作成した半円真珠標本
・日本列島周辺の深海調査
・普及に貢献した図鑑「原色日本貝類図鑑」とその図版の元になった標本
・日本住血吸虫症征圧のためのミヤイリガイ撲滅作戦
・研究の一翼を担うアマチュアの活動とそのコレクション
・江戸時代から現代まで、研究者の採集・調査道具紹介
・調査手法や採集技術が発達してもなお、今までにごくわずかしか見つかっていない「幻の貝」

４．現代貝類学の最前線

新しい技術を使った現代の貝類学を紹介した。特にDNAの塩基配列といった遺伝情報に基づく貝類の系統分類学の手法と成果を解説した。また、新たな課題として貝類の置かれている現状と、それらを保全するための研究活動も紹介した。

主な展示：

・フォトグラメトリ、マイクロCTなどによる形態の三次元解析
・ビデオカメラを使った貝類の行動解析
・アイソザイムやDNAを使う系統の解析のしくみとその例
・貝類の保全と外来生物問題
・市民科学による分布調査
・レッドリストを作るための貝類相調査
・小笠原の固有カタツムリの増殖と再導入事業



「貝に沼る」展会場配置図

5．キミも沼ろう

展示を見て日本の貝類学の先人の歩みを知った来場者をこの「沼」に誘うべく、貝類学研究への様々な入口を紹介し、この特別展のまとめとした。

主な展示：

・貝類の研究ができる全国の28大学・高専の研究室紹介ポスター
・60年前から現代までの小中学生による自由研究紹介
・博物館で現在行っている大和川水系調査プロジェクトの紹介
・今日から沼る：スーパーの貝類学（大阪のスーパーで売られている変わった貝）

●**会期：**2025年２月22日（土）～５月６日（火・休）
●**主催：**大阪市立自然史博物館
●**特別協力：**船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」
●**資料借用・情報提供等での協力：**青森県産業技術センター水産総合研究所、お茶の水女子大学附属図書館、海洋研究開発機構、環境省小笠原自然保護官事務所、京都大学総合博物館、京都大学大学院医学研究科、京都府農林水産技術センター海洋センター、熊本県博物館ネットワークセンター、久留米大学医学部感染医学講座真核微生物学部門、国立科学博物館、品川区教育委員会、水産研究・教育機構 水産資源研究所、東京大学総合研究博物館、東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所、東和電機製作所、長崎市恐竜博物館、西宮市貝類館、ニッポンバラタナゴ研究会、日本貝類学会、日本地質学会、美術書出版株式会社芸艸堂、兵庫県自然保護協会、株式会社保育社、北海道立総合研究機構、三重大学大学院生物資源学研究科、南アルプス市教育委員会、三厩漁業協同組合、目黒寄生虫館、山口県立山口博物館、他99団体・個人。
●**観覧料：**大人500円、高校生・大学生 300円。期間内特別展フリーパス　大人1000円、高校生・大学生 600円。本館（常設展）とのセット券は、大人700円、高校生・大学生 400円。中学生以下、障がい者手帳など持参者（介護者１名を含む）、大阪市内在住の65歳以上の方は無料（要証明）。
●**入場者：**12,321人。有料合計6,854人、有料率55.6%（大人6,049人、高大生503人、期間フリーパス入場大人225人、同高大生８人、キャンパスメンバーズ69人）。無料5,467人（中学生以下個人1,725人、高齢者814人、障がい者（介助者含む）1,470人、中学生以下等団体418人、招待券966人、下見74人）。期間フリーパス購入者数は101人（大人95、高大生６）。
●**主担当学芸員：**石田　惣
●**展示品点数：**貝類標本約700点、その他資料約200点
●**キッズマップ・キッズパネル：**展示の見どころを子どもたちにわかるやすく伝えるため、キッズマップ・キッズパネルを作成した。キッズマップは受付に置き、自由に取ってもらえるようにした。また特別展



「貝に沼る」展チラシ



展示の様子（「貝千種」の版木）

ホームページからダウンロードできるようにした。キッズパネルは今回から説明文をシンプルにしたハガキサイズとし、会場内の14ヶ所に設置した。

●**広報**：2024年12月５日に開催プレスリリースを実施。開催概要、チラシビジュアル、主な展示物の写真を公開した。2025年１月８日に特別展ホームページを公開した。２月６日にプレス内覧会のお知らせ、２月13日にブロガー招待の案内、２月19日にオリジナルグッズ・コラボ企画・関連イベントの詳細を追加リリースした。２月19日から３月４日、４月16日から４月29日の期間で市政広報板にB２ポスターを掲出、４月19日から５月３日の期間でFacebook/Instagramを対象としたSNS広告を掲出した。大阪市・府９件、新聞４件、雑誌・ミニコミ誌・フリーペーパー ７件、ウェブ７件、TV・ラジオ３件の合計30媒体で掲載された。今回の特別展では幻の貝10種を解説する「貝に沼るカード」



展示の様子（梶山彦太郎コレクション）



キッズパネル

を作成した。カード１枚で１種を解説しており、特別展来場特典として会期中先着2,000名に１人１枚進呈した。また、期間フリーパス購入者には全10種１セットを進呈した（限定150セット）。

●**連携展示**：大阪市立図書館で連携展示を行った。

◇令和６年度地域図書館巡回展示「出張！自然史博物館 大阪市内のスーパーで売られていたちょっと珍しい貝」（2024年８月～ 2025年３月）

●**コラボ企画**：

◇長居ユースホステル：「貝に沼るコラボ宿泊プラン」貝のスープ付き軽食セットや貝殻のお土産、特別展割引券が付いた宿泊プランを販売。期間は２月22日（土）～ ５月６日（火・休）。

●**関連行事（参加者数の詳細は普及教育事業を参照）**：

◇特別展講演会①「進化史と貝類学史の交点：小笠原の陸貝」

日時：2025年３月９日（日）13:00 ～ 15:00

講師：千葉　聡氏
（東北大学・東北アジア研究センター 教授）

内容：小笠原の陸貝の研究は、ピルスブリー、平瀬ら貝類学の偉大な先達に始まるが、ギュリックやグールドら歴史に残る進化学者も関心を寄せてきた。世界と日本の交差点でもあるこの小世界にみる進化と、その現況について解説した。

場所：自然史博物館本館　講堂（YouTubeによる同時配信）

参加者数：対面31人、最大同時接続数62、再生回数1,812（５月末まで）

◇特別展講演会②「貝類のまぼろしに沼らされて」

日時：2025年４月20日（日）13:00 ～ 15:00

講師：福田　宏氏（岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域 准教授）
内容：蜃気楼は蛤が吐くとの伝説の通り、貝類はもともと幽明境定かならぬ幻影に近しい存在である。「幻」を名に冠する稀少種はもちろん、サザエですら人の認知は長くあやふやであった。貝類と幻の関係について話題提供する。
場所：自然史博物館本館　講堂（YouTubeによる同時配信）
参加者数：対面44人、最大同時接続数57、再生回数1967（５月末まで）

◇子どもワークショップ「ミニミニ貝をさがせ」
日時：2025年２月22日（土）、23日（日祝）、３月８日（土）、９日（日）各日11：00 〜、13：30 〜、15：00
場所：特別展会場
参加者数：合計367人（プログラム参加者207人、保護者160人）
内容：貝の形４種類（カサガイ・マキガイ・ニマイガイ・ツノガイ）のお話しを聞いた後に、ミニミニ貝を砂から探す。見つけたミニミニ貝はボンドを使ってカードに貼り、持ち帰る。

◇子どもワークショップ「みてみてハカセ わたしの貝千種」
日時：2025年４月５日（土）、６日（日）、12日（土）、13日（日）各日10：30 〜、11：30 〜、14：00 〜、15：00 〜
場所：特別展会場
参加者数：合計219人（プログラム参加者124人、保護者95人）
内容：「貝千種」という昔の貝の図鑑について、誰がどんな思いで作ったのかをハカセ（学芸員）がお話しする。その後、実物の貝千種をじっくり見て、どうやって描いたのか？何種類載っているのか？などを考える。お話の後、展示でお気に入りの貝を見つけてスケッチし、自分だけの貝千種を作る。



子どもワークショップの様子（みてみてハカセ わたしの貝千種）

◇ギャラリートーク
日時：2025年２月22日（土）、23日（日祝）、３月15日（土）、16日（日）、22日（土）、23日（日）、４月５日（土）、６日（日）各日12：15 から 30分程度
場所：特別展会場
参加者数：のべ182人
担当：２/22中条・石田、３/15前川、３/16中条、それ以外は石田

◇友の会行事「友の会の夕べ」
展示に関わった学芸員が、友の会会員に展示の見どころを紹介した。
日時：2025年２月22日（土）　16時30分〜 18時30分
参加者数：108人

■特別展「昆虫MANIAC」

ようこそ MANIACなムシの世界へ！昆虫は、地球上で報告されている生物種の半数以上となる約100万種を占める最大の生物群です。ほとんどは体長１cmにも満たない小さな生物ですが、体のつくりから行動、能力にいたるまで、その多様性は驚くほど高く、変化に富んでいます。本展では研究者によるマニアックな視点、研究者セレクトのマニアックな昆虫標本、最新の昆虫研究を織り交ぜ、カブトムシやクワガタムシといったおなじみの昆虫はもちろん、クモやムカデなどを含む「ムシ※」たちのまだ見ぬ驚きの多様性の世界に迫ります。（※本展では昆虫および昆虫をはじめとする陸生の節足動物をムシとして扱います。）

●展示の構成

２章の昆虫の様々なグループ、クモ、多足類について、よく知られていることから、一般にあまり知られていないことまで幅広くとりあげた展示がメインであり、１章は昆虫を中心とした節足動物に関するイントロとなっている。各分類群の展示には「扉」という表記がつけられていて、扉をくぐってそのグループの世界を順番に覗いていくという構成になっている。３章は人との関わりをとりあげている。各扉に拡大模型が配置され、シタバチのオスが集める香りを嗅いだり、素数ゼミの合唱を体験できるブースもある。オオセンチコガネの生体も展示された。

１．昆虫とムシ
　１−１：昆虫とは
　１−２：ようこそ、MANIACなムシの世界へ
２．多様なムシ
　２a. トンボの扉
　２b. ハチの扉
　２c. チョウの扉
　２d. クモの扉
　２e. カブトムシの扉
３．ムシとヒト

●会期：2024年７月12日（土）〜９月23日（火・祝）
●主催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社、関西テレビ放送
●後援：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会
●協賛：住友生命
●特別協力：国立科学博物館
●観覧料：大人 1,800円（1,600円）、高大生 1,500円（1,300円）、小中生 700円（500円）（税込）。前売ペア券 3,000円（大人のみ）※ ２枚１組での販売。１枚ずつでも使用可能。
●入場者：79,846人。有料合計 55,660人、有料率 69.7%（一般 38,586人、高大生 1,459人、小中学生 15,496人、キャンパスメンバーズ 119人）。無料合計 24,186人。
●受け入れ担当学芸員：松本吏樹郎
●展示標本点数：約 3,000点
●展示解説書：カラー 202ページ。執筆：井手竜也、野村周平、神保宇嗣、清拓哉、奥村賢一（国立科学博物館）、松本吏樹郎、藤江隼平（大阪市立自然史博物館）。
・普及の一環としてオリジナルグッズ翅脈パズルを作成した（長谷川匡弘・松本吏樹郎監修）。
●広報：2024年１月８日に第１弾（概要）、2025年５月



特別展「昆虫MANIAC」チラシ

15日 に第２弾（展覧会詳細・講演会情報）、2024年６月24日に第３弾（内覧会案内）、2024年９月２日に第４弾（キャンペーン情報）。

●関連行事

普及講演会と関連した自然史オープンセミナーを開催した。

◇普及講演会「ハチMANIAC」
日時：７月12日（土）午後１ 時30分～３時
講師：井手竜也氏（国立科学博物館、総合監修）、松本吏樹郎（大阪市立自然史博物館）
参加者数：対面68名＋オンライン52名（最大同時接続数）

◇普及講演会「うんこ虫を追ってみた！」
日時：８月31日（土）午後１時30分～ ２時30分
講師：舘野鴻（絵本作家）
参加者数：対面94名＋オンライン28名（最大同時接続数）

◇自然史オープンセミナー「こんなムシもいるよ！MANIACな昆虫たち」
日時：８月16日（土）午後１時30分～ ３時
講師：松本吏樹郎、長田庸平、藤江隼平、長谷川匡弘
参加者数：対面40名＋オンライン52名（最大同時接続数）

■第56回特別展「学芸員のおしごと―集める・調べる・伝える―」

博物館では「学芸員」と呼ばれる人たちが働いている。学芸員は博物館で来館者が見学する展示の企画・作製だけでなく、標本の収集・管理や標本等を用いた研究を行っている。とはいえ、博物館を支えている学芸員が具体的にどのような仕事を行っているのかはあまり知られていない。この特別展では、博物館が取り扱う「標本」に着目し、学芸員が標本をどのように収集・管理し、研究を行い、社会に伝えているかを紹介する。展示を通して学芸員の仕事を知ることで、博物館により興味を持ってもらえることを期待する。

●展示の構成

１．はじめに：学芸員のおしごと

博物館で働く「学芸員」とはどんな仕事をしているのか。その概要について写真を見せながら紹介した。

２．まずは「集めよう」

博物館学芸員の重要な仕事の一つに、「標本の収集」がある。「標本」とは何か、標本収集の意義とは何か、どのようなものを、どのようにして集めるのかを紹介した。

主な展示物：地学標本・乾燥標本（植物、昆虫）・液浸標本等をはじめとした自然史博物館での収蔵標本、各分野の学芸員による調査・標本収集・研究道具類、博物館収蔵の図書・図鑑・原図類など

３．新しく博物館に来た標本

博物館には学芸員によって収集された標本に加え、プロ・アマチュア問わず研究者や市民等から寄贈を受け、当館のコレクションとして加わった標本が多くある。主に2022年以降に当館で収集・寄贈された標本を展示し、その標本の意義と博物館での資料収集活動について紹介した。

主な展示物：大洞浩一収集南紀のシダ植物標本、大淀町岸田日出男 植物標本、角野康郎水草コレクション、益田晴恵岩石・鉱物コレクション、佐藤隆春岩石コレクション、矢田遺跡のはぎ取り標本、大阪湾に漂着したニタリクジラ・マッコウクジラの骨格標本（図２）、橋本勉収集大阪湾・播磨灘の古い魚類標本、林 靖彦甲虫コレクション、伊賀正汎甲虫コレクション、伊藤主計昆虫コレクション、春澤圭太郎昆虫コレクション

４．標本を「守る」

標本は適正な温度・湿度管理、保存処理、整理作業を行わなければ、その標本が損なわれたり、利用できない状態になる。標本を守り、永劫的に活用していくためには、学芸員による日頃からの標本管理が必要である。標本を管理する収蔵庫とはどのような場所か、そして標本を利活用するためにどのような管理が行われているかを紹介した。

主な展示物：一般・特別・液浸収蔵庫のジオラマ展示、標本害虫などの収蔵庫の大敵、保存処理を施した標本など

５．標本を「調べる」

標本はただ収蔵庫に保管されるだけのものではなく、多くの人に利活用されることでその価値が高まる。収蔵庫に保管されている標本はどのように活用されるのか、標本を活用した様々な研究を紹介し、研究資料としての標本の意義を考えた。

主な展示物：様々なタイプ標本、大阪府植物目録改訂に関わる標本、けいはんな記念公園の昆虫標本、大阪湾南東部の磯の生物相調査による標本、和泉層群の軟体動物化石、大阪層群の植物化石、大阪平野地下の貝化石・はぎ取り標本、当館の収蔵標本を用いて書かれた論文とその証拠標本など

６．みんなに「見せる」

学芸員の仕事でもっともわかりやすいのは展示の企画・作製である。博物館の展示はどのように作られるのか、そして展示を作る際に学芸員が注意している点などを紹介した。また、標本や展示のデジタル化についての紹介をおこなった。

主な展示物：展示用資料と研究用標本の比較、レプリカや復元模型・図の役割と意義、学校向け貸出標本、視覚障害者向け触察用地形模型など、デジタル化標本写真など



図1：特別展「学芸員のおしごと」ポスター

7．博物館をとびだして

自然史博物館の活動は、博物館での標本収集や展示だけにとどまるものだけではなく、野外での観察会や友の会活動、同好の人たちが集まるサークル活動など、その活動の輪はさらに広がっている。市民と共に進む自然史博物館の活動の紹介をおこなった。

主な展示物：博物館内外の活動の様子、市民調査による収集標本、標本レスキュー活動とその標本など

8．学芸員が伝えたいこと

標本の収集や保管、展示、普及教育を通じて学芸員が伝えたいものは何なのか。標本を未来に残す意味と博物館の存在意義を示し、この展示会のまとめとした。



図2：展示の様子（ニタリクジラ）

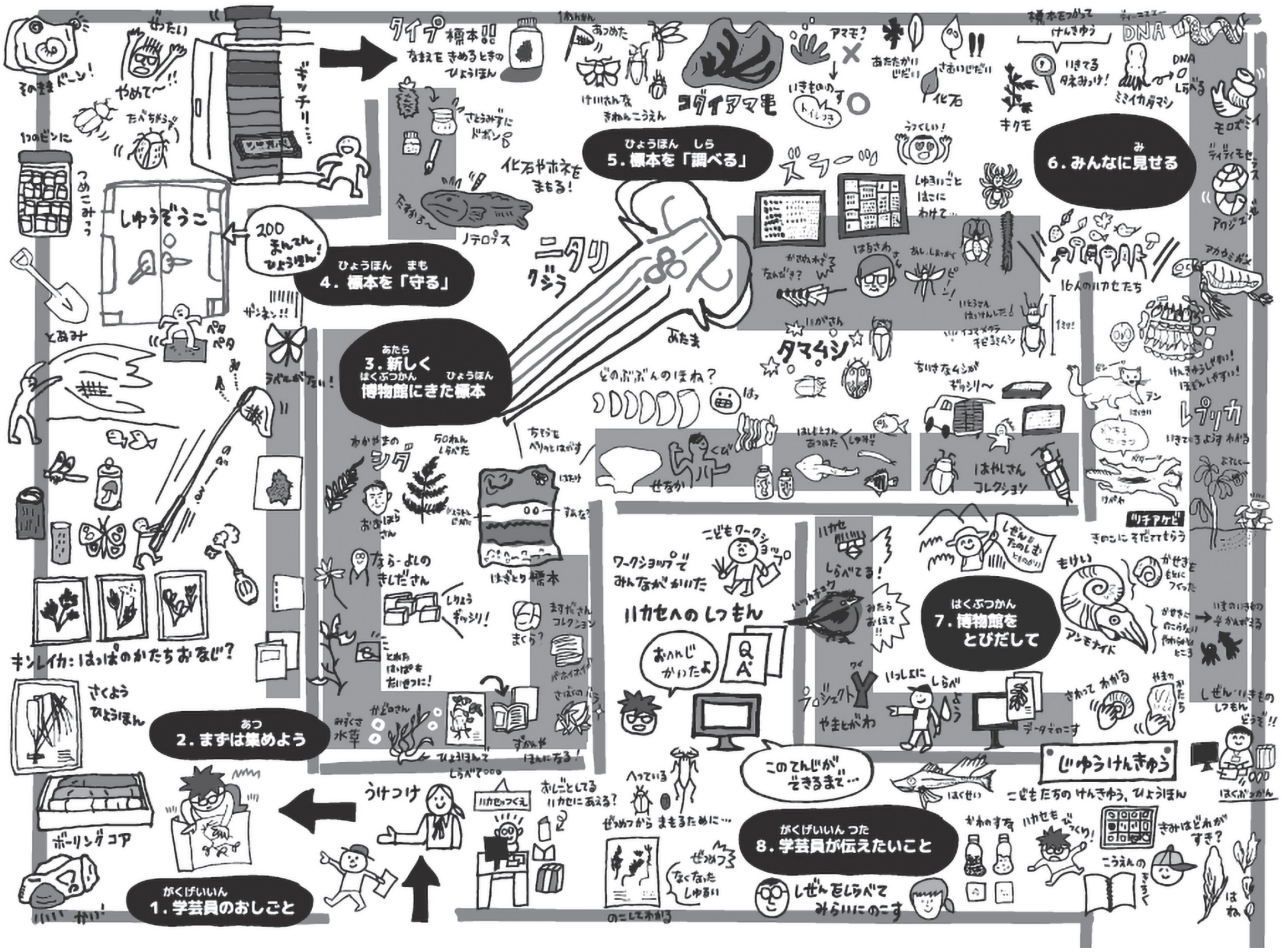


図3：特別展「学芸員のおしごと」てんじマップ

●**会期**：2025年11月１日（土）～ 2026年２月１日（日）
●**主催**：大阪市立自然史博物館
●**後援**：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会
●**資料借用・情報提供での協力**：
【団体】大阪市教育委員会、大阪府文化財センター、大阪市文化財協会
【個人】姉崎智子、有山啓之、太田陽子、小林　智、笹栗　拓、澤田佳宏、釋知恵子、初宿成彦、谷利りさ、樽野博幸、趙　哲済、西澤真樹子、藤原啓史、南　秀雄、三宅規子、山下裕子、山住一郎、渡邊淳一
●**観覧料**：大人 500円、高校生・大学生 300円（30人以上団体割引あり）、中学生以下無料。ただし関西文化の日（11月15日、16日）は無料。期間内特別展フリーパス大人 1,000円、高校生・大学生600円。本館（常設展）とのセット券は、大人 700円、高校生・大学生400円。障がい者手帳など持参者（介護者１名を含む）、大阪市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。
●**入場者**：8,721人。有料合計 3,682人、有料率 42.2%（大人2,760人、高大生615人、フリーパス大人217人、フリーパス高大生19人、キャンパスメンバーズ71人）。無料合計 5,039人（中学生以下団体 1,494人、中学生以下個人 890人、高齢者 359人、障害者 654人（介助者含む）、招待券 1,617人）
●**主担当学芸員**：中条武司
●**てんじマップ・キッズカード**：展示の見どころについて子どもを中心とした来場者にわかりやすく伝えるために、てんじマップ、キッズカードを作成した。てんじマップは展示内の地図をイラストを用いて紹介したもので、子どもだけでなくすべての来館者に視覚的に展示構成がわかるようにしたものである（図３）。てんじマップは受付に置き、自由にとってもらえるようにした。キッズカードは特に見て欲しい展示物を中心に、解説パネルをやさしく紹介したもので、会場内の14箇所に設置した。
●**広報**：2025年８月20日にプレスリリースを実施。開催概要、ポスタービジュアル（図１）、主な展示物の写真を公開した。10月16日にプレス内覧会の案内、特別展ホームページを公開した。10月29日にオリジナルグッズの紹介、関連イベントの詳細を公開した。
市政広報板
インターネット広告（経営企画分も）
取材件数
●**連携展示**：2025年７月から2026年１月にかけて、大阪市立図書館の地域館で巡回展示を行った。
「博物館の学芸員の仕事～研究って、どうするの？～」
東成図書館（７月18日～ ８月17日）
北図書館　（８月22日～ ９月14日）
此花図書館（９月19日～ 10月12日）
福島図書館（10月17日～ 11月16日）
大正図書館（11月21日～ 12月17日）
西成図書館（１月６日～ １月31日）
●**関連行事**
◇特別展講演会「自然史研究に大きく役立つ博物館標本のDNA」
日時：11月22日（土）13時30分～15時30分
会場：自然史博物館 講堂（YouTubeを使った同時ライブ配信・見逃し配信も実施）
講師：中濱 直之 氏（兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授/兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）
参加者数：講堂 29名、YouTubeの最大同時接続 29名、見逃し配信 1,019名
◇特別展講演会「世界の博物館で働くということ―イギリス・ザンビア・カリブ海の現場から」
日時：12月20日（土）13時30分～15時30分
会場：自然史博物館 講堂（YouTubeを使った同時ライブ配信・見逃し配信も実施）
講師：五月女 賢司 氏（大阪国際大学国際教養学部 准教授）
参加者数：講堂25名、YouTubeの最大同時接続26名、見逃し配信 876名
◇自然史オープンセミナー「学芸員の研究」
日時：１月17日（土） 13時～15時
会場：自然史博物館 講堂（YouTubeを使った同時ライブ配信・見逃し配信も実施）
講演タイトル・講師：
「拠点であることが求められる博物館での研究」加藤 ゆき恵 氏（釧路市立博物館）
「小さな博物館でのオールラウンダーの悩み」持田 誠 氏（浦幌町立博物館）
「きのこ・里山・デジタル：守備範囲の広い学芸員はどう研究に折り合いをつけるか」佐久間 大輔（大阪市立自然史博物館）
参加者数：講堂38名、YouTubeの最大同時接続36名、見逃し配信975名
◇「学芸員・研究者になりたい方向け相談会」
学芸員になりたいという方向けに、特別展内の「学芸員席」で相談会を実施した。特別展会場内で４回実施。のべ参加人数73名。実施日、それぞれの参加人数、担当学芸員は以下の通り。
１月17日（土）12名（石田・中条・佐久間）
１月18日（日）11名（中条・前川）
１月31日（土）19名（長谷川・藤田）
２月１日（日）31名（佐久間・長谷川）
◇ギャラリートーク
会期中の土曜日および11月16日（日）午前10時から計14回実施。のべ参加人数333名。実施日、それぞれの参加人数、担当学芸員は以下の通り。
11月１日（土）18名（横川）、11月８日（土）19名（前川）、11月15日（土）28名（藤田）、11月16日（日）39名（中条）、11月22日（土）14名（長谷川）、11月29日（土）19名（石田）、12月６日（土）38名（和田）、12月13日（土）16名（久保田）、12月20日（土）20名（松井）、12月27日（土）21名（長田）、１月10日（土）25名（西野）、１月17日（土）26名（佐久間）、１月24日（土）21名（藤江）、１月31日（土）30名（石井）
◇ギャラリートーク冬休み特別編
特別展会場から収蔵庫に移動し、収蔵庫内での学芸員の仕事についての解説を行った。計５回実施。のべ参加人数96名。実施日、それぞれの参加人数、担当学芸員は以下の通り。
12月24日（水）８名（横川）、12月25日（木）32名（藤江）、12月26日（金）23名（石田）、１月６日（火）23名（前川）、１月７日（水）10名（中条）
◇相談会
◇子どもワークショップ「はくぶつかん ハカセのおしごと」
学芸員とともに展示を見てまわり、学芸員の仕事について学ぶ。最後に学芸員に質問や疑問点などについてカードを書き、学芸員が答える。後日に同様の回答を学芸員はカードに書き、そのカードは展示期間中ワークショップスペース付近に展示。のべ参加人数99名
11月１日（土）：19名、11月２日（日）：23名、
12月13日（土）：29名、12月14日（日）：28名

◇子どもワークショップ「はくぶつかん おしごとすごろく」
展示室内でサイコロを振りながら、すごろくを使ってまわり、学芸員の仕事を学ぶ。のべ参加人数303名
11月15日（土）：90名、11月16日（日）：112名、12月6日（土）：46名、12月7日（日）：55名
◇友の会行事「友の会の夕べ」
展示に関わった学芸員が、友の会会員に展示の見どころを紹介した。
日時：11月1日（土） 午後4時45分～ 6時30分
参加人数：72名
●**同時開催：**「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」
例年は、博物館本館で単独でのテーマ展示として開催している「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」を、2025年度は「学芸員のおしごと」展の会場内で開催した。
この展示では、小学生～高校生が作成した動物・植物・昆虫・化石・岩石系の自由研究作品や標本を扱った。作品は全てケース内に収めて展示し、冊子にまとめられた作品については、前年と同様、冊子の中身をコピーして会場内で閲覧できるようにした。出展者とタイトルは以下の通り。
秋山　　湊：大和川にすむカマツカの仲間
安東　大和：とっとりけんの貝たち
石田　義亜：昆虫採集入門
稲富　六熊：①鳥類の羽と骨の標本、②北海道の岩石と鉱物
犬伏エルリッヒ健太郎：ドクダミの切断地下茎の新地下茎及び新根の長さと温度との関係性
浦田　　旬：蛾の研究2
大阪市立北稜中学校サイエンス部：カタバミのミクロ調査　～都市進化と葉色の相関～
大山かなと：①大阪の水辺で神秘の命に出会った！？～都会で生きる小さな命～、②夏休み祖父ととった魚たち
尾郷　素彦：長居植物園で拾ったヤマシギの食痕について
小野藤　恒：花さか公園の植物調べと虫とりの記ろく2025夏休み
片岡　諒太：ドキドキ ワクワク きのこ
楠本　哲矢：虫のトラップ大作戦2
坂本　美咲：飼育カマキリの目の黒い原因のちょうさ
定永　泰地：長崎海岸で採取した貝殻標本
末次　　創：「はくせいずかん」ぼくの作り方
杉浦　斗真：イソヒヨドリの標本　~小さな命から広がる自然のつながり～
武野正太郎：川のすなのけんきゅう
田村　大喜：東三国で薬草を探してみた
中島　詩子：カエルは、どんなかべをのぼるのか？
中谷　零咲：トンボやセミの仲間分け
鍋島　結唯：スギナとツクシの生活史と歴史
西　　唯仁：大阪には何種類のトンボがあるのかⅡ～新たな種への挑戦と生息状況調査～
西村　伍市：トクビレのはくせい
藤田佳那子：私の好きなカラスについて　～カラスと仲良く暮らすために私たちができること～
星原　一仁：大阪湾の貝類　～外来種・希少カキ類の分布～
増瀬　　旭：①中野公園で見られる昆虫、②甲虫標本2025
水野　君洋：万ばくで見つけた虫、昆虫標本
甕　　早希：「家の周りのセミ調べ」から2025
甕　　伸志：いのち輝く！二十一世紀に生きる"僕"たちへ　～知りたい虫の面白さ・残したい虫の美しさ～
森　　治己：此花区の昆虫
渡邉　毘駕：奇跡のツチクジラ文化財レスキューについて

Ⅲ．テーマ展示及びミニ展示

■大阪・関西万博関連企画「大阪の宝」
2025大阪・関西万博に合わせ、大阪市博物館機構の各館が所蔵する代表的な資料を公開する「大阪博」事業の一環として、各博物館が20コレクションを選び、展示した。当館は以下の3期に分け、本館ナウマンホールほかにて展示した。関連して、6月21日のオープンセミナーで全体の解説をおこなった。
●先行展示
「岸川椿蔵書」、「花博出展植物コレクション」
この展示は3月14日に行われた国際椿会議2025のポストエクスカーションに合わせる形で、選考して展示を行った。
期間：3月11日（火）～6月15日（日）
期間中（第Ⅰ期が始まるまでの先行期間）の入場者：16,779人
●第Ⅰ期展示　万博開幕に合わせ展示開始。
「本郷次雄菌類資料」、「畔田翠山さく葉標本帳」、「小海途銀次郎鳥の巣コレクション」、「鈴木寿之魚類コレクション」
期間：4月12日（土）～6月15日（日）
・以下の2種は特別展「貝に沼る」展の中で大阪博表示を付けてネイチャーホール内に展示した
「木村蒹葭堂貝石標本」、「吉良哲明氏収集貝類コレクション」
期間：2025年2月22日（土）～5月6日（火・休）
・以下の各展示は常設展示内に展示されているものだが、特設解説パネルをつけてⅠ期からⅡ紀を通して展示した。
「アロサウルス」、「大阪の鯨類」（ナガスクジラ、マッコウクジラ、ザトウクジラ）、「和泉層群の白亜紀化石」（アンモナイトなど）、「大阪平野地下のクジラ・貝類化石」
期間中の入場者：53,367人
●第Ⅱ期展示　開催中の「昆虫MANIAC」展に合わせ、昆虫関係のコレクションを中心に展示した。
「八木沼クモコレクション」、「ポール・ジャクレーコレクション」、「住吉薫チョウ類コレクション」、「岡村宏一チョウ・甲虫類コレクション」、「宝塚昆虫館移管標本」、「大阪平野のボーリングコア」、「三木茂メタセコイア化石標本」
●期間：7月5日（土）～10月13日（月・祝）
●期間中の来場者：101,887人



図：大阪・関西万博関連企画「大阪の宝」（第Ⅰ期）展示風景

■ミニ展示「植物の標本を使って研究する」

当館が所蔵するさく葉標本を使った研究論文を月替わりで紹介するミニ展示。詳細は前号を参照のこと。展示は１年間、月替わりで行い、年度をまたいだ展示であったため、2025年度は２つの研究論文を紹介した。

●期間：2024年６月１日（土）～2025年６月１日（日）

●場所：本館１階ナウマンホール

2025年度の展示紹介のタイトルと紹介した研究論文は以下の通り。

４月「標本をつくって学校の植物を記録する」小林智 2023. 大阪府立天王寺高等学校の草本植物相. 近畿植物同好会々誌. 46:29–40.

５月「日本のシマオオタニワタリ類の分類学的検討」大瀬戸剛 1979. 日本のオオタニワタリとその類品. 南紀生物 21(1) : 6–9. Murakami N., Watanabe M, Yokoyama J., Yatabe Y., Iwasaki H., Serizawa S. 1999. Molecular Taxonomic Study and Revision of the Three Japanese Species of *Asplenium* sect. Thamnopteris. Journal of Plant Research 112:15–25.

特に最終回となった５月の展示は、2025年４月22日に逝去された元学芸員の瀬戸剛さんの追悼として瀬戸さんが研究され、瀬戸さんに顕名されたヤエヤマオオタニワタリの研究を紹介した。ミニ展示の最終回は元学芸員の追悼展示ということで、会期を2025年６月29日まで延長した。



図：ミニ展示「植物の標本を使って研究する」（5月「日本のシマオオタニワタリ類の分類学的検討」）展示風景

■テーマ展示「種類の多さ日本一!?琵琶湖・淀川のドジョウたち」

琵琶湖・淀川水系は都市河川でありながら、日本で最もドジョウ類が多様な水系の１つであることはあまり知られていない。そこで、琵琶湖・淀川水系に分布するドジョウ科の全種類について、当館の収蔵標本や写真を展示し、その魅力をご紹介するとともに、存続の危機に陥っている種類がいる現状や、外来ドジョウ類によって生じている問題などについて紹介した。なお、本展示は当館へ標本調査に訪れた京都大学大学院生（三内悠吾氏）の発案によるものである。同氏と展示内容について協議することで、最新の知見や模様の種内変異などの独自の着眼点を取り入れた展示を構成することができた。

●会期：2025年７月19日（土）～８月31日（日）

●場所：本館１階　ナウマンホール

●会期中の入館者数：58,987人



図：テーマ展示「種類の多さ日本一!? 琵琶湖・淀川のドジョウたち」展示風景

■ミニ展示「東アジアのカラスアゲハの仲間」

アゲハチョウ科のカラスアゲハの仲間は東アジアから東南アジアに分布し、様々な種が知られる。近年はDNA解析によって分類体系の変遷があり、八重山諸島の亜種とされていた種が独立種となった。この展示では、国内産種の他に、台湾固有のホッポアゲハ、ルソン島の希少種ルソンカラスアゲハ、アッサム奥地の珍種オナシカラスアゲハなど海外の近縁種を紹介した。

●期間：2025年９月９日（火）～ 10月13日（月）

●場所：本館１階ナウマンホール

●会期中の入館者数：29,750人



図：ミニ展示「東アジアのカラスアゲハの仲間」展示風景

■テーマ展示「化石を楽しむ2025」

令和６年度に引き続き、化石の日に関係する展示と講演会を実施した。「化石を楽しむ2025」と題し、収蔵庫に保管している化石標本から、古生代の植物化石、中生代の脊椎動物化石と新生代の無脊椎動物化石などを展示した。講演会の講師は地史研究室の久保田主任学芸員が担当し、10月19日（日）に、古生物学セミナー 2025「恐竜化石発掘記2025 ―モンゴル・ウズベキスタン編―」として実施した。

●会期：2025年10月18日（土）～ 11月16日（日）

●場所：本館１階ナウマンホール

●会期中の入館者数：33,976人



図：テーマ展示「化石を楽しむ2025」展示風景

■テーマ展示「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」

毎年実施している本展示であるが、今回は特別展「学芸員のおしごと」の中で実施した。28ページを参照のこと。

■新春ミニ展示「午年展～ウマにちなんだいろいろな標本～」

干支の十二支である午（ウマ）にちなんで名づけられた動物、昆虫、植物、化石の標本を展示した。

●会期：2026年１月６日（火）～ １月25日（日）
●場所：本館１階ナウマンホール
●会期中の入館者数：7,362人



図：新春ミニ展示「午年展～ウマにちなんだいろいろな標本～」展示風景

Ⅰ．各種普及教育活動

市民が自然をより深く理解するためには、展示を見るだけでなく、講演を聴いたり、野外観察会や室内実習で実物に触れることが重要である。このような観点から、自然史博物館では各種の普及行事を行っている。普及行事のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からの講師を招くこともある（表１中の** 印）。また、よりきめ細かい普及行事を行い、同時により高度な学習の機会を提供するために、ボランティアによる補助スタッフを導入している（表２中の*印）。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。2007年度より、野外学習会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪自然史センターとの共催で実施している。この連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行う事が可能になり、行事の質の向上につながっている。

2020～2022年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、多くの普及行事が中止や人数制限をかけての実施となった（館報46～48参照）。その後、徐々に制限を緩め、2023年度に従来通りの実施体制に戻した（館報49参照）。感染対策として実施した講演会行事における現地開催とネット配信を組み合わせたハイブリッド形式、および、講演会の見逃し配信は、従来の形式では参加できなかった層もオンライン上で参加・視聴が可能になるメリットから、2025年度も継続して実施している。

2022年度からは、夏季の野外行事における熱中症リスク軽減のため、行事実施・中止の判断基準として、暑さ指数（WBGT）導入した。すなわち、行事予定時刻の暑さ指数（WBGT）の予測値が31以上の場合は原則、野外行事は中止する（行事によっては室内での実施に切り替え）という運用である。参加者へは、雨天中止時と同様、留守番電話により周知している。熱中症リスクの高い時期の行事は、室内活動をメインにしたり、熱中症リスクの低い時期や時間帯に変更して実施するなど、企画段階での工夫を行った。

今年度231回の普及行事を計画し、雨天中止が９回、暑さ指数予測値による中止が０回、河川の増水による中止が１回、実施回数は221回となった。計画された行事は昨年度より19回多く、これは大和川の自然に関する市民参加調査プロジェクト「プロジェクトY」の関連行事や、特別展「学芸員のおしごと」の関連行事が多数企画されたことによるところが大きい。2025年度の行事参加者総数は11,999人（対面：11,099人、ライブ配信行事の同時接続数：900人）で、昨年より2,000人以上増加した。また、自然史博物館のYouTubeチャンネルに３個の動画を新たにアップロードし、合計視聴回数は1,017回だった（2026年４月１日時点）。以下に各行事の概略を記し、表２に行事名、実施月日、参加者数などを記す。

■やさしい自然かんさつ会

自然史博物館の行事に参加したことのない親子連れを主な対象に、多くの人に自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとしている。外部講師と補助スタッフを導入して、安全性と教育効果の向上に努めている。

■大和川シリーズ（地域自然誌シリーズ）

例年は「地域自然誌シリーズ」として企画されている行事で、地域の自然をさまざまな分野の視点から観察し、自然総合的に考えることを目的としている。2023年度から大和川水系の自然に関する市民参加調査プロジェクトを開始したことから、2025年度も引き続き、大和川流域を中心に行事実施場所を選定した。

■テーマ別自然観察会

自然の中からテーマと対象をしぼって観察することで、自然をより深く理解しようとする行事。2025年度は、高槻市自然博物館あくあぴあ芥川と３回、岸和田自然資料館と１回、地学団体研究会大阪支部と１回、日本応用地質学会関西支部と１ 回、共催行事を実施した。

■野外・室内実習

野外および室内において、データの採取・分析、機器を用いた観察など実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。また、標本の作り手を増やすために、標本作製の実習も行っている。

■長居植物園案内

原則として第１土曜日に、植物研究室の佐久間・長谷川・横川と地史研究室の西野が長居植物園を案内する観察会。昆虫研究室・動物研究室の学芸員と共同での案内もそれぞれ１回実施した。補助スタッフが行事記録を発行しており、参加者の学習効果を高めることに貢献している。

■長居植物園案内・動物昆虫編

原則として第３土曜日に、動物研究室または昆虫研究室の学芸員が交代で長居植物園を案内する観察会。都市公園での観察を通じて、季節に応じた身近な自然を知ってもらうことを目的としている。

■鳥類フィールドセミナー

鳥類の観察だけでなく、その生態について考える友の会会員向けのセミナー型の野外行事。長居植物園のほか、近畿圏で合計10回の観察会を実施した。

■ビオトープ

バックヤードを利用してビオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか継続的に調査している。2025年度は、前年度に引き続き、ビオトープの開放時間を設定し、参加者が自由にビオトープを訪れて植物や昆虫を観察する自由観察形式で行事を実施した。

■ジオラボ

化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などを体験する行事。補助スタッフが行事記録を発行しており、参加者の学習効果を高めることに貢献している。

■自然史オープンセミナー

当館学芸員や外部講師による自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。講堂のみの対面形式または講堂とYouTubeのハイブリッド形式で実施した。ハイブリッド形式で実施したものについては、１ヶ月程度見逃し配信期間を設けた。

■ジュニア自然史クラブ

中高生を対象にした行事シリーズ。クラブ組織とすることで、共通の興味対象を持った学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。一度申し込むと、その年度は部員として登録され、メーリングリスト等を通じて行事が案内される。2026年３月31日時点の部員数は112名。

■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者に、楽しみながら展示の内容を理解してもらう目的で実施している。テーマは常設展示および特別展に関連したものなどから、ワークショップスタッフと学芸員で決定している。また、大学生のサポートスタッフを募集し、研修を実施した上でワークショップの実施を手伝ってもらっている（年間登録制）。

また、３月の「はくぶつかん子どもまつり」では、サポートスタッフが主役となって、オリジナルプログラム

を企画し、実施してもらっている。

■その他の特別行事

• 標本の名前を調べよう

主に夏休みに採集して作製した標本の名前を、講師と一緒に調べる行事。学芸員だけでなく、館外からも多数の専門家を招き、８月後半に実施している。

• はくぶつかん・たんけん隊

小中学生を対象に、普段は見ることのできない博物館のバックヤードを、学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。２日間午前・午後の計４回実施し、合わせて保護者向けツアーも行った。

■オンライン動画コンテンツ

以下３件の動画を公開した。

・小さいとこネット関東クラスター「小規模博物館相談室」
・『教養としての生態学』著者トーク２
・オンラインシンポジウム「博物館のデジタルアーカイブと学校をつなぐ」

■館外での講演など

藤田浩明「資料をまもるために今できること－保存科学の役割－」モンゴル文化財保存修復協会（2025年12月10日）

藤田浩明「物館における資料保存に関する研修・技術指導（モンゴル博物館等関係者)」（2025年５月29日、月14日、11月７日に当館、７月11日～ 17日にモンゴル現地）

和田　岳「展覧会連携トーク企画　特別展「鳥」」ミュージアム連続講座2025（2026年２月20日）

松井彰子「大阪府周辺における淡水魚類相と外来魚問題」シニア自然大学校、第２回 人と自然の講座（2025年４月18日）

松井彰子「きしわだネイチャー探訪 #154 阪南２区潜水調査2025冬」（テレビ岸和田）解説・ナレーション（2025年５月31放送）

藤江隼平「高槻のホタルたち」高槻市立自然博物館 講座（高槻市立自然博物館）（2025年５月10日）

藤江隼平「小さいけれど面白い、身近な昆虫の多様性・生態」2025年度大阪私立理科教育研修会（生物部会）（2025年８月19日）

横川昌史「巨椋池の水草再発見：標本が語る自然史の記録」京都市青少年科学センター・きょうと生物多様性センター 企画展「巨椋池 の生物標本展」講演会「幻の巨椋池ってどんな池？」（京都市青少年科学センター２階 多目的室）2026年２月７日

横川昌史「【とよのおもいでアーカイブ】クマガイソウ」の監修 豊能町図書館 2026年２月11日登録

久保田克博「日本の恐竜」大阪支部総会.（大阪市立自然史博物館）2025年７月21日 主催：地学団体研究会大阪支部

久保田克博「恐竜のジオラマを作ろう」夏休みこどもミュージアムデー.（洲本市立淡路文化史料館）2025年８月11日 主催：洲本市

石井陽子　豊中市認定研究会　理科離れを止める研究会 研修会「アズキ火山灰の観察」講師（2025年12月３日 吹田市　万博記念公園外周道路沿い）

中条武司「生活の中の地質学」シニア自然大学校　人と自然の講座（2025年11月７日）

中条武司「北摂地域の地形と地質」たかつき市民環境大学（2026年１月29日）

表１：2025年度普及行事参加人数まとめ

※参加者数の欄の括弧は配信の最大同時接続数

やさしい自然かんさつ会		申込者数	当選者数	参加者数
４月13日（日）	春の草花*,**	64	64	雨天中止
４月27日（日）	海べのしぜん*,**	350	200	152
６月28日（土）	はじめてのキノコ*,**	340	164	55
６月29日（日）	はじめてのキノコ*,**	340	164	72
７月26日（土）	ツバメのねぐら	197	197	116
10月13日（月祝）	バッタのオリンピック	96	67	42
12月６日（土）	化石さがし	279	162	61
12月７日（日）	化石さがし	279	162	71
	合計			569（７回）

テーマ別自然観察会		申込者数	当選者数	参加者数
４月19日（土）	住吉大社御田の植物	64	25	22
５月25日（日）	はじめての鳥のさえずり	90	73	56
６月８日（日）	石桁網のよりかす*,**	78	77	67
６月22日（日）	高槻のカエルさがし　＊高槻市自然博物館共催	125	42	35
９月28日（日）	久米田池の水草　＊岸和田自然資料館共催	8	8	7
10月19日（日）	秋のきのこ*	70	70	53
10月25日（土）	秋の木の実・草のタネ			13
11月９日（日）	川原の石ころ	57	25	雨天中止
11月22日（土）	山のふもとの地形と災害	24	24	19
11月24日（月祝）	仁川・甲山～断層と六甲山の隆起～	61	50	37
	合計			309（９回）

大和川の自然シリーズ（地域自然誌シリーズ）		申込者数	当選者数	参加者数
6月1日（日）	西除川源流の里山	47	47	40
10月5日（日）	曽我川	62	42	雨天中止
	合計			40（1回）

野外実習		申込者数	当選者数	参加者数
4月27日（日）	ため池で繁殖する鳥の調査	48	48	31
9月28日（日）	カヤネズミの球巣さがし	54	54	34
	合計			65（2回）

室内実習（室内・野外実習を含む）		申込者数	当選者数	参加者数
4月5日（土）	鳥の調査の勉強会	13	13	5
7月6日（日）	平野の地下の地層の調べ方	19	19	13
7月19日（土）	鳥の調査の勉強会			6
8月3日（日）	ホネ標本の作りかた（未成年向け）*	29	29	24
8月31日（日）	ホネ標本の作りかた（大人向け）	50	25	23
9月28日（日）	火山灰	15	13	11
11月1日（土）	鳥の調査の勉強会			5
11月2日（日）	昆虫同定マスター講座　シリアゲムシ	26	26	19
12月7日（日）	魚の標本を作ってみよう（1回目）*,**	102	29	27
12月14日（日）	きのこの顕微鏡観察（初心者コース）	80	74	68
12月21日（日）	植物の標本を観察する	8	8	5
1月18日（日）	魚の標本を作ってみよう（2回目）*	102	29	19
2月1日（日）	イカの解剖*	21	21	17
	合計			242（13回）

長居植物園案内		申込者数	当選者数	参加者数
4月5日（土）	4月*			69
5月3日（土）	5月*			67
6月7日（土）	6月（虫スペシャル）*			89
7月5日（土）	7月*			49
8月2日（土）	8月*			37
9月6日（土）	9月*			47
10月4日（土）	10月*			29
11月1日（土）	11月*			65
12月6日（土）	12月（鳥スペシャル）*			91
1月10日（土）	1月*			50
2月7日（土）	2月*			54
3月7日（土）	3月*			65
	合計			712（12回）

長居植物園案内・動物昆虫編		申込者数	当選者数	参加者数
4月26日（土）	4月「はじめてのバードウォッチング」			42
5月24日（土）	5月「初夏の昆虫」			雨天中止
6月28日（土）	6月「公園で繁殖する鳥」			47
7月26日（土）	7月「魚」*	73	29	25
8月30日（土）	8月「池のプランクトン」	96	60	53
9月27日（土）	9月「はじめての鳥の羽根ひろい」			45
10月25日（土）	10月「秋の渡り鳥」			52
11月22日（土）	11月「公園の冬鳥」			53
12月27日（土）	12月「冬越しの虫」			77
1月31日（土）	1月「冬の羽根ひろい」			47
2月28日（土）	2月「早春の鳥のくらし」			55
3月28日（土）	3月「花にくる鳥」			102
	合計			598（11回）

教員・観察会指導者向け支援プログラム		申込者数	当選者数	参加者数
8月7日（木）	教員のための博物館の日2025 in 大阪市立自然史博物館			100
	合計			100（1回）

自然史オープンセミナー（★…ハイブリッド行事）		申込者数	当選者数	参加者数
4月12日（土）	プロジェクトY～大和川水系調査中間発表&今年の調査★			22(29)
9月20日（土）	南極ってどんなところ？			93
2月14日（土）	大阪湾岸の水鳥の30年★			39(19)
3月21日（土）	大坂城の石垣★			19(36)
	合計			173(84)（4回）

ジオラボ		申込者数	当選者数	参加者数
11月8日（土）	葉っぱの化石を観察しよう	29	24	19
12月13日（土）	大昔の大阪が海だったって本当？	24	24	12
1月10日（土）	海の砂を見てみよう	38	22	27
2月14日（土）	三葉虫をじっくり見てみよう*	79	32	28
3月15日（日）	恐竜の歯をしらべよう	177	22	12
	合計			98（5回）

ジュニア自然史クラブ		申込者数	当選者数	参加者数
4月2日（火）	ミーティング　標本実習と長居公園の生き物探し			50
5月6日（金）	奈良で糞虫さがし			雨天中止
6月9日（日）	磯観察			29
7月21日（日）	島本町のキノコさがし			20
8月2日（木）	ミーティング　標本実習*			31
9月8日（日）	琵琶湖最北端の水辺の生き物*			29
10月6日（日）	川で魚採り			雨天中止
11月2日（日）	化石探し			31
12月14日（日）	琵琶湖の冬鳥*			20
1月5日（月）	河原で焼き芋			23
2月1日（日）	冬越しの虫さがし*			21
3月27日（金）	帝釈鉱山跡で鉱物採集*			31
	合計			285(10回)

特別行事（★…ハイブリッド行事）		申込者数	当選者数	参加者数
4月29日（火）	自然史博物館・大阪自然史センター活動報告会★			27(30)
5月10日（土）	第42回地球科学講演会「地質の日」 協賛行事「関西で考えるべき活断層地震の揺れ」★	93	90	64(76)
8月17日（日）	標本の名前を調べよう			55
8月23日（土）	生態学！知れば世界は変わる? －「教養の生態学」出版イベント－★			35(61)
9月7日（日）	シンポジウム「大阪のシダと標本庫　これまでとこれから」★			74(53)
9月15日（月祝）	国際シンポジウム「大阪湾岸『いのち輝く』を未来へ ～はじめよう！連携が生み出す豊かな生物多様性～」★			132(105)
9月19日（金）	大阪湾セミナー「魚庭（なにわ）の恵みを未来へつなぐ サカナたち～御放流魚・お手渡し魚を知ろう～」			33
9月27日（土）	日本甲虫学会大阪例会・公開講演会 「世界のブナの森～植物と虫たちが紡ぐ自然史と～」★			43(15)
10月19日（日）	古生物学セミナー 2025「恐竜化石発掘記2025 －モンゴル・ウズベキスタン編－」★			71(59)
11月23日（日）	大阪府高等学校生徒生物研究発表			182
11月29日（土）	友の会サミット2025「博物館コミュニティの未来を考える」★			98(45)
11月30日（日）	友の会サミット2025「博物館コミュニティの未来を考える」★			86(18)
12月13日（土）	日本甲虫学会大阪例会・公開講演会「私のタマムシ研究 －10年の歩み－」★			48(66)
1月11日（日）	はくぶつかん・たんけん隊	113	113	51
1月12日（月）	はくぶつかん・たんけん隊	113	113	49
3月1日（日）	地域自然史と保全研究大会★			117(27)
3月14日（土）	日本甲虫学会大阪例会・公開講演会「兵庫県産キクイム シ類の種多様性の解明＋日本産キクイムシ類の概説」★			38(17)
	合計			1,203(572)(17回)

友の会月例ハイキング		申込者数	当選者数	参加者数
4月20日（日）	春の明日香路と飛鳥川			78
5月18日（日）	枚岡公園で新緑の森を散策しよう！			55
6月15日（日）	梅雨時の大泉緑地			58
7月6日（日）	比叡山			27
8月24日（日）	自作トラップでウミホタルの観察にチャレンジしよう	149	77	65
9月28日（日）	延命寺と石見川・天見川			54
11月16日（日）	摩耶山			62
12月21日（日）	初冬の奈良公園北部			雨天中止
1月18日（日）	竜田古道と亀の瀬地すべり			75
2月15日（日）	早春の矢田丘陵周辺の水辺			100
3月15日（日）	紀見峠			87
	合計			661(10回)

ビオトープ		申込者数	当選者数	参加者数
4月19日（土）	4月			43
5月17日（土）	5月			雨天中止
6月21日（土）	6月			49
10月18日（土）	10月			28
11月15日（土）	11月			43
	合計			163(4回)

鳥類フィールドセミナー		申込者数	当選者数	参加者数
4月19日（土）	はじめてのバードウォッチング			55
5月11日（土）	はじめての鳥のさえずり			37
6月21日（土）	公園で繁殖する鳥			37
7月19日（土）	ツバメのねぐら			37
9月20日（土）	はじめての羽根ひろい			40
10月18日（土）	秋の渡り鳥			30
11月8日（土）	初冬の公園の鳥			29
1月17日（土）	冬の羽根ひろい			42
2月14日（土）	早春の鳥のくらし			39
3月14日（土）	花にくる鳥			38
	合計			384(10回)

プロジェクトY関連・班別研修会		申込者数	当選者数	参加者数
4月3日（木）	大和川堤防の春の植物観察			13
4月10日（水）	石川河川公園植物相調査番外編			3
4月18日（金）	昆虫班			1
4月20日（日）	植物班　標本のマウント・同定			5
4月24日（木）	昆虫班			2
4月30日（水）	魚班調査会（2025年度 第1回）			4
5月1日（木）	植物班　標本のマウント・同定			5
5月7日（水）	石川河川公園自然ゾーンA植物相調査 第10回			6
5月7日（水）	魚班調査会（2025年度 第2回）			6
6月5日（水）	石川河川公園自然ゾーンA植物相調査 第11回			4
6月10日（火）	魚班調査会（2025年度 第3回）			雨天中止
6月18日（火）	魚班調査会（2025年度 第4回）			4
6月25日（水）	魚班調査会（2025年度 第5回）			増水中止
6月29日（火）	魚班調査会（2025年度 第6回）			6
7月6日（日）	魚班調査会（2025年度 第7回）			6
7月13日（日）	魚班調査会（2025年度 第8回）			8
7月14日（月）	石川河川公園自然ゾーンA植物相調査 第12回			6
8月2日（土）	昆虫班			5
8月19日（火）	石川河川公園自然ゾーンA植物相調査 第13回			5
8月30日（土）	昆虫班			8
9月19日（金）	石川河川公園自然ゾーンA植物相調査 第14回			4
10月8日（水）	魚班調査会（2025年度 第9回）			3
10月22日（水）	魚班調査会（2025年度 第10回）			6
11月15日（土）	魚班調査会（2025年度 第11回）			7
	合計			117(22回)

その他の友の会行事		申込者数	当選者数	参加者数
4月26日（土）	昆虫採集入門講座「石川河川敷」	58	45	35
4月27日（日）	昆虫採集入門講座「石川河川敷」	58	45	35
5月4日（日）	友の会登山観察会「リトル比良」	27	25	20
6月8日（日）	フクロウさがしてナイトハイク	112	56	47
7月26日（土）	夜の博物館・ビオトープを探検しよう！	135	55	47
8月9日（土）	友の会合宿「佐渡島」	72	55	51
8月10日（日）	友の会合宿「佐渡島」	72	55	51
8月11日（月祝）	友の会合宿「佐渡島」	72	55	51
10月12日（日）	友の会秋祭り「砂絵とモザイクアート」	45	45	36
1月25日（日）	大阪市立自然史博物館友の会・公開講演会			162
2月21日（土）	友の会バックヤードツアー	209	209	50
2月22日（日）	友の会バックヤードツアー	209	209	57
2月23日（月祝）	友の会バックヤードツアー	209	209	59
3月29日（日）	海の向こうの見聞録・私の自然観察発表会			48
3月29日（日）	友の会お楽しみ交流会			42
	合計			791(15回)

子ども向けワークショップ		申込者数	当選者数	参加者数
4月5日（土）	みてみてハカセ わたしの貝千種（4・5月）			67
4月6日（日）	みてみてハカセ わたしの貝千種（4・5月）			57
4月12日（土）	みてみてハカセ わたしの貝千種（4・5月）			55
4月13日（日）	みてみてハカセ わたしの貝千種（4・5月）			40
6月14日（土）	クジラ・スタンプラリー（6月)			165
6月15日（日）	クジラ・スタンプラリー（6月)			268
6月21日（土）	クジラ・スタンプラリー（6月)			209
6月22日（日）	クジラ・スタンプラリー（6月)			211
7月19日（土）	ツンツン　ツノゼミ（7月・8月）			60
7月20日（日）	ツンツン　ツノゼミ（7月・8月）			51
7月26日（土）	ツンツン　ツノゼミ（7月・8月）			62
7月27日（日）	ツンツン　ツノゼミ（7月・8月）			60
8月2日（土）	ツンツン　ツノゼミ（7月・8月）			60
8月3日（日）	ツンツン　ツノゼミ（7月・8月）			64
8月9日（土）	コロコロ　フンコロガシ（8月）			242
8月10日（日）	コロコロ　フンコロガシ（8月）			268
8月16日（土）	コロコロ　フンコロガシ（8月）			180
8月17日（日）	コロコロ　フンコロガシ（8月）			200
8月23日（土）	ハカセとくらべる　オスとメス（8・9月）			35
8月24日（日）	ハカセとくらべる　オスとメス（8・9月）			65
9月20日（土）	ハカセとくらべる　オスとメス（8・9月）			60
9月21日（日）	ハカセとくらべる　オスとメス（8・9月）			64
11月1日（土）	はくぶつかん　ハカセのおしごと（11・12月）			42
11月2日（日）	はくぶつかん　ハカセのおしごと（11・12月）			43
11月15日（土）	おしごとすごろく（11・12月）			90
11月16日（日）	おしごとすごろく（11・12月）			112
12月6日（土）	おしごとすごろく（11・12月）			46
12月7日（日）	おしごとすごろく（11・12月）			55
12月13日（土）	はくぶつかん　ハカセのおしごと（11・12月）			57
12月14日（日）	はくぶつかん　ハカセのおしごと（11・12月）			53
2月14日（土）	はくぶつかんバッグ（2月・3月）			91
2月15日（日）	はくぶつかんバッグ（2月・3月）			139
3月7日（土）	はくぶつかんバッグ（2月・3月）			71
3月8日（日）	はくぶつかんバッグ（2月・3月）			134
3月21日（土）	はくぶつかん　こどもまつり			103
3月22日（日）	はくぶつかん　こどもまつり			116
	合計			3,695(36回)

特別展「貝に沼る」関連行事（オープンセミナー枠の講演会以外）		申込者数	当選者数	参加者数
4月5日（土）	特別展「貝に沼る」ギャラリートーク			15
4月6日（日）	特別展「貝に沼る」ギャラリートーク			15
4月20日（日）	特別展講演会「貝類のまぼろしに沼らされて」			44(57)
	合計			74(57)(3回)

特別展「昆虫マニアック」関連行事（オープンセミナー枠の講演会以外）		申込者数	当選者数	参加者数
7月12日（土）	特別展講演会「ハチMANIAC」			68(52)
8月16日（土）	特別展講演会「こんなムシもいるよ！MANIACな昆虫たち」			40(52)
8月31日（日）	特別展講演会「うんこ虫を追ってみた！」～虫の絵本が大人気！絵本作家舘野鴻さん講演会～			94(28)
	合計			202(132)(3回)

特別展「学芸員のおしごと」関係行事（オープンセミナー枠の講演会以外）		申込者数	当選者数	参加者数
11月1日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			18
11月1日（土）	友の会の夕べ			72
11月8日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			19
11月15日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			28
11月16日（日）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			28
11月22日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			14
11月22日（土）	特別展講演会「自然史研究に大きく役立つ博物館標本のDNA」			29(29)
11月29日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			19
12月6日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			38
12月13日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			16
12月20日（土）	特別展講演会「世界の博物館で働くということ―イギリス・ザンビア・カリブ海の現場から」			25(26)
12月20日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			20
12月24日（水）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク・冬休み特別版			8
12月25日（木）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク・冬休み特別版			32
12月26日（金）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク・冬休み特別版			23
12月27日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			21
1月6日（火）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク・冬休み特別版			23
1月7日（水）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク・冬休み特別版			10
1月10日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			25
1月17日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			26
1月17日（土）	学芸員・研究者になりたい方向け相談会			12
1月18日（日）	学芸員・研究者になりたい方向け相談会			11
1月24日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			21
1月31日（土）	特別展「学芸員のおしごと」ギャラリートーク			30
1月31日（土）	学芸員・研究者になりたい方向け相談会			19
2月1日（日）	学芸員・研究者になりたい方向け相談会			31
	合計			618(55)(26回)

オンライン行事（オープンセミナー以外）

公開日		2026.4.1時点の視聴回数
10月22日（水）	小さいとこネット関東クラスター「小規模博物館相談室」	123
11月19日（水）	『教養としての生態学』著者トーク 2	185
1月26日（月）	オンラインシンポジウム「博物館のデジタルアーカイブと学校をつなぐ」	709
	合計視聴回数	1,017(3回)

Ⅱ．学校教育との連携

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館する学校・園では、展示見学の事前学習・事後学習に、博物館の展示や資料を教材にした授業を行っているところもある。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は、学校の授業や教員のスキルアップの教材としても活用されている。博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。これまでも、博物館に蓄積された標本・資料や知識が教育現場でも活用できるよう、学校の先生と情報交換をしながら、多種多様な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな連携の方法を創り出す必要がある。

１．体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフを、２名の総務課職員が兼務している。総務課の教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum)委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

２．連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

＜児童・生徒向け事業＞

・博物館マップ・ワークシートの配布

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の２種類、ワークシートは小学校低学年・高学年各１種類、中学校２種類の合計４種類がある。

また、見学後に博物館の展示について家族や友達とコミュニケーションを促すツールとして活用してもらえるよう、小学校団体に子ども向けパンフレットを配布している。

・博物館での授業（リクエスト授業）と質問対応

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、リクエスト授業、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の観察、実習室での実習などを組み込んでいる。これらの実施に当たっては、2016年度から先生に授業計画申込書を提出してもらい、これを基に先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施することにした。2025年度は保育所・幼稚園２件、小学校８件、中学校２件、高校４件、大学２件、支援学校１件の合計19件の授業・質問対応７件、標本作成等の実習１件を行った。

2025年度の授業例：大阪平野のなりたち、学芸員の仕事・研究についてなど。

・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受入れ

＜先生向け事業＞

・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、博物館見学の概要説明に加え、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布し、貸し出し資料やワークシートなど学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学校での博物館利用に関する相談があれば、見学時にできることやリクエスト授業について提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。団体見学の下見が集中する春休み・夏休みには、下見説明会を実施している。2025年度は、「団体見学の事前学習で使えるＷＥＢコンテンツ」というチラシを作成し、下見資料の一つに加えた。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。2025年度は、博物館の出版物等書籍10件、ビデオ・ＤＶＤ０件、紙芝居64件（紙芝居64件・CD-R０件）、標本キット39件の貸し出しを行った。

貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズ、「ナガスケ」「ナウマンゾウ」紙芝居セットなど。

ビデオ・CD－ROM・DVD：ようこそ自然史博物館へ、大和川と生きものたちなど。

標本キット：学芸員のお仕事、国語で使える貸出キット「タンポポ」「虫の体」、川原の石ころ、大阪のボーリングコア、「大阪平野のおいたち」掛け図セット、セミ、テントウムシ、ドングリ、ホネキット（肉食・草食動物の頭骨、アライグマの全身骨格）など。

・教員向けの研修

幼・保・小中学校・高校・特別支援学校の教員、教員を目指している大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方を対象に研修を行っている。2025年度は、大阪市総合教育センターとの連携研修を２回（うち１回は「教員のための博物館の日」と合同で実施）、大阪府教育センターとの連携研修を１回開催した。これら以外に、各地の理科教育研究会等から依頼を受け、教員研修を館内で２件、外部に学芸員を講師として派遣１件（詳細は32ページ参照）実施した。

・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク（Teachers-Museum Network）

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク（Teachers-Museum Network）をつくっている。164名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を４回発行した。

＜その他＞

・教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館の実施

国立科学博物館が全国的に進めている事業である「教員のための博物館の日」を８月７日に行った。体験型プログラム・展示解説プログラムなどさまざまな教員向け研修を実施した。大阪市教育センターの研修を兼ね、100名の参加があった。

（プログラム）講演プログラム：学校向け事業・貸出資料の紹介、ウェブコンテンツの見方、「学芸員の仕事」貸出展示キットの紹介、特別展「昆虫MANIAC」の紹介

展示解説プログラム：骨や歯を比べて分かること、「生き物のくらしのねらいとみどころ、大阪の外来昆虫

体験型プログラム：新技術でリアル・バーチャルの天体観察（大阪市立科学館学芸員によるプログラム）、化石

について見る知る：示準化石、植物の毛を見てみよう

・大阪府内の高校との連携

大阪府高等学校生物教育研究会および大阪府高等学校地学教育研究会と連携し特別展の情報提供を行っている。2025年度の大阪府高等学校生徒生物研究発表会を11月23日に博物館で実施した。

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介（現在、見直しのため休止中）

小学校の生活科・社会科・理科・国語・家庭科・保健、中学校の社会科（地理・歴史）・理科・国語･家庭科・技術・保健体育の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向け事業についての情報提供を行っている。団体見学の予約方法や学校向け貸出資料の一覧を掲載し、ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用に役立つ情報を提供している。自然史博物館のWEBコンテンツ「おうちでたのしむ自然史博物館」では、学校向け貸出資料の紙芝居「ナガスケ」「はくぶつかんのナウマンゾウ」、ミニガイド「クジラのバトン」、「学芸員の仕事に密着！　大阪市立自然史博物館」の動画を配信し、見学の事前学習として活用できるようにしている。

・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の本館１階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談への対応を行い、貸出資料（標本キット、ビデオ・CD－ROM・DVDなど）、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

Ⅲ．ボランティア事業

１．補助スタッフ制度

1995年より、各種普及行事を学芸員や講師と協力して運営する補助スタッフを、当館のよき理解者である友の会会員から募集している。補助スタッフには、行事の際に必要な知識や技術を身に着けるために、行事の内容に応じて学芸員による事前研修や勉強会、打合わせ、事後研修を実施している。補助スタッフは、このような研修の場で自らの興味・関心に応じて学習を深め、その成果を普及行事の運営を通して社会に還元する意欲のある方々であり、当館の普及行事を支える重要な存在である。

2025年度に補助スタッフの協力を得て実施した行事は以下のとおりであり（雨天中止は除く。括弧内は行事当日とは別の日程で行われた研修の日付と人数）、スタッフとして活動された方は延べ225人であった。

■やさしい自然かんさつ会

「海べのしぜん」	４月26日	14名
	（４月25日	９名）
「はじめてのキノコ」	６月28日	３名
「はじめてのキノコ」	６月29日	３名
「ツバメのねぐら」	７月26日	５名
「バッタのオリンピック」	10月13日	３名

■テーマ別自然観察会

「石桁網のよりかす」	６月８日	６名
「秋のきのこ」	10月19日	４名

■室内実習

「ホネ標本の作りかた（子供向け）」	８月３日	５名
「ホネ標本の作りかた（大人向け）」	８月31日	５名
「魚の標本を作ってみよう」	12月７日	３名
「きのこの顕微鏡観察」	12月14日	１名
「イカの解剖」	２月１日	５名

■植物園案内

４月５日	７名	５月３日	８名
６月７日	７名	７月５日	５名
８月２日	７名	９月６日	７名
10月４日	３名	11月１日	９名
12月６日	８名	１月10日	５名
２月７日	10名	３月７日	９名

■植物園案内・動物昆虫編

７月26日	１名	８月30日	３名

■ジオラボ

11月８日	１名	12月13日	４名
１月10日	３名	２月14日	３名
３月15日	４名		

■標本の名前を調べよう

８月17日　２名

■はくぶつかん たんけん隊

１月11日　９名
１月12日　９名（１月10日　10名）

■ジュニア自然史クラブ

４月２日	５名	８月１日	１名
９月21日	３名	12月14日	１名
２月１日	２名	３月27日	１名

２．子どもワークショップサポートスタッフ

博物館で開催している「子どもワークショップ」の運営補佐をする学生ボランティア「子どもワークショップ・サポートスタッフ」を、年間登録制で募集している。本事業は2007年度から継続して行っている。対象は18歳以上の学生で、登録期間は５月～翌３月である。従来は申込み者全員を受け入れていたが、今年度から先着25名での運用を開始した。５月の初回研修を経て、12月までは各月のワークショップに補佐役として参加してもらう。その後、12月頃からサポートスタッフがチームを組んでプログラムを企画し、３月に開催するワークショップ「はくぶつかん こどもまつり」でそのプログラムを実施・運営し、１年間を締めくくるという流れで行っている。

今年度は新規登録者13名と継続登録者13名の計26名の体制となった。「はくぶつかん こどもまつり」は12月からミーティングを進めた。今年度はスタッフを３班に分け、「しぜんのいろ、いろいろ」「レッツゴー！かせきたんけんたい」「いきのこれ！どんぐりサバイバル」の各プログラムを企画した。



しぜんのいろ、いろいろ



いきのこれ！どんぐりサバイバル



レッツゴー！かせきたんけんたい

3．標本・資料の収蔵・整理

当館の標本の多くはアマチュアを含めた多くの外部研究者の努力により収集されたものである。寄贈後も、こうした方々の標本利用・整理作業への協力が続けられ、質的な向上が図られている。これは、一般に言う「ボランティア活動」とは異なったものであるが、博物館活動へのボランタリーな協力でありより原初的なボランティア活動といえる。当館がこうした協力により支えられていることを示すため、この項目に感謝して示す。どの分野にも多くの協力者がいるが、特に現在、魚類、昆虫（甲虫および双翅目）・植物・図書整理で定期的な活動がおこなわれている。魚類分野では、魚類標本の作製・登録・整理のいずれかの内容で毎月１回程度実施し、のべ87名の参加があった。昆虫（甲虫および双翅目）では、のべ20 名近い専門家がボランティアとして毎月継続的に標本の整理・検討を行っている。また、膜翅目標本についても専門家と同定講座参加者による標本整理会を実施した。植物標本の整理作業、マウント作業については、近畿植物同好会、奈良植物研究会の方々に全面的にご協力いただいている。毎月１日程度のシダ植物の標本整理を行い、その他の植物標本類については、原則的に毎週火・木を作業日として整理作業を実施した。また、博物館主導で神戸大学から寄贈された角野康郎水生植物コレクションの整理を月１回実施し、のべ53名の参加があった。図書整理については、大山桂文庫について１～２ヶ月に１回程度の作業日を設けて整理を行っており、今年度は６日間の活動でのべ32名の参加があった。

Ⅳ．博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、2025 年度は以下の 22 大学、48 名の学生を受け入れた。夏期、

秋期、冬期いずれも予定通り対面で実施した。

一般実習コース

夏　期：８月20日～24日　18名

小西紗耶（京都橘大学）、東　弥宏（大阪成蹊大学）、熊ノ郷淳子・村田幹斗（八洲学園大学）、大脇彩椰果（摂南大学）、中村明日香（関西学院大学）、澤田知佳（奈良女子大学）、勝見朋恵（神戸大学）、買田　賢（東京農業大学）、春田陽南・三宅遥香（琉球大学）、吉田晋平（和歌山大学）、Guo ZiXuan（筑波大学）、竹内洸智・土川晃世・中野瑛梨香（追手門学院大学）、的場　悠（京都精華大学）、福山亮部（京都大学）

秋　期：10月８日～12日　18名

吉川旺葵・亀谷　涼・岡本志保（滋賀県立大学）、高岸夢翔（近畿大学）、小西晴人（関西学院大学）、千野可菜美（奈良女子大学）、桂木景子（北里大学）、前田幸一・堺井慶一郎・富満千尋（大阪公立大学）、宮戸俊介・中村羽衣（和歌山大学）、宇野雄登（神戸大学）、辻田恵太郎・石賀麻菜美・高橋孝弥（筑波大学）、桑原亜澄（北海道大学）、佐々木太朗（岡山大学）

冬　期：１月10～12日、14～15日　12名

宇野一樹（滋賀県立大学）、岡本脩平・森貞　綾・森田千晴（近畿大学）、名倉寛人（聖徳大学）、村上一真（大阪公立大学）、石川夏帆（筑波大学）、廣部康太・金子和広（北海道大学）、松下将士・坂田星光・植田耀仁（追手門学院大学）

Ⅴ．大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に活用して、自然に親しみ学習しようとする人たちのための会である。友の会の年度計画は１～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人 大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に行事を企画している。2020年から2023年にかけては、コロナウイルス感染症の影響を受け、行事の実施方法が制限されていたが、2024年度以降はほぼ従来通りに戻り、友の会秋祭りやお楽しみ交流会といった飲食を伴う行事も再開した。また本年度から、コロナ禍以降中止となっていた宿泊有りの友の会合宿も再開することができた。

■庶務報告

１．2025年度の友の会会員数は、1,669名（一年会員1,296名、４月会員135名、半年会員80名、10月会員50名、賛助会員108名）であった。

※2025年度の賛助会員（敬称略）：

井内由美、池上隆之、池田裕介、石井真美、石田美禰子、石原千賀子、泉原友里、乾　公正、乾　俊弥、犬伏エルリッヒ健太郎、猪野　守、井上泰江、井上洋子、井上竜馬、岩井健人、氏家里詞、太田勝己、太田葉子、大野恵美子、奥野アオイ、小沢利幸、加賀まゆみ、桂孝次郎、金森太佑、加茂大介、河越恵美、北口繁和、紀藤亜美、倉成　正、小郷一三、小島和江、小山　栄、阪田裕司、佐々木万里子、佐竹敦司、佐藤喜美子、澤田佳宏、重永裕之、柴田可奈子、シライシヨシコ、新宮成哲、鈴木一平、高田憲一、高田みちよ、髙橋満子、瀧川久子、瀧端真理子、田代　貢、田中貞之、田村芙美子、辻野寿彦、土屋慶丞、角村　茂、寺田雅章、内貴章世、中井悦子、中尾はな、長瀬陽子、中村　肇、鍋島靖信、西川喜朗、西澤雅子、西田有理、西山まゆみ、丹波三千代、野々村路子、野村典子、萩野　哲、波戸岡清峰、浜田信夫、早船琢磨、原　義浩、平山孝文、深瀬健二郎、藤田芙美、前川　匠、益田晴恵、松浦宜弘、丸山健一郎、三木洋子、南出伸司、宮城精子、宮城達雄、三宅規子、宮武頼夫、六車恭子、安井通宏、山崎洋美、山下良寛、山田明子、山西良平、吉田多加良、吉田晴彦、吉田芳子、類家　翔、若林伸治、和田　岳、渡邊淳一、渡邉岳志、ほか匿名12名。

２．５回の定例評議員会を開催し、友の会事業や庶務について審議した。

３．事業ワーキンググループで６回の事業に関する議論を行い、評議員会に提案した。

■事業報告

１．印刷物の刊行：Nature Study誌71巻１号（通巻848号）～12号（通巻859号）を発行した。また２月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。

２．行事を37回計画し、うち34回を実施した（中止はいずれも雨天中止）。行事には延べ1,811名（ライブ配信の視聴者数を含む）の参加があった。【※のみ申込み制】

（１）友の会総会2025

１月28日（日）「総会議事　行事報告」139名参加
公開講演会「絵かき虫で生物学：潜り方の多様性から種分化まで」　139名参加
ライブ配信　最大同時接続数35(35日間の視聴回数448回)

（２）友の会月例ハイキング　（11回計画、９回実施、480名参加）

１月19日（日）「淀川で冬鳥観察」35名参加
２月16日（日）「宇陀路の自然、榛原から室生湖」46名参加
３月16日（日）「春の磯で海藻の味くらべ」雨天中止
４月20日（日）「春の明日香路と飛鳥川」78名参加
５月18日（日）「枚岡公園で新緑の森を散策しよう！」55名参加
６月15日（日）「梅雨時の大泉緑地」58名参加
７月６日（日）「比叡山」27名参加
８月24日（日）「自作トラップでウミホタルの観察にチャレンジしよう」※65名参加
９月28日（日）「延命寺と石見川・天見川」54名参加
11月16日（日）「摩耶山」62名参加
12月21日（日）「初冬の奈良公園北部」雨天中止

（３）友の会秋祭り

10月12日（日）「砂絵とモザイクアート」※39名参加

（４）ビオトープの日（５回計画、４回実施、163名参加）

４月19日（土）43名参加
５月17日（土）雨天中止
６月21日（土）49名参加
10月18日（土）28名参加
11月15日（土）43名参加

（５）鳥類フィールドセミナー（10回計画10回実施、366名参加）

１月18日（土）29名参加
２月15日（土）33名参加
３月８日（土）39名参加
４月19日（土）55名参加
５月11日（土）37名参加
６月21日（土）37名参加

7月19日（土）37名参加
9月20日（土）40名参加
10月18日（土）30名参加
11月８日（土）29名参加

（６）友の会限定！博物館裏側まるごとツアー
２月21日（土）～２月23日（月・祝）※166名参加

（７）友の会の夕べ
２月22日（土）108名参加
11月１日（土）72名参加

（８）登山観察会
５月４日（日）「リトル比良」　※20名参加

（９）昆虫採集入門講座
４月26日（土）～27日（日）石川河川敷　※35名参加

(10) 夜の博物館・ビオトープを探検しよう！
７月26日（土）　※47名参加

(11) 昆虫を食べてみよう
10月27日（日）　※35名参加

３．友の会総会2026の対面での実施について
2026年１月25日（日）に『友の会総会2026』を実施した。今年度は総会議事、公開講演会共に対面のみでの開催となった。

公開講演会は、吉澤和徳 氏（北海道大学）を講師にお呼びし、「トリカヘチャタテの「メス」が語る「男らしさ」の進化」というテーマで講演いただいた。聴講者は161名であった。

総会議事では、評議員から「2025年度庶務・事業・決算・監査報告」「2026年度事業計画・予算提案・評議員提案」が行われ、会場参加者の拍手によってすべて承認を得た。2025年度の行事報告では、「昆虫採集入門講座 2025」（稲本雄太評議員）、夏合宿「佐渡島」（池上隆之評議員）、友の会秋祭り「砂絵とモザイクアート」（小林温評議員）の３行事について報告を行った。

総会の関連行事として、行事多数参加者表彰、ラスターバッジデザインコンテスト、友の会自然写真ギャラリー、月例ハイキング人気投票を開催した。ラスターバッジデザインコンテスト、友の会自然写真ギャラリー、月例ハイキング人気投票の３イベントは、2026年１月11日（日）～25日（日，総会当日）に博物館本館１ 階にて展示と人気投票が行われ、投票の結果は総会にて発表された。写真ギャラリーは応募作品の講評も行った。また、友の会バザーは総会終了後の17時からナウマンホールで実施した。友の会オークションは、総会の最後に出品物を紹介し、友の会バザー中に結果発表を行った。

４．行事の「補助スタッフ」を会員から募り、指導や引率の補助をしていただいた。

５．友の会創業70周年企画として、Nature Study誌で不定期連載「友の会と私」を企画した。

６．友の会サミット2025に参加し、分科会での発表や意見交換、本会の紹介を行った。

■2025年度役員

会　　長：鍋島　靖信
副 会 長：田代　　貢　　川端　清司
評 議 員：池上　隆之　　板本　瑶子　　稲本　雄太
井上　竜馬　　浦野　信孝　　河合　正人
橘高加奈子　　小林　　温　　小林　　智
小林　春平　　高田みちよ　　谷田　一三
寺田　　玲　　西澤真樹子　　花岡　皆子
弘岡　拓人　　道盛　正樹　　三宅　規子
宮崎　智美　　村井　貴史　　森　　康貴
山崎　俊哉　　吉田　晴彦　米澤　里美
渡邊　淳一
会計監査：左木山祝一　　三宅　　卓

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。

＜体制＞

広報委員会は学芸課（２名）と総務課（３名）の広報担当で構成される。定例会議は月１回、または必要に応じて臨時に開催し、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる（特別展やフェスティバルなどの広報では担当者も出席する）。具体的には各月の行事情報の集約と外部への提供資料の作成、行事申込みシステムへの入力、各種定例チラシ（やさしいはくぶつかんの行事チラシなど）の作成、「大阪市立自然史博物館新着情報」及び各SNS公式アカウントの更新・維持、プレスリリースの作成と発出依頼、特別展等大型イベントの広報戦略の策定と公園内掲示物の作成、その他館内掲示物の作成などが主な業務である。また、大阪市博物館機構として行う広報活動（広報誌の発行など）にも、自然史博物館の担当として広報委員会が携わっている。

令和７年度の広報事業における主なトピックについて報告する。

○本年度は、博物館のInstagram運用の方向性および効果的な発信手法の確立を目的として、広告代理店によるInstagram運用コンサルティングを導入した。

コンサルティング期間は、①令和７年５月～10月（６か月間）、②令和７年11月～令和８年２月（４か月間）の２期に分けて実施した。①の期間においては、館で作成したコンセプトメイキングシートを基に、主に投稿内容の分析を受け、リールの活用方法、投稿頻度、コンテンツ計画等について、実践的な助言を得ながら運用を行った。

②の期間においては、特別展「学芸員のおしごと」のプロモーションを兼ねたコンサルティングを実施し、SNS広告配信を含めた広報施策を展開した。

これらの取り組みを通じて、従来は「投稿すること」自体が目的となりがちであった運用から、ペルソナ設定（対象とする顧客像の具体的な想定）に基づき「誰に、どのような目的で届けるか」を意識した発信へと転換することができ、プロモーションにおいては反応率（CVR）の向上が見られ、来館者の獲得につながった。

また、館内の広報関係者間で定期的な情報共有を行ったことで、Instagram運用に対する理解が館内全体に広がった。行事や展示に関わる学芸員による撮影協力等も進み、より魅力的なコンテンツ制作につながっている。

さらに、長居公園内施設や近隣団体とのInstagram投稿を通じた相互広報の機会が増加し、連携強化の契機となった。

フォロワー数については、令和７年４月時点で4,000人台であったものが、同年12月には5,000人を超え、一定の成果が認められた。

【コンサルティング内容】

〈第１期（令和７年５月～10月）〉

・Instagram運用の方向性および発信手法に関する助言
・投稿内容の分析（コンセプトメイキングシートに基づく）
・リール活用、投稿頻度、コンテンツ計画に関する実践的支援
・月次アクセスレポートの発行（４月分より）
・特別展「昆虫MANIAC」に関するGoogleアナリティクス（GA４）分析および講評
　※令和７年８月７日よりキャンペーンパラメータ付きURLを発行し計測開始
・第１期終了後、経営企画主導のもと、５館での報告会を実施（令和７年10月15日）

〈第２期（令和７年11月～令和８年２月）〉

・第１期内容の継続実施
・特別展「学芸員のおしごと」のプロモーション支援
・SNS広告配信の実施

○映画「沈黙の艦隊 北極海大海戦」のロケ地として、博物館玄関前のポーチが使用され、作品が令和７年９月26日に全国公開された。これに伴い、制作会社からポスタービジュアルの提供を受け、博物館ホームページおよびInstagram、Xにて情報発信を行った。話題性を活かした広報展開の一例となった。

○館公式ホームページの日本語版は令和５年度にWordPressに移行しているが、多言語ページは未対応だった。今年度、多言語版ページのうち英語版をWordPressに移行した。

＜広報の種類（項目、媒体）＞

定期的な博物館行事情報提供	大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市のホームページ等、様々なソーシャルメディアのホームページに情報を掲載している。SNS（X（旧Twitter）、（Facebook、Instagram）やYouTube、子ども向けのイベント情報検索サイト、ブロガーの内覧会招待などを用いた情報発信に力を入れており、今後も強化していく予定である。
プレス発表	大阪科学・大学記者クラブ、大阪教育記者クラブ、南大阪記者クラブ、関西レジャー記者クラブへ特別展やミニ展示などの博物館の事業開催や、学芸員の研究成果を発表している。
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
交通広告	特別展ではOsaka Metroの各駅にある局専用掲示板などへのポスター掲出、チラシ類の配置、市政広報板へのポスター掲出を行っている。新聞社等と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内：当月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センター等に大型看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。
	公園内：博物館周辺に常設展や特別展の案内などを掲出している。掲示箇所：Osaka Metro長居駅３号出口、公園内の誘導看板、花と緑と自然の情報センター西門・南門の看板。また、特別展開催時にはのぼりを約50本を長居公園内に掲出し、公園を訪れる人への広報とOsaka Metro出口から博物館までの誘導案内を行っている。
	花と緑と自然の情報センター西門・南門：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくいため、特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申込み不要のイベントを掲示している。

他施設の情報の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している。
大阪市経済戦略局文化部での広報	文化部の博物館施設担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。大阪市動画サイト、携帯サイト、いちょう並木、など。大阪市と企業の包括連携協定による取り組みの一環で、イオングループ各店舗、大阪シティ信用金庫各店舗でのポスター掲出、チラシ配架、あべのキューズモール内デジタルサイネージでの画像放映を行っている。
大阪市博物館機構内での共同広報	大阪市博物館機構が運営する大阪歴史博物館・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立科学館・大阪中之島美術館・大阪市立自然史博物館の6施設で共同広報を行っている。

＜広報先＞

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	チラシ類は、大阪市内・府下を中心に、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市立の学校には逓送便と業務委託による配送を併用。特別展等、広範囲に広報する場合は、日帰り圏内まで送付範囲を拡大する。
地元小学校への広報	イベントの種類および規模に合わせて、地元小学校の全児童にチラシの配布を行っている。
大阪府内の高校への広報	大阪府高等学校生物教育研究会と大阪府高等学校地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会へ特別展のポスターの掲出依頼、内覧会招待の案内を行っている。

＜令和７年度の広報状況＞

印刷物の発送先（学校以外）	件数：大阪市内204件、大阪府内260件、その他の府県305件。施設種類：博物館、大学、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設など
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしいはくぶつかん春・秋（42,000枚）、ワークショップ4回（84,000枚）、毎月の催し物案内（200枚）
情報提供しているメディア関係	約150社（特別展関係および各種リリース約120社
特別展プレス発表の送信先	大阪科学・大学記者クラブ29社、大阪教育記者クラブ14社、南大阪記者クラブ７社、関西レジャー記者クラブ９社、大阪市内区役所広報24区

テレビ放送（特別展以外）	（6／5）BSよしもと「ジモトノチカラ!」常設展示・大阪の宝紹介 （7/17）eo光「銀シャリ橋本の○○WORLD」常設展および収蔵の貝類資料について （1／8）毎日放送「MBS NEWS」大阪湾で発見「迷いクジラ」約２年ぶりに土から掘り起こし骨格標本へ など、６件
ラジオ放送（特別展以外）	（4／8）NHKラジオ「天才ピアニストの今夜もグッジョブ」西野学芸員　学芸員の仕事等について
新聞報道（特別展以外）	（4／8）沖縄タイムス ミヤコヒキガエルの標本発見 （8/21）朝日新聞 いけず石について （9/24）日刊水産経済新聞 大阪湾セミナー （10/1）朝日新聞 青いキノコ兵庫・豊岡の竹林でみつかる　など、13件

＜令和７年度のプレスリリース＞

	リリース日	リリース内容
1	４月４日	1945年に那覇北部で採集されたミヤコヒキガエルの標本を発見
2	５月１日	シイタケの大敵“シイタケオオヒロズコガ”の正体に迫る
3	５月15日	特別展「昆虫 MANIAC」監修者による講演会＆オリジナルグッズ
4	６月17日	テーマ展示「種類の多さ日本一!? 琵琶湖・淀川のドジョウたち」の開催について
5	６月24日	特別展「昆虫MANIAC」内覧会のご案内
6	８月７日	ミニ展示「東アジアのカラスアゲハの仲間」の開催について
7	８月20日	特別展「学芸員のおしごと －集める・調べる・伝える－」の開催について
8	９月３日	テーマ展示「化石を楽しむ2025」を開催します
9	10月16日	特別展「学芸員のおしごと －集める・調べる・伝える－」プレス内覧会のご案内
10	10月29日	特別展「学芸員のおしごと －集める・調べる・伝える－」オリジナルグッズ・関連イベントのご紹介
11	12月３日	新春ミニ展示「午年展」～ウマにちなんだいろいろな標本～の開催について
12	12月18日	特別展「鳥 ～ゲノム解析が解き明かす新しい鳥類の系統～」開催について
13	12月23日	特別展「大絶滅展 －生命史のビッグファイブ」の開催について
14	１月７日	特別展「学芸員のおしごと －集める・調べる・伝える－」追加決定！関連イベント「学芸員・研究者になりたい方向け相談会」開催のお知らせ
15	２月12日	特別展「鳥 ～ゲノム解析が解き明かす新しい鳥類の系統～」展覧会オリジナルグッズ・関連イベントのご案内
16	２月19日	特別展「鳥 ～ゲノム解析が解き明かす新しい鳥類の系統～」記者内覧会のご案内
17	３月５日	ミニ展示「ナガサキアゲハとその近縁種の多様性～絶滅種から分布拡大種まで紹介～」を開催について

公式アカウントフォロワー数（令和８年４月12日現在）
X（旧Twitter）
・大阪市立自然史博物館（@osaka_shizenshi）：16,601
・大阪市立自然史博物館の特別展（@omnh_exhibition）：1,233（ブルーバッジ取得手続きのため、令和８年３月に@Shizenshi_Exhibを廃止して新アカウントに移行した）
Facebook
・大阪市立自然史博物館：3,032
・Osaka Museum of Natural History English Information：130
Instagram
・大阪市立自然史博物館（osaka_shizenshi_koho）：5,808

＜特別展の広報＞　※内覧会来訪の社名は順不同

■第55回特別展「貝に沼る ―日本の貝類学研究300年史―」

会　期：令和７年２月22日（土）～５月６日（火・休）
（詳細は前年度の館報に掲載）

■特別展「昆虫MANIAC」

会　期：令和７年７月12日（土）～９月23日（火・祝）
プレス発表：令和７年１月８日（水）
内覧会：令和７年７月11日（金）
プレス内覧会：22社31名（読売新聞、産経新聞社、時事通信社、インターネットミュージアム事務局、J:COM、イープラスなど）
一般内覧会：161名（主催関係者、大阪市関係、地元町内会関係者、友の会会員、招待者など）



特別展「昆虫MANIAC」内覧会

■第56回特別展「学芸員のおしごと ―集める・調べる・伝える―」

会　期：令和７年11月１日（土）～令和８年２月１日（日）
プレス発表：令和７年８月20日（水）
内覧会：令和７年10月31日（金）
プレス内覧会：９社13名（時事通信社、NHK大阪ラジオ、ラジオ関西、ビッグイシュー日本など）
一般内覧会：45名（大阪市関係、地元町内会関係者、友の会会員、招待者など）



特別展「学芸員のおしごと」内覧会

＜その他＞

■広報用コンテンツ作成

博物館機構では令和６年度より、世界の文化施設で利用されている無料のデジタルガイド「Bloomberg Connects」に参画しており、このガイドへの掲載や館内デジタルサイネージへの利用など以下の館内外上映用広報動画、及び展示解説動画を制作した。

①来館案内動画（30秒）　縦型、横型
②館内サイネージ動画
　・展示以外の館内案内（46秒）　縦型、横型
　・体験イベントの紹介（57秒）　縦型、横型
③展示品紹介動画
　・台場くぬぎ（１分56秒）
　・ギンリョウソウ（２分01秒）
　・アンモナイト（２分07秒）
　・花の咲かない森（１分43秒）
　・自然のめぐみ（２分01秒）
　・オオシャコガイ（２分04秒）
④学芸員が語る展示解説動画（タイトルの後は解説者）
　・わんど（大阪の自然誌）：松井（３分00秒）
　・ゴキブリ（第１展示室）：藤江（２分27秒）
　・アロサウルス（第２展示室）：久保田（３分20秒）
　・鉱物の世界（ギャラリー）：川端（２分57秒）
　・植物も動く－種子散布（第３展示室）：横川（２分32秒）
　・世界の昆虫（第３展示室）：長田（２分42秒）
⑤音声データ（動画③、④の音声のみ）

また、Innovate Museum事業の一環でマイクロドローンによる動画撮影を行い、上記コンテンツを併せてサイネージ等に活用している。

刊行物・情報システム

令和７年度に大阪市立自然史博物館から発行した刊行物は以下の通り。

一重下線は当館外来研究員、二重下線は当館学芸員。なお、研究報告と自然史研究については、自然史博物館リポジトリサービス（https://omnh.repo.nii.ac.jp/）において公開している。末尾の※は収蔵資料を用いた研究（13ページ参照）

■研究報告（Bulletin of the Osaka Museum of Natural History）

第80号、2026年３月31日発行、84＋viipp

松井彰子・中島　歩：大阪府泉州地域において採集された他地域産ウグイ．1–9.

Takahashi M. and Misumi H.：*Leptotrombidium hikidai* sp. n.（Trombidiformes: Trombiculidae）, a new chigger mite parasitizing *Gekko tawaensis* Okada, 1956（Reptilia: Gekkonidae）in western Japan. 11–32.

山西良平・プロジェクトY（淀川水系調査グループ）フジツボ班：淀川汽水域における潮間帯生物の分布―2008・2009年の調査結果（詳報）―．33–50.

小林　温・松本吏樹郎：奈良県におけるエサキアメンボ *Limnoporus esakii* に関する知見．51–57.

横川昌史・志賀　隆：1896年に採集された大阪府産のヒメシロアサザ（ミツガシワ科）の標本の発見．59–65.

弘岡知樹・横川昌史：大阪府堺市のため池で分布拡大する侵略的外来水生植物オオバナミズキンバイ（広義）（アカバナ科）．67–84.

■自然史研究（SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History）

第４巻第９号、2026年３月10日発行

和田　岳：播磨灘岸の水鳥・猛禽類の分布と個体数の季節変化について．249–312.

■第56回特別展解説書

「学芸員のおしごと―集める・調べる・伝える―」 2025年10月28日発行　28pp.

著者：石井陽子、石田　惣、長田庸平、久保田克博、佐久間大輔、中条武司、西野　萌、長谷川匡弘、藤江隼平、藤田浩明、前川　匠、松井彰子、松本吏樹郎、横川昌史、和田　岳

■大阪市立自然史博物館館報特別号

「50周年史」 2026年３月31日発行　69pp.

著者：石井陽子、石田　惣、梅原　徹、長田庸平、川端清司、久保田克博、佐久間大輔、中条武司、西野萌、長谷川匡弘、藤江隼平、藤田浩明、前川　匠、松井彰子、松本吏樹郎、道盛正樹、山中亜希子、横川昌史、和田　岳

■ウェブサイト・SNSの運営

これまで、Web・SNSは館事業を広く周知し、より多くの市民に博物館を利用してもらうことを目的としていることに加え、博物館を利用しにくい人に向けたインクルーシブな取り組み、博物館の利用経験のない人へのアウトリーチなど、施設・展示施設利用を超えた新たな博物館の社会に向けた活動として位置づけられるようになっている。

ホームページ（HP）に関しては、タイムリーで内容豊富な情報の発信に努めているが、令和７年度のHP訪問者数（トップページ）は好調な入館者数に支えられて、年間としては過去最高を大きく更新して160万アクセスに達した（前年比45万アクセス増）。

■ホームページアクセス実績

HPアクセス数の推移（訪問回数）

４月	95,369	５月	100,644
６月	92,769	７月	151,909
８月	216,262	９月	128,923
10月	59,491	11月	136,493
12月	154,801	１月	131,287
２月	144,272	３月	190,992

月別では昆虫MANIAC展開催中の８月の21万６千アクセスが最大であったが、ページビューの総量はおしごと展開幕中の11月が最大になった。特定IPからの集中アクセスは確認できていないが、AI等によるrobot巡回などの影響が大きいようだ。訪問者数全体の向上にはAIによる影響以外に、一昨年度にシステム変更し、スマホ対応を進めたことと、広報事業に記したようにInstagramなどでのプロモーションも影響していると考えている。

スマートフォンによるアクセスが優勢な傾向は変わらない。

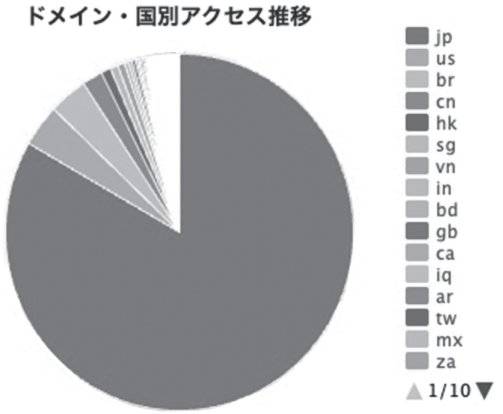


図　2025年8月のドメイン・国別アクセス推移：他の月も傾向は大きく変わらない。国内からのアクセスが83%となっているが、海外ドメインはbingbot、Googlebotなど相当量のrobotアクセスが含まれる。

〈SNSなどでの情報発信の取り組み〉

ホームページ新着情報　74件
X ツイート数　89件
FaceBook 投稿　217件
Instagram 投稿　105件
YouTube 投稿・ライブ47コンテンツ（限定公開を除く）
総再生時間 8,022.0時間

新着情報は74件を発信（台風による臨時休館など一時的なものを除く）した。また、HP掲載の新着情報を中心にX（旧Twitter）、「Facebook」を通じて情報提供するなどしている。今年度は特に特別展など催事のプロモーションにInstagramの投稿に力を入れており、一部は他のSNSも含め有料広告も実施した（詳細は広報を参照）。Xの公式アカウントかくSNSの令和７年度末でのフォロワー数は X： ３/31時点で16,621人（前年比1,357人増）FaceBook：3,028人（37人増）と微増にとどまっている。

一方でInstagramフォロワー数は 5,825人（2,093人増）と引き続き大幅に成長している。Instagramがリーチ数、アクセス数ともに他のSNSを上回る状況が続いている。

なお、今年度の大阪市立自然史博物館YouTubeチャン

ネルは３月31日現在、ページ登録者 6,020人（726人増）。

コンテンツの視聴回数は合計 105,581回、合計視聴時間は8022.0時間と前年同水準を保っている。新規公開コンテンツ数は減ったが、講演会の後追い視聴など引き続き博物館コンテンツの発信の重要な回路になっている。

なお、Tik Tokなどのショート動画によるPRは、近畿大学の学生による取り組みを実施している。

■学術リポジトリの公開

当館は研究報告・自然史研究を国立情報学研究所のJAIROCloudを利用したリポジトリシステムで公開している（https://omnh.repo.nii.ac.jp/）。引き続き当館が発行した「大阪市立自然史博物館研究報告」、「自然史研究」「大阪市立自然史博物館館報」などの他、順次収蔵資料目録などの出版物、科学研究費などでの出版物について登録をすすめ、PDF公開を行っている。また当館内に事務局をおいて発行をしている「地域自然誌と保全」などについても目次情報の登録をおこなっている。その他科研費などにより製作した資料の公開をすすめ、これら合計1,794アイテムの情報がリポジトリ経由で発信されている。2025年度に発行された新たなコンテンツ78点を登録した。今年度発行した研究報告は４月の登録となったため上記に含めていない。2025年度の総 ダウンロード数は152,787件（約65,115件増加）、閲覧回数は154,677回（約6,000回増加）と増加傾向にあるが、この増加はAIやrobotによる自動巡回とダウンロードの可能性が高い。

連携（ネットワーク）

自然史博物館の連携事業は、博物館の様々な機能をより効果的に発揮し社会的役割を実現するためのものである。教育普及事業の延長と位置づけられるものから、自然史博物館を社会的にアピールする活動まで幅広く展開している。今後も博物館の使命に照らして様々なパートナーとの連携を展開したい。

■博物館機構内の連携

自然史博物館は 地方独立行政法人大阪市博物館機構の各館と連携した事業を実施している。今年度当館が参加したものは以下の通りである。

●ミュージアム連続講座「展覧会連携トーク企画
～学芸員×大学による多視点からのアプローチ～」
- 実施日：2026年２月20日（木）18:30 ～ 20:30
- 会　場：難波市民学習センター

和田岳主任学芸員が特別展「鳥」について講演。

●大阪市立科学館との連携企画

酒ミュージアム×大阪市立科学館コラボイベント「日本酒をたのしむ！大人の化学クラブ」
- 実施日：2025年10月12日（日）13:00 ～ 14:00
- 会　場：大阪市立科学館　研修室

佐久間大輔学芸課長が講演「日本酒と微生物」を実施

●大阪博事業

大阪市博物館機構では2025年大阪・関西万博に合わせた事業として、過去から現在、そして未来へと繋いでいきたい「大阪の宝」を大公開する博覧会を企画し、文化庁日本博事業、InnovateMuseum事業の補助を得て準備をしてきた。大阪の宝は、大阪市博物館機構の各博物館に蓄積された収蔵品のうち、「その収集に関わった先人や継承の履歴を通じて、それらを育んできた都市大阪の魅力を体感できるような代表品120点を「大阪の宝」として選定し」たものとなっている。自然史博物館でも木村蒹葭堂貝石標本をはじめとした20コレクションを選定し、https://osakahaku.ocm.osaka/ で公開している。これらのうち「大阪の鯨類（ナガスクジラ、マッコウクジラ、ザトウクジラ）」や「アロサウルス」、「和泉層群の白亜紀化石」などは 3 Dデータでの公開を伴うなど、多様な展開を試みている。実際の資料を展示する機会として、昨年度に引き続き「大阪の宝」として展示を行った。（28ページ参照）

●【NFTスタンプラリー企画】Osaka Museums Treasure Hunt

博物館機構が大阪博事業の一環として行ったEXPO2025デジタルウォレットアプリを利用した施設回遊型のスタンプラリーイベント。
- 実施日：2025年７月19日（土）～2025年10月13日（月・祝）
- 開催場所：長居公園エリア（自然史博物館、植物園、長居プール）
- 自然史博物館での利用者332名

●大阪の宝シリーズ動画

学芸員の活動を紹介する動画をTALK &THINKとして毎年公表しているが、今年度は大阪博に関連して以下の動画を公開した。

久保田克博主任学芸員がアロサウルス骨格模型を紹介した。

「骨からここまでわかる⁉ ”ジュラ紀の王”を大解剖！」
https://youtu.be/PjM 6 JSM-dfE?feature=shared

■2025大阪・関西万国博覧会への対応
- 未来のコミュニティとモビリティ ウィーク「博物館の持続可能性 – 急速に変化する地域社会における博物館の未来」（５月25日開催）に参加者２名を派遣
- 地球の未来と生物多様性 ウィーク「パタゴニアとチリのユニークな生態系：民間主導による生物多様性保全の取り組み」（９月24日開催）に参加者２名を派遣
- 各パビリオンにおける・生物多様性や持続可能性などテーマの表現、展示技術、参加者コミュニケーションなどを展示構想に取り入れるため、学芸員２名を派遣
- 国際自然保護連合日本委員会等との共催により、国際シンポジウム「大阪湾岸『いのち輝く』を未来へ　～はじめよう！連携が生み出す豊かな生物多様性～」を開催

日時：９月15日（月・祝）13:00 ～ 16:30
会場：大阪市立自然史博物館　講堂
共催：国際自然保護連合日本委員会、（公財）日本自然保護協会、（公財）日本野鳥の会、（公財）世界自然保護基金（WWF）ジャパン、（公社）大阪自然環境保全協会、日本野鳥の会大阪支部、大阪市立自然史博物館
後援：日本景観生態学会、応用生態工学会、自然環境復元学会、日本緑化工学会、環境アセスメント学会、関西自然保護機構、日本生態学会、環境社会学会、環境科学会

〈プログラム〉

開会挨拶　夏原 由博（大阪自然環境保全協会会長）
来賓挨拶　マイケル・ブライス（在大阪英国総領事）
西村 学（環境省自然環境局 自然環境計画課課長）
基調講演
「沿岸域のネイチャーポジティブとは」
道家哲平（IUCN-J会長）
特別講演
「渡り性水鳥の危機的状況と大阪湾岸の重要性」
ニコラ・クロックフォード
（RSPB主任役員・シギチドリ研究員）
「沿岸生息地再生に関する国際的な事例研究から大沢湾を考える」
ジェフ・キュー（RSPB湿地再興アドバイザー）
ディスカッション
「大阪湾岸の生物多様性を高めるために」
ファシリテーター：佐久間 大輔
（大阪市立自然史博物館）
登壇者
・織田　智也
（大阪府環境農林水産部みどり企画課副主査）
・三浦　仁美
（積水化学工業（株）ESG経営推進部環境経営グループ長）
・納家　仁（日本野鳥の会大阪支部長）
・道家　哲平
・ニコラ・クロックフォード
・ジェフ・キュー
閉会挨拶　葉山　政治
（日本野鳥の会理事・IUCN-J副会長）
会場：132名・ライブ配信105名の計237名が参加
https://www.youtube.comwatch?v= 9 CpsX 8 LBs 4 M

■長居公園・植物園との連携

長居公園を管理するわくわくパーククリエイト（株）と協力し、広報連携などを行っている。長居公園内の他の企業等との連携活動も活発に行っており、わくわくパーククリエイト（株）および各企業担当者の定例会議に出席し、情報交換を行っている。また、以下の各事業を行った。
- 特別展のコラボメニューを提供
実施場所：長居公園内の飲食店等
実施期間：昆虫MANIAC開催期間

・「AR逃走虫～自然史博物館から逃げ出した昆虫たちを捕獲せよ！～」
開催期間：2025年８月１日(金)～９月28日（日）
開催場所：自然史博物館、長居植物園
・鳥類モニタリング調査アドバイザー会議
夜間照明の影響を検討調査する会議に、和田岳主任学芸員が委員として、山口大輔総務課長が事務局として参加。検討を行った。
・長居植物園の生物多様性機能向上に関する提言
上記会議を受けて、植物園の改善に向けた提言を行っている。

■西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークは、学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成･援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。会員も150名を越し、西日本の自然史系博物館のネットワーク組織として活動している。当館も事務局館として連携し、事業に協力している。

令和７年度も、昨年度、一昨年度に引き続き文化庁博物館機能強化推進事業（InnovateMuseum事業）「ネットワークの形成による広域等課題対応支援事業」に「高付加価値自然史デジタル情報流通活用促進事業」として応募し、採択を受け、活動を推進した。
なおオンラインコンテンツの多くは現在も https://www.naturemuseum.net/から視聴いただける。

・事業目的

自然史系資料画像やマルチメディア情報について、ジャパンサーチへの流通経路確保とともに、作成構築体制を確立することで流入拡大を図る。同時に、需要創出による整備モチベーションの向上を図るため、学校利用やVR、ユニバーサル対応のための研修を行う。これらにより、自然史デジタル情報の拡大と、持続的制作体制の構築を図ることを目的とした。

・事業概要

１．自然史系画像資料・マルチメディア情報のジャパンサーチへの流通経路確保と流入拡大:大阪市立自然史博物館をつなぎ機関としたジャパンサーチへの公開の仕組みづくりと、拠点活用による撮影促進と、地域館での画像撮影体制整備を図る。
２．３Dデータなどの活用手法の積極的開発：博物館資料のデジタル化に関して、新たな手法の探求、作成のための積極的な研修と同時に、活用手法の開発も行う。

・実施項目・実施体系

１．自然史系画像資料・マルチメディア情報のジャパンサーチへの流通経路確保と流入拡大
⑴ジャパンサーチへの連携API整備
①仕様策定と要件定義・業者決定
②製作委託・試験稼働
⑵既存拠点活用・既存機材の運用による撮影促進
①大阪、滋賀での撮影
②可搬型装置による撮影試験
２．３Dデータなどの活用手法の積極的開発
⑴活用のための能力開発
①各種撮影講習・研究会
②教材やVR展示の共同試作
⑵言語非依存型コンテンツの検討
①ミニドローン活用の検討・ガイドライン作成
②３Dプリンタによる触れるサンプル作成推進
３Dプリンタ研修「３Dプリンタで広がる触察モデルの世界～視覚障害者支援のためのモデル制作を体得する２日間～」
実施日：2026年２月５日（木）、６日（金）
開催場所：自然史博物館実習室
講師：林園子氏・濱中直樹氏（ICTリハビリテーション研究会）、南谷和範氏（大学入試センター）
参加者数：博物館職員等16名、６日午前のみの参加者８名

３Dプリンタの特性や使い方、データの作成方法、視覚障害者の触察模型作成に必要な配慮等を学んだ。iPhoneやiPadを用いた３Dスキャンの体験を行った。また、６日の午前に、前年度の研修参加者による３Dプリンタ活用の成果共有を行った。実際に３Dプリンタを活用して生じた疑問に対し、講師からの助言をいただくなどした。

1.⑴ジャパンサーチとの連携テーブルを生成するプログラムを作成した。大阪自然史はつなぎ機関であり、同館のデータについては公開のための手続き中であるが、他の参加館のデータについては西日本自然史系博物館ネットワークを新たなつなぎ機関とするための手続きをするよう依頼されており、進行中。
⑵撮影は拠点での大阪・滋賀博の標本、預かり撮影によるきしわだの標本、可搬型装置による北九州博の標本撮影（合計4.5万）が進行した。
2.⑴北海道・横浜・大阪・九州そしてオンラインでの講習会や研究会を行い、処理の自動化やVR、教育利用の活用検討に全国から多数の博物館関係者の参加を得た（累計80人参加、onlineでの視聴約1000人）。
⑵ドローン、３Dプリンタの活用により、単なるコンテンツ発信にとどまらないデジタルの応用可能性を示すことができた。

Innovate事業以外にも、西日本自然史系博物館ネットワークでは、企画シンポジウム「地域と交わる博物館」を実施し、当館からは「大阪自然史フェスティバル」の事例を紹介した。

■卒論研究への協力

近畿大学総合社会学科 社会・マスメディア系専攻の学生取り組みに協力し、TikTok上での大阪市立自然史博物館を紹介する番組の作成に協力した。
https://www.tiktok.com/@hakubutsu_kan
https://www.Instagram.com/hakubutsu_kan/
https://www.YouTube.com/@hakubutsu_kan

■大阪生物多様性保全ネットワーク

大阪生物多様性保全ネットワークは、大阪府・大阪市・堺市など行政機関と研究機関及び自然系NPOが連携して生物多様性課題に対処するために大阪自然史センターを事務局として設立された。

生物多様性施設連絡会などへの情報提供の他、今年度から大阪府レッドリストの改定を行うための調査に取り組んでいる。大阪市立自然史博物館もネットワークの一員として分科会などに学芸員を派遣している。

■日本博物館協会第73回全国博物館大会への対応

日本博物館協会　第73回全国博物館大会は、公益財団法人日本博物館協会の主催、地方独立行政法人大阪市博物館機構共催で開催することになり、機構事務局より２名、当館より大会運営責任者としての川端館長以下、佐久間学芸課長、山口総務課長、高橋事務員が兼務として運営に当たることになった。当館では大会のプログラム

内容及びエクスカーションのアレンジなどを中心に日本博物館協会事務局と連携を取り、大阪府下の各博物館の協力及び日本博物館協会近畿支部の支援を受けながら、準備を進めた。大会は10月に閉幕した大阪・関西万博を受け、「持続可能な世界と博物館の発展～未来・社会・ウェルビーイングに貢献する博物館～」をメインテーマに設定し、博物館が持続可能であるために、社会（コミュニティ）の変化、国際的な視野と時代の技術をしっかり見定め「現代化」をしていく必要を議論した。大会は全国から570名の参加を得て、会場でもオンライン上でも活発な意見をかわすことができた。大会当日や準備には当館からも多くのスタッフが会場係などで参加し、議論や交流に触れることができ、さらにはエクスカーションの立ち寄り場所ともなったことから「学芸員のおしごと」展もご紹介することができた。エクスカーションでお世話になった各博物館を含め、当館の今後の交流にも資する大きな機会となった。なお、大会のプログラムなど詳細については『博物館研究』Vol.61 No.3（No.694）に特集として掲載されているのでご参照いただきたい。

日程：令和７年11月19日（水）～ 21日（金）

会場：大阪市中央公会堂、大阪府立中之島図書館ほか

日本博物館協会によるアーカイブ映像が以下のURLで公開されている。

https://www.youtube.com/playlist?list=PL1FgJ2RA29TDFvLJE9fKLu37P-BeXXfEf



日本博物館協会第73回全国博物館大会の様子（大阪市中央公会堂）

■NPO法人「弱視の子どもたちに絵本を」との連携

NPO法人「弱視の子どもたちに絵本を」は、視覚障害のある子ども達の支援を、独自に工夫をした絵本や本の提供やその他様々な体験活動を通じて行っている。当館とは2019年度のバックヤードツアー実施以来の協力関係にある。2020年度の笹川科学研究助成による実践研究、2022年度の文化庁補助金事業に協力いただく、バックヤードツアーやワークショップに協力、共催するなどの形で連携を行ってきた。2025年度の連携事業は以下の通りである。

●ワークショップ「クジラってなんだ？－五感でクジラを感じてみよう」
実施日：2025年７月13日（日）
講　師：中江　環　氏（太地町くじらの博物館）
参加者数：
［午前］子ども８名（８名）、大人12名（４名）
［午後］子ども６名（３名）、大人12名（５名）
※（　）は視覚障害のある人

五感を活かしてクジラという生き物を理解するワークショップを実施した。クジラの住む海を知るために、海水に触る、匂いを嗅ぐ、海水と同じ濃度の塩水を味見するなどした。また、CDに収録されたクジラの鳴音を聞いた。さらに、クジラの体の形の多様性を理解するために、クジラの半身レリーフ、全身の模型（全12種）に触れた。クジラの身体の大きさを知るために、ポーチに移動してナガスクジラの骨格標本の下を歩いた。また、クジラのひげや歯の実物、耳骨に触れるなどした。

■大阪府内の高校との連携

大阪府高等学校生物教育研究会および大阪府高等学校地学教育研究会と連携し、特別展の情報提供を行い、スーパーサイエンスハイスクールに関連した指導の相談にも乗っている。大阪自然史フェスティバルや地域自然史と保全研究発表会なども高校生の研究発表・交流の場として活用されている。大阪府高等学校生徒生物研究発表会は当館が共催で本館講堂を会場として毎年開催している。第77回研究発表会は2025年11月23日に開催された。会場参加者数は合計182名（生徒115名、教員31名、一般36名）、発表数は研究発表部門11題、活動報告部門15題であった。

■学術集会など

令和７年度に大阪市立自然史博物館で開催された主な学術集会は以下の通りである。公開講演会などについては34ページを参照。

●国際シンポジウム「大阪湾岸『いのち輝く』を未来へ～はじめよう！連携が生み出す豊かな生物多様性～」
実施日：９月15日（月・祝）
発表件数：３件（詳細は48ページ）
参加者数：132名（来場）、105名（オンライン視聴者数）

●日本甲虫学会大阪秋季例会
実施日：９月27日（土）
発表件数：１件　　参加者数：23名

●日本甲虫学会大阪冬季例会
実施日：12月13日（土）
発表件数：１件　　参加者数：34名

●関西菌類談話会　スライド大会
実施日：12月７日（日）
発表件数：11件　　参加者数：44名

●関西自然保護機構　地域自然史と保全研究発表大会
実施日：３月１日（日）
発表件数：37件　　参加者数：117名

●日本甲虫学会大阪春季例会
実施日：３月14日（土）
発表件数：１件　　参加者数：25名

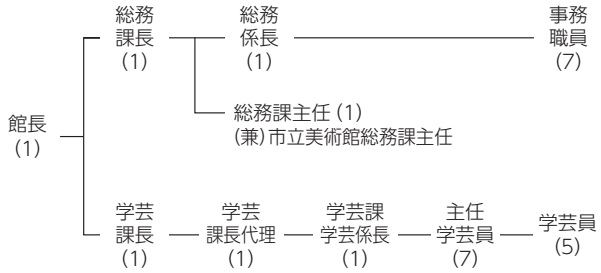
Ⅰ．沿　　革

昭和24年11月８日－自然科学博物館開設準備委員会設置
昭和25年４月１日－自然科学博物館費予算に計上
昭和25年11月10日－市立美術館２階廊下にて展示開設
昭和27年４月17日－博物館相当施設に指定
昭和27年６月２日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
昭和27年７月10日－博物館法第10条により登録（第２号）
昭和27年10月１日－筒井嘉隆　館長に就任（39.7.4退任）
昭和32年６月７日－市立美術館より西区靱２丁目（元靱小学校校舎改造）に移転
昭和33年１月13日－開館
昭和34年　－新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
昭和39年　－日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）
昭和39年８月１日－筒井嘉隆　館長に就任（非常勤嘱託－40.7.31退任）
昭和40年８月１日－千地万造　館長に就任（58.6.1退任）
昭和42年　－大阪市総合計画局30年後の大阪の将来計画により長居公園内に新館敷地確定
昭和44年８月　－新館建設のための基本構想審議委員会組織
昭和47年１月21日－自然史博物館建設工事着工
昭和48年３月31日－自然史博物館建設工事竣工
昭和48年７月　－新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年３月）
昭和49年４月１日－大阪市立自然史博物館条例公布
昭和49年４月26日－自然史博物館開館式挙行
昭和49年４月27日－開館
昭和51年８月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第２条第４号に規定する学術研究機関として指定
昭和58年７月１日－千地万造　館長に就任（非常勤嘱託－61.3.31退任）
昭和59年６月　－常設展更新基本計画案策定
昭和60年３月　－常設展更新計画書策定
昭和61年３月31日－常設展更新業務完成
昭和61年４月１日－新装開館
昭和61年４月１日－小川房人　館長に就任（兼務－2.3.31定年退職）
昭和61年４月１日－千地万造　顧問に就任（非常勤嘱託－2.3.31退任）
平成２年４月１日－小川房人　館長に就任（非常勤嘱託－3.3.31退任）
平成２年度　－文化施設整備構想調査
平成３年４月１日－小川房人　顧問に就任（非常勤嘱託－5.3.31退任）
　柴田保彦　館長兼学芸課長に就任（4.3.31定年退職）
平成３・４年度　－自然史博物館整備構想調査事業　21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
平成４年４月１日－柴田保彦　館長に就任（非常勤嘱託－7.3.31定年退職）
平成７年４月１日－宮武頼夫　館長に就任（9.3.31定年退職）
平成７年度　－自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
平成８年度　－展示更新基本計画及び（仮称）花と緑と自然の情報センター設計検討
平成９年４月１日－宮武頼夫　館長に就任（嘱託－10.3.31退職）
平成９年度　－展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
平成10年４月１日－那須孝悌　館長に就任（13.3.31定年退職）
平成10年12月　－花と緑と自然の情報センター建築工事着工
平成13年３月　－花と緑と自然の情報センター竣工
平成13年４月１日－那須孝悌　館長に就任（非常勤嘱託－16.11退職）
平成13年４月27日－花と緑と自然の情報センター開館式挙行
　花と緑と自然の情報センター開館
平成17年４月１日－山西良平　館長に就任（27.3.31退職）
平成18年３月１日－本館エントランス及びポーチリニューアルオープン
平成18年４月１日－(財)大阪市文化財協会が指定管理者となる
平成19年３月24日－第５展示室一部リニューアルオープン
平成20年４月26日－第５展示室全面リニューアルオープン
平成22年４月１日－財団統合により（財）大阪市博物館協会が指定管理者となる
平成27年４月１日－谷田一三　館長に就任（31.3.31退職）
平成27年10月10日－長居公園に移転してからの通算入場者数が1,000万人を突破
平成31年４月１日－地方独立行政法人大阪市博物館機構による運営となる。同時に、登録博物館の指定解除。
　川端清司　館長に就任
　文部科学省科学研究費補助金取扱規程第２条第４号にもとづく学術研究機関として、大阪市博物館機構が指定され、大阪市立自然史博物館が一部局となる。
令和３年３月　－博物館相当施設に指定
令和４年３月　－講堂の全面リニューアルオープン
　大阪市立自然史博物館大規模改修にかかる基本構想策定及び技術的調査・検討
令和５年３月　－大阪市立自然史博物館大規模改修基本計画作成にかかる調査（令和５年１月～３月）
令和５年10月　－大阪市立自然史博物館ホームページ改定
令和５年12月　－「大阪市立自然史博物館のビジョンと使命」改定（2023年版）
令和６年３月　－登録博物館に指定
　大阪市立自然史博物館大規模改修基本計画作成（令和５年４月～令和６年３月）
令和６年４月27日－長居植物園・自然史博物館 50周年記念セレモニーを挙行
　＜50周年記念事業＞
　年間を通じ記念シンポジウム、50周年記念展示、パネル展示「50年のあゆみ」等を実施

令和７年２月　－「大阪・関西万博2025」に合わせ、「大阪の宝（春）」を展示
令和７年７月　－「大阪・関西万博2025」に合わせ、「大阪の宝（夏）」を展示
令和７年11月　－公益財団法人日本博物館協会主催、地方独立行政法人大阪市博物館機構共催のもと、第73回全国博物館大会（大阪）を開催（第73回全国博物館大会運営責任者 川端清司館長）
令和８年３月　－鯨類全身骨格標本修繕（ナガスクジラ、通称「ナガスケ」）
令和８年３月　－館報特別号「50周年史」を発行

Ⅱ．組　　織

■職員数（令和７年４月１日現在） 計26名



■職員名簿（令和７年４月１日現在）

職　名	氏　名	職　種	氏　名
館　長	川端　清司	学芸課長	佐久間大輔
総務課長	山口　大輔	学芸課長代理	中条　武司
総務課係長	木野　美奈	学芸課学芸係長	石田　惣
総務課主任	三山　朗	主任学芸員	和田　岳
事務職員	大江　彩佳	主任学芸員	石井　陽子
事務職員	山上　香代	主任学芸員	松本吏樹郎
事務職員	大村　涼子	主任学芸員	長谷川匡弘
事務職員	早田　祥子	主任学芸員	横川　昌史
事務職員	米谷恵理子	主任学芸員	藤田　浩明
事務職員	河野　翔平	主任学芸員	久保田克博
事務職員	高橋　郁子	学芸員（昆虫）	長田　庸平
		学芸員（動物）	松井　彰子
		学芸員（地史）	前川　匠
		学芸員（地史）	西野　萌
		学芸員（昆虫）	藤江　隼平

■人事異動

令和７年４月１日

横川　昌史	学芸課主任学芸員	昇任
藤田　浩明	学芸課主任学芸員	（一財）大阪市文化財協会から転入
久保田克博	学芸課主任学芸員	兵庫県立人と自然の博物館から転入
高橋　郁子	総務課勤務	大阪市立東洋陶磁美術館から転入
安田　　縁	総務課勤務	大阪市立東洋陶磁美術館へ転出

Ⅲ．庶務日誌

■令和７年度　博物館関係者来訪

令和７年６月４日
　山形県　みらい企画創造部
　展示室及び収蔵庫の視察ならびに学校教育との連携について
令和７年８月14日・15日
　モンゴルドルノゴビ県立博物館　6名
　博物館における資料保存の意義および基礎的研修等
令和７年10月１日
　奈良県立橿原考古学研究所　3名
　陝西省考古研究院相互派遣研修生の見学
令和８年１月15日
　合同会社AMANE　4名
　資料整理方針、資料公開などに関するヒアリング調査

■館長受嘱委員（令和７年度）

令和７年度学芸員資格認定（審査認定）審査会委員
吹田市文化財保護審議会委員
一般財団法人　大阪科学技術センター評議員

■寄附金（令和８年３月31日現在）

大阪市立自然史博物館のアロサウルスの新復元骨格導入に対する寄附金※ （目標額1,000万円）	2,922,962円
大阪市立自然史博物館の標本のデジタル画像撮影と公開事業に対する寄附金 （第一次目標額500万円）	1,278,000円

※平成29年度～平成30年度に大阪市で実施した「ふるさと寄附金」を含む

• 令和４年度～令和７年度に自然史博物館にご寄附を頂いた方々（お申し出順）ほか匿名での寄附、募金箱での寄附を頂いております

令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
太田　佳奈 様	青山　将大 様	松橋　義隆 様	有光　正史 様
吉田　和広 様	金坂　　卓 様	西元　勇人 様	高橋世志成 様
松田　貴太 様	塩見　彩子 様	岩井　千尋 様	楠原　悠子 様
野村　　穣 様	池田　　恵 様	小路　杏里 様	永来　　学 様
江川　史朗 様	矢野亜希子 様	大谷　和子 様	豊田　裕三 様
瀧端真理子 様	碩　真基子 様	井上　恵介 様	松下幸次郎 様
三村　恵理 様	福田　翔平 様	屋敷　英樹 様	
ひかりのくに株式会社 様	上田　貴史 様	小谷耕一郎 様	
小路　杏里 様	青谷　晃夫 様	渡邉奈緒子 様	
吉田　和広 様	久山　桃代 様	阪本　義和 様	
松橋　義隆 様	林　　知子 様	松下幸次郎 様	
當間　公彦 様	工藤　好弘 様	永来　　学 様	
	日本直翅類学会 中峰 様	瀧端真理子 様	
	加藤　順子 様	西村　哲男 様	
	瀧端真理子 様		
	三村　恵理 様		
	日本直翅類学会 中峰 様		

Ⅳ. 決算

■令和６年度　　（単位　千円）

区分	事　　項		令和４年度	令和５年度	令和６年度
支出	展覧会経費		38,595	66,939	30,032
		常設展	4,642	3,635	2,159
		特別展	34,727	63,940	26,978
		その他事業	-774	-636	895
	調査研究費		15,102	19,521	20,455
	広告宣伝事業費（普及事業費）		7,555	7,547	7,806
	施設整備費		8,742	8,237	99,546
	機構戦略費		0	0	0
	一般管理費等		351,957	357,851	362,016
	合　　計		421,951	460,095	519,855
収入	事業収益		56,772	147,667	73,715
		常設展観覧料	21,635	28,796	27,376
		特別展観覧料	27,521	91,936	30,193
		その他事業収益	7,217	26,452	15,624
		使用料収益	399	483	522
	その他収益		2,293	2,790	2,979
		科研費間接経費	1,774	509	2,698
		雑収益等	519	2,281	281
	運営交付金収益等		362,721	309,473	485,441
		運営交付金収益	332,637	264,798	315,853
		施設整備費補助金収益	0	973	99,456
		補助金収益等	30,084	43,702	70,132
	合　　計		421,786	459,930	562,135

Ⅴ．入館者数（令和７年度）

常設展入館者数

区分／月	有料					無料								計	開館日数
	個人		団体		有料計	団体					個人		無料計		
	大人	高校生大学生	大人	高校生大学生		幼・保育園等	小学生	中学生	特別支援学校等	団体引率者	中学生以下	優待・招待・その他			
(7) 4	11,212	756	229	459	12,656	255	731	0	4	115	3,869	3,353	8,327	20,983	26
5	12,852	1,100	213	106	14,271	942	4,824	334	37	641	4,173	4,002	14,953	29,224	27
6	7,978	621	67	39	8,705	479	618	666	170	259	3,200	2,019	7,411	16,116	25
7	13,661	676	68	5	14,410	231	7	75	27	67	6,138	2,358	8,903	23,313	27
8	25,426	1,822	158	114	27,520	10	0	0	5	3	11,662	4,588	16,268	43,788	29
9	17,188	1,046	33	2	18,269	72	349	74	32	62	5,897	3,442	9,928	28,197	26
10	5,707	339	40	37	6,123	1,391	3,823	139	130	630	2,209	1,604	9,926	16,049	27
11	5,465	339	76	210	6,090	835	4,897	1,130	7	598	2,297	18,331	28,095	34,185	26
12	3,014	299	24	34	3,371	7	241	473	4	43	1,277	827	2,872	6,243	23
(8) 1	4,306	522	31	0	4,859	76	0	450	6	40	2,145	1,360	4,077	8,936	23
2	5,202	396	27	56	5,681	607	72	1,007	2	138	2,578	1,641	6,045	11,726	24
3	16,902	1,412	1,036	36	19,386	791	96	305	1	177	4,167	2,820	8,357	27,743	27
計	128,913	9,328	2,002	1,098	141,341	5,696	15,658	4,653	425	2,773	49,612	46,345	125,162	266,503	310

■無料団体観覧内訳

区分	市内		市外		計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
幼稚園・保育所	85	2,574	78	3,122	163	5,696
小学校	77	6,355	117	9,303	194	15,658
中学校	63	2,810	44	1,843	107	4,653
特別支援学校・他	6	123	9	212	15	335
福祉施設	10	42	2	48	12	90
団体引率者		1,216		1,557		2,773
計	241	13,120	250	16,085	491	29,205

■特別展入館者数（平成18年度～令和７年度）

区分／年度	個人					団体				合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高校生大学生	小中学生有料	優待・他 無料	中学生以下無料	大人	高校生大学生	小中学生有料	中学生以下無料				
18	2,544	336		2,597	3,971	15	0		227	9,690	7.29～ 9.18	45	大和川展
19	8,591	506		4,040	10,532	55	0		392	24,116	7. 7～ 9. 2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518		18,131	31,815	679	81		18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
	8,483	267		4,661	11,659	0	0		269	25,339	3.15～ 3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ！
20	28,882	1,000		18,491	39,120	153	0		18,387	106,033	4. 1～ 6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ！
	30,389	6,218		18,560	18,708	2	59		564	74,500	7.19～ 9.21	56	ダーウィン展
	1,887	357		4,103	1,414	19	152		2,226	10,158	10.25～12. 7	38	地震展
21	4,069	221		4,532	3,360	217	0		9,298	21,697	4.18～ 5.31	38	世界のチョウと甲虫展
	1,584	120		17,567	14,801	12	99		292	34,475	7. 4～ 8.30	50	ホネホネたんけん隊
	4,920	529		3,938	2,153	143	0		4,921	16,604	9.19～11. 3	39	きのこのヒミツ展
	12,413	697		4,907	14,608	7	0		32	32,664	3.20～ 3.31	10	大恐竜展
22	48,600	2,904		20,381	49,034	205	124		20,836	142,084	4. 1～ 5.30	52	大恐竜展
	1,405	1,262		3,535	2,724	92	0		1,264	10,282	7.24～10. 8	58	みんなでつくる淀川大図鑑展
23	11,864	2,237		5,140	10,625	56	42		195	30,159	7. 2～ 8.28	50	来て！見て！感激！大化石展
	22,864	1,700		15,048	25,108	14	102		16,035	80,871	9.10～11.27	67	OCEAN！海はモンスターでいっぱい
	14,179	527		7,745	17,057	1	31		719	40,259	3.10～ 3.31	19	新説・恐竜の成長
24	39,844	1,215		13,101	38,459	110	102		19,093	111,924	4. 1～ 6. 3	56	新説・恐竜の成長
	7,353	1,489		6,005	6,885	23	32		5,300	27,087	7.28～10.14	68	のぞいてみよう ハチの世界
	25,519	1,330		8,524	22,317	48	114		3,256	61,108	11.23～ 3.31	104	モンゴル恐竜化石展
25	24,439	1,197		9,401	21,561	217	69		13,705	70,589	4. 1～ 6. 2	55	モンゴル恐竜化石展
	5,075	1,366		5,616	5,216	26	46		3,315	20,660	7.20～10.14	75	いきもの いっぱい 大阪湾
	8,054	261		2,583	9,391	4	12		276	20,581	3.21～ 3.31	11	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
26	28,452	863		12,521	31,113	7	78		16,846	89,880	4. 1～ 5.25	50	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
	3,330	509		3,919	3,528	27	48		1,914	13,275	7.19～10.13	73	ネコと見つける都市の自然
	6,783	255		2,199	7,457	4	19		248	16,965	3.21～ 3.31	11	スペイン 奇跡の恐竜たち
27	33,701	1,306		12,034	29,970	94	134		16,477	93,716	4. 1～ 5.31	55	スペイン 奇跡の恐竜たち
	5,414	600		4,035	5,956	129	41		5,314	21,489	7.18～10.18	80	たまごとたね
28	47,734	3,128		11,076	27,444	114	302		18,291	108,089	4.16～ 6.19	57	生命大躍進
	8,065	1,016		5,063	8,125	80	54		2,991	25,394	7.16～10.16	81	氷河時代
29	4,127	450		3,373	1,630	9	62		7,119	16,770	4.22～ 6. 4	39	石は地球のワンダー
	4,534	630		4,854	4,615	55	31		1,943	16,662	7.15～10.15	81	瀬戸内海の自然を楽しむ
	62,904	——	42,989	23,677	11,859	504	——	255	——	142,188	7.25～ 9. 3	41	メガ恐竜展　※
	10,317	378		3,297	10,397	10	28		988	25,415	3.10～ 3.31	19	恐竜の卵
30	20,660	482		7,833	20,011	31	87		3,858	52,962	4. 1～ 5. 6	33	恐竜の卵
	9,753	1,218		5,470	4,880	156	66		3,484	25,027	7.21～10.21	79	きのこ！キノコ！木の子！
R1	69,211	1,622		16,281	67,394	62	279		1,566	156,415	7.13～ 9.29	69	昆虫
R2	3,324	202		2,153	2,514	2	17		49	8,261	6. 9～ 8.30	73	知るからはじめる外来生物
R3	509	43		516	166	0	7		0	1,241	4.24～ 6.27	8	大阪アンダーグラウンド
	22,088	1,236	12,484	6,126	3,499	39	196	339		46,007	7.17～10.10	76	アインシュタイン
	24,467	1,583	6,030	6,091	4,827	22	159	0		43,179	1.14～ 3.31	67	植物
R4	3,190	190	1,046	1,108	535	6	14	31	0	6,120	4. 1～ 4. 3	3	植物
	5,346	298		3,151	2,358	12	33		5,611	16,809	4.29～ 6.19	46	日本の鳥の巣と卵427
	23,905	665	12,046	9,592	9,237	16	12	43		55,516	7.16～ 9.25	65	大地のハンター
	2,828	196		2,308	1,273	4	33		498	7,140	12.27～ 2.26	55	大阪アンダーグラウンドRETURNS
	15,775	2,478	5,356	2,481	2,008	9	150	0		28,257	3.18～ 3.31	13	毒
R5	80,225	8,008	15,391	13,261	5,285	114	634	238		123,156	4. 1～ 5.28	52	毒
	87,096	3,537	27,548	18,841	32,174	159	282	364		170,001	7. 7～ 9. 2	70	恐竜博2023
	1,305	177		1,180	608	3	11		338	3,622	2.23～ 3.31	33	自然史のイラストレーション
R6	2,578	316		2,105	761	9	40		1,368	7,177	4. 1～ 5.26	49	自然史のイラストレーション
	55,969	3,867	10,335	15,240	4,083	47	457	136		90,134	7.13～ 9.23	65	ネコ
	2,522	204		1,259	913	4	17		262	5,181	2.22～ 3.31	32	貝に沼る
R7	3,752	307		2,065	812	7	41		156	7,140	4. 1～ 5. 6	32	貝に沼る
	38,575	1,434	15,336	10,786	13,400	24	131	160		79,846	7.12～ 9.23	66	昆虫MANIAC
	2,972	535		2,655	890	25	150		1,494	8,721	11. 1～ 2. 1	73	学芸員のおしごと
	10,695	779	2,658	2,824	972	11	75	0		18,014	3.14～ 3.31	16	鳥

※平成29年度 メガ恐竜展（会場：大阪南港ATCホール）… 3歳以上有料のため区分は次のとおり
「大人」高校生以上　「小中学生有料」3歳～中学生　「中学生以下無料」3歳未満

※令和３年度以降の共催展覧（アインシュタイン、植物、大地のハンター、毒、恐竜博2023、ネコ、昆虫MANIAC、鳥）… 小学生以上有料のため区分は次のとおり
「中学生以下無料」未就学児

Ⅵ. 貸室の利用状況

■講堂
令和７年度　０件

【参考】　令和元年度　　２件（500人）
令和２年度　　１件（ 52人）
令和３年度　　１件（ 50人）
令和４年度　　５件（300人）
令和５年度　　３件（345人）
令和６年度　　２件（230人）

■特別展示室（ネイチャーホール）
令和７年度　０件

■ポーチ
令和７年度　３件

年　月　日	団　体　名	使　用　目　的	人　数
令和7年5月17日 ～ 5月18日	（一財）大阪スポーツみどり財団 長居パークセンター	高知県マルシェ 観光ＰＲブース、ワークショップ、ご当地品の販売	
令和7年6月7日	わくわくパーククリエイト株式会社	ナガイコレクション 参加型ファッションショー	
令和8年2月11日	（一財）大阪スポーツみどり財団 長居パークセンター	植樹セレモニー、ミャクミャク記念撮影会	

Ⅶ. 施　　設

自然史博物館本館
■**所 在 地**　大阪市東住吉区長居公園１番23号
■**敷地面積**　6,743.68㎡
■**建築面積**　4,392.67㎡
■**延床面積**　7,066.01㎡
■**構　　造**　鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下１階、地上３階

■**主要各室面積・天井の高さ**

（展示用施設）	計	2,427.48㎡	（天井の高さ）
ナウマンホール		550.35㎡	11.00m
第１展示室		360.55㎡	3.30m
第２展示室		486.64㎡	7.20m
第３展示室		403.10㎡	4.70m
第５展示室		360.55㎡	4.20m
２階ギャラリー		266.29㎡	6.80m
（研究用施設）	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各	18.27㎡	2.70m
動物・昆虫・植物・地史研究室	各	47.56㎡	2.40m
第四紀・外来研究室	各	36.54㎡	2.40m
生物実験室		49.20㎡	2.40m
化学分析室・サーバー室	各	18.27㎡	2.40m
電子顕微鏡室		37.43㎡	2.70m
動物標本制作室		37.71㎡	2.40m
昆虫・植物標本制作室	各	36.54㎡	2.40m
化石処理室		47.56㎡	2.40m
石工室		22.21㎡	2.70m
展示品製作室		28.05㎡	2.70m
旧第１収蔵庫		207.09㎡	3.00m
旧第２収蔵庫		310.08㎡	3.00m
旧第３収蔵庫		207.09㎡	3.00m
旧第４収蔵庫		310.08㎡	3.00m
書　庫		100.30㎡	7.40m
編集記録室		36.54㎡	2.40m
（普及教育用施設）	計	604.27㎡	
講堂（映写室・控室含む）		319.09㎡	2.60m（平均）
ミュージアムサービスセンター		93.30㎡	2.70m
集会室		95.12㎡	2.70m
旧実習室		96.76㎡	2.70m
（管理用施設）	計	907.49㎡	
館長室		36.54㎡	2.70m
１階控室		18.27㎡	2.70m
事務室		83.34㎡	2.70m
応接室		29.54㎡	2.70m
休憩室		16.85㎡	2.55m
警備員室		17.64㎡	2.70m
会議室		47.56㎡	2.70m
機械室		472.35㎡	5.85m
電気室		89.92㎡	5.85m
旧自家発電気室		49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室		28.05㎡	2.40m
（共通部分）	計	1,323.95㎡	
１階廊下		118.27㎡	2.70m
２階廊下		102.29㎡	2.40m
ロッカールーム		60.59㎡	2.85m
エレベーターホール（荷物用）		123.16㎡	
ファンルーム（南・北側）	各	16.80㎡	
荷捌室		161.69㎡	2.70m
玄関ホール		125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベータ		7.00㎡	
倉　庫		106.56㎡	
１階ホール便所		76.26㎡	
２階ホール便所		37.56㎡	
管理棟便所		43.47㎡	
ダクトスペース		102.70㎡	
階　段		179.30㎡	
その他		119.48㎡	
総計		7,066.01㎡	

■**階数別面積**

地階……　855.07㎡	３階……550.95㎡
１階……3,178.35㎡	屋階……　76.93㎡
２階……2,404.71㎡	

■**各室定員**

講　堂……170人※	集会室……　48人
会議室……　22人	旧実習室……　31人
展示室（1階）415人	展示室（2階）400人
地　階……　3人	

※講堂は、令和３年度の改修工事により、座席数が266から170に変更。

■**工　　期**　昭和47年１月21日～昭和48年３月31日

■**総事業費**	10億1,000万円
（建設工事費）	７億9,500万円
・本体工事（㈱竹中工務店）	４億9,200万円
・付帯工事	３億　300万円
（設計監督委託料）	2,700万円
（その他）	3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費 ネットフェンス設置工事費等	
（内部設備費）	１億5,000万円
・第１展示室ディスプレイ（㈱日展）	2,200万円
・第２展示室ディスプレイ（㈱乃村工芸社）	2,500万円
・第３展示室ディスプレイ（㈱丹青社）	2,100万円
・オリエンテーションホールディスプレイ（㈱電電広告）	600万円
・展示品購入費	3,200万円
・庁用器具、調査、研究用機器、資料保管用物品等	4,400万円

■**国庫補助金・起債**
・国庫補助金　　3,000万円（47.10.13付交付決定）
・起　債　　３億8,762万円（47. 8.25付交付決定）

花と緑と自然の情報センター
■**所 在 地**　大阪市東住吉区長居公園１番23号
■**敷地面積**　1,203.81㎡
■**建築面積**　1,203.81㎡
■**延床面積**　5,000.00㎡
■**構　　造**　鉄骨鉄筋コンクリート造
地下１階、地上２階塔屋付建物

■**主要各室面積・天井の高さ**

（展示用施設）	計	1,403.76㎡	（天井の高さ）
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
（研究用施設）	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場（１）		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場（２）		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m

前室（１）		36.80㎡	4.00m
前室（２）		16.20㎡	4.00m
（普及教育用施設）	計	256.08㎡	
自然の情報センター		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
実習室		105.75㎡	3.00m
（管理用施設）	計	937.36㎡	
総合監視センター		32.78㎡	5.60m
空調機械室		116.93㎡	6.50m
機械室		722.99㎡	5.60m
ＥＶ機械室		49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
（共通部分）	計	431.30㎡	
地下 1 階廊下		28.74㎡	3.00m
１階廊下		48.30㎡	3.00m
１階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
２階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
プロムナード		28.00㎡	5.00m
２階便所		57.02㎡	2.50m
ＥＶ室		47.52㎡	2.90m
トラックヤード		88.13㎡	
階　段		103.18㎡	
	総計	5,000.00㎡	

■階数別面積

地階……2,754.07㎡
１階……1,203.81㎡
２階…… 993.04㎡
３階…… 49.08㎡

■工　　期　平成10年12月～平成13年３月

■総事業費　41億6,665万円
（建設工事費）　24億4,558万円
（設備工事費）　11億9,650万円
（設計監督委託料）　5,751万円
（外溝工事費他）　４億6,706万円

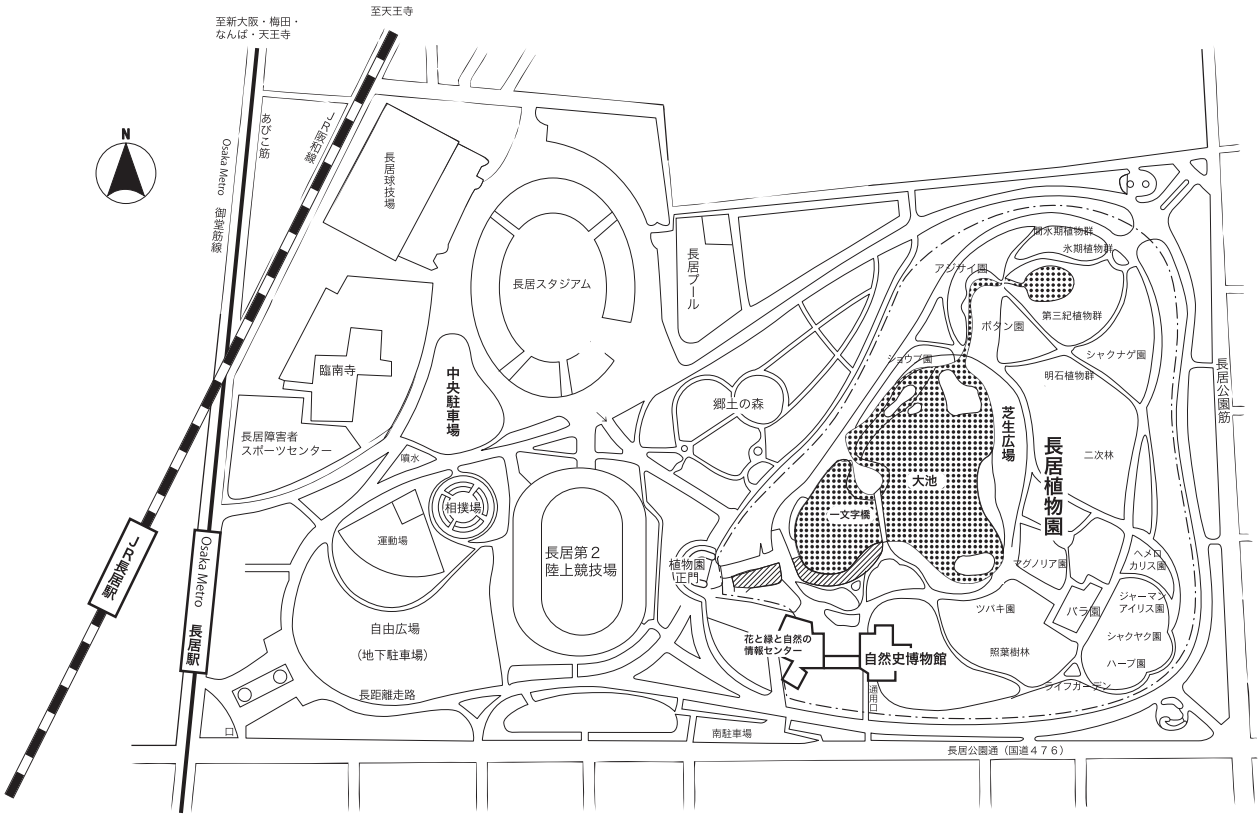
■起債等

・起　債　34億7,477万３千円
・雑収（宝くじ協会）　３億6,001万７千円

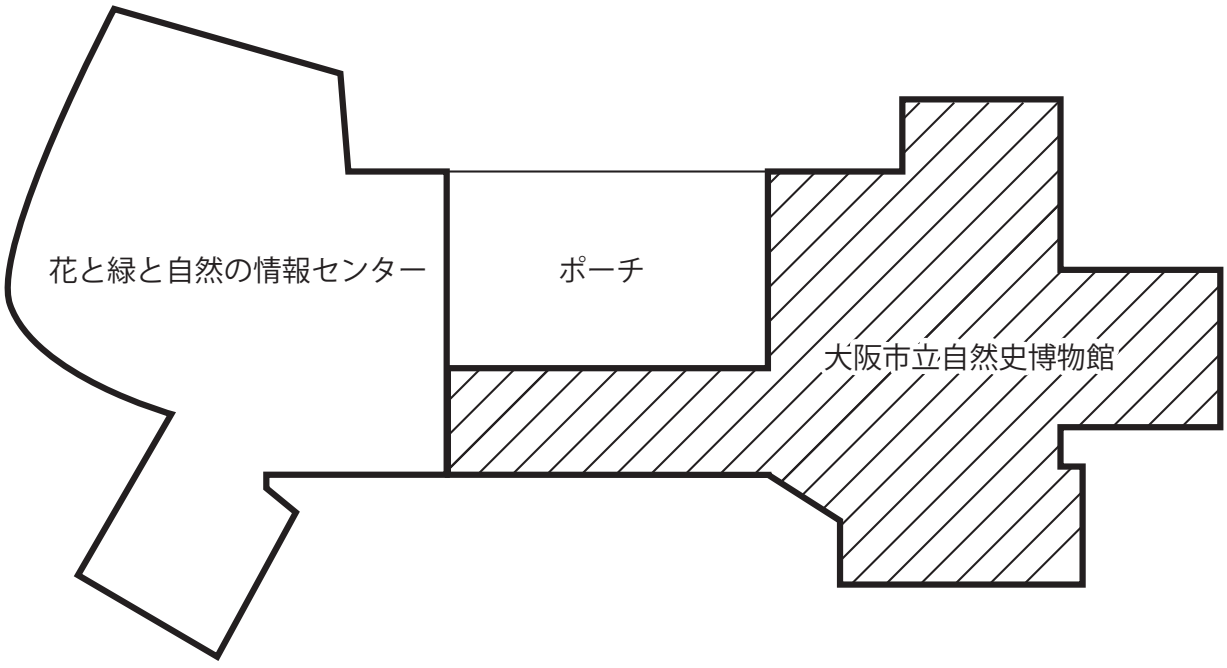
■最近の設備更新

平成24年３月
　本館・大阪の自然誌コーナー・ネイチャーホールの展示照明等LED化
平成30年２月28日
　本館第１・２・３展示室の展示ブース内照明等LED化
平成30年12月19日
　収蔵庫用空冷ヒートポンプチラー ２号機整備
平成31年１月25日
　ガス吸収式冷温水発生機（三洋製)整備
平成31年２月21日
　ガス吸収式冷温水発生機（川重製)整備
令和２年１月
　ナウマンホール天井照明LED化
令和３年３月
　ネイチャーホール天井耐震補強のための改修、照明LED化
令和４年３月
　講堂の椅子・床クロス・AV機器等の改修、照明LED化
令和５年１月
　講堂系統空気調和機更新
令和６年３月
　自動火災報知設備更新
令和７年３月
　本館　外壁補修
　空気調和気更新（本館、花と緑と自然の情報センター）
　受変電設備改修
令和７年12月
　ガス吸収式冷温水発生機（川重製)整備
令和８年３月
　鯨類全身骨格標本修繕(ナガスクジラ、通称「ナガスケ」)
　全館照明LED化
　本館第2, 5 展示室、収蔵庫、管理棟屋上防水改修
　花と緑と自然の情報センター２階トイレ改修

大阪市立自然史博物館　付近見取図

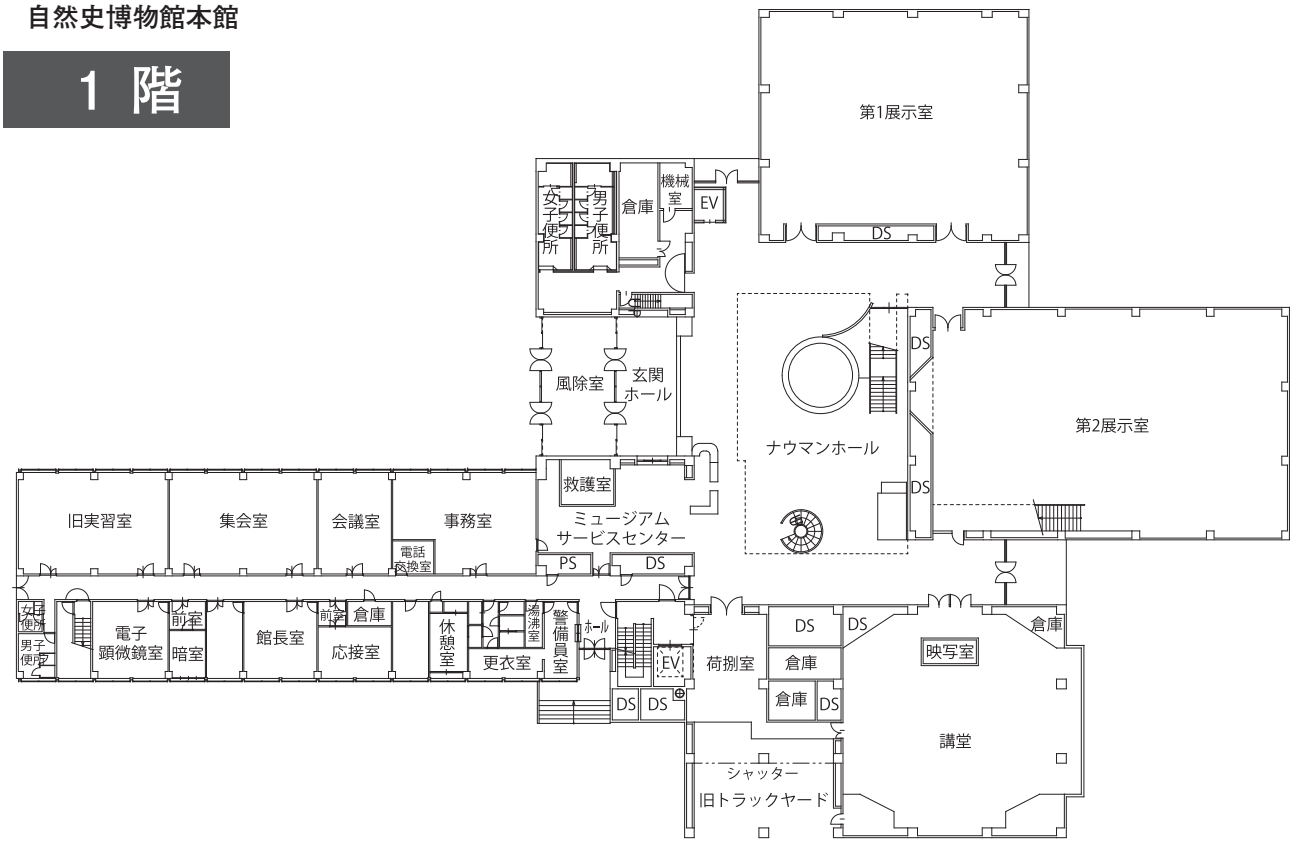


大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター



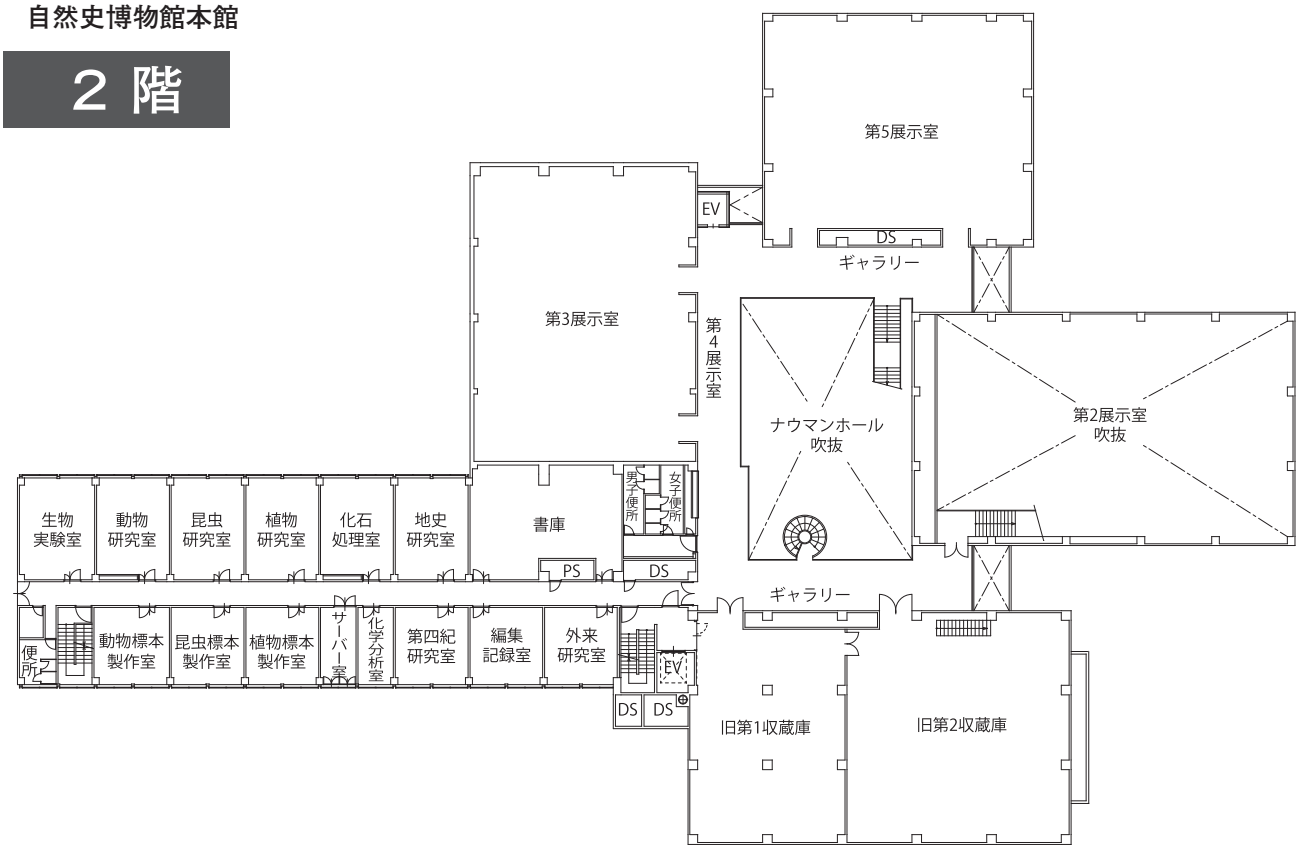
自然史博物館本館

1 階



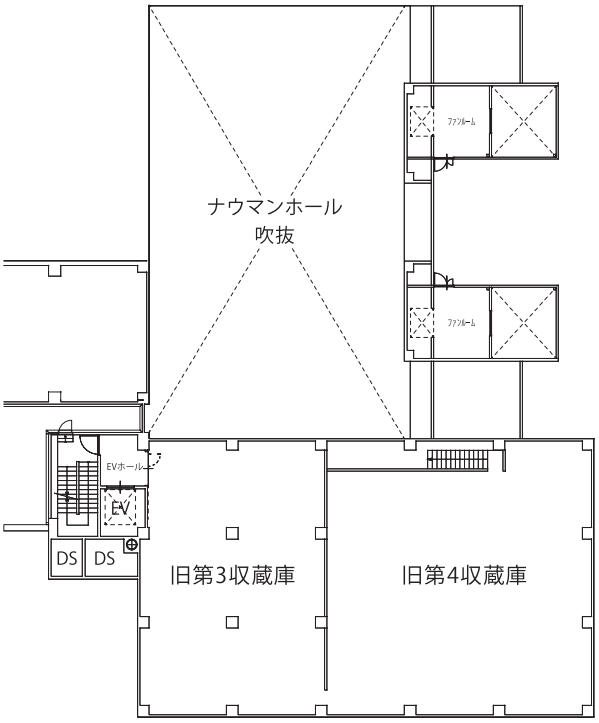
自然史博物館本館

2 階



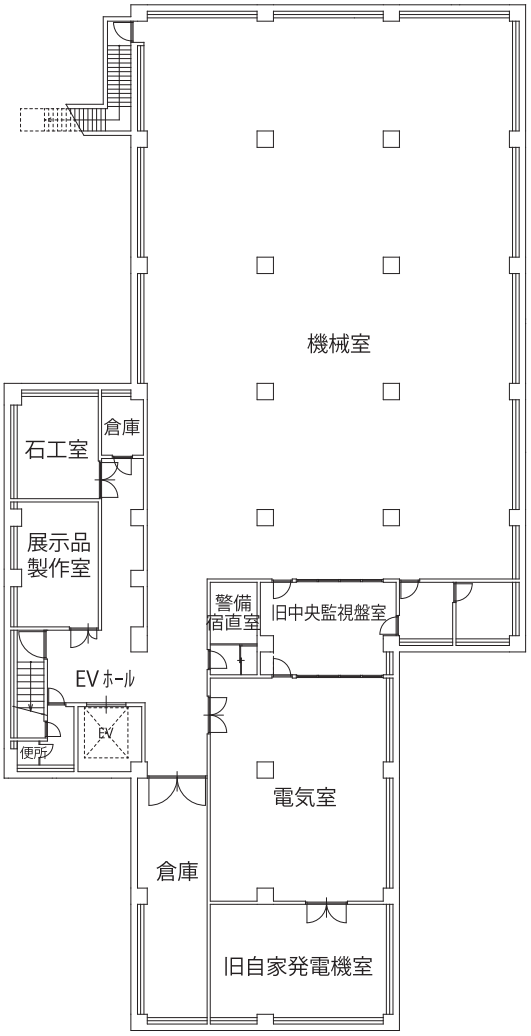
自然史博物館本館

３階



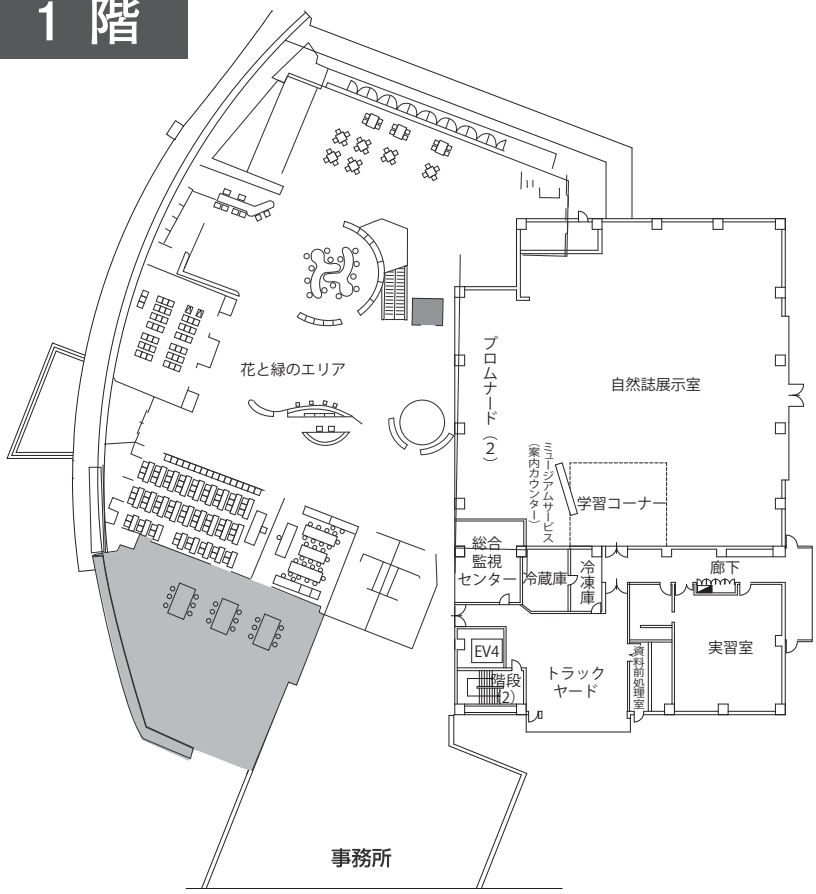
自然史博物館本館

地下

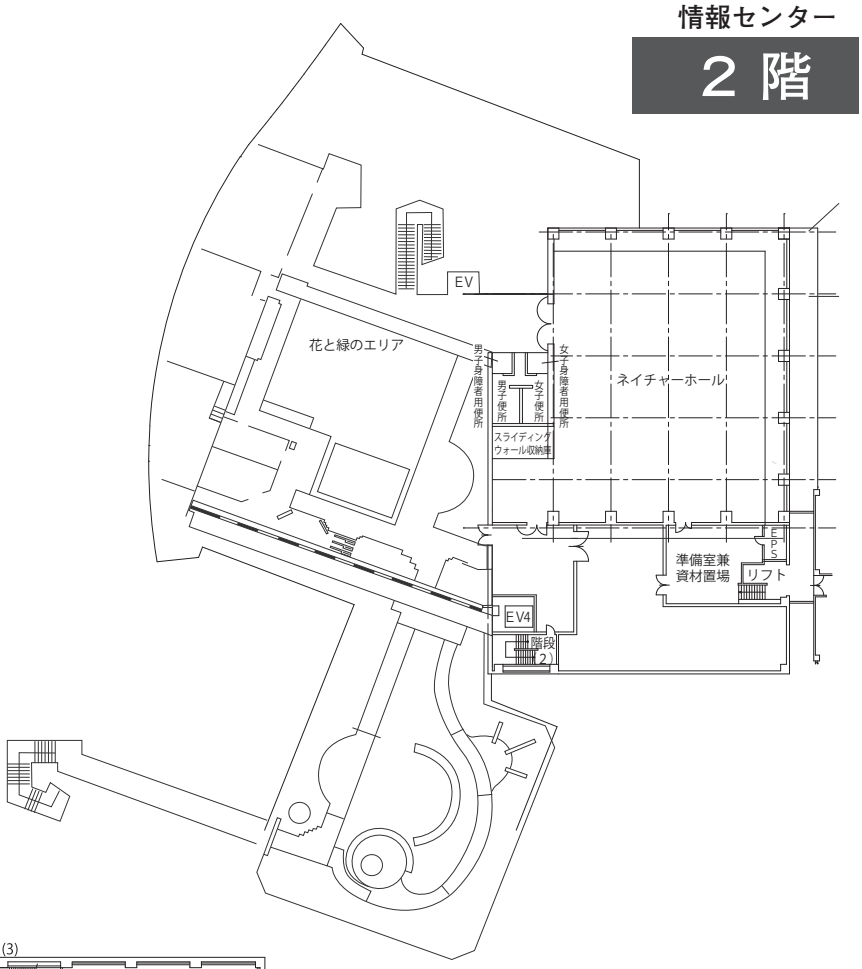


花と緑と自然の
情報センター

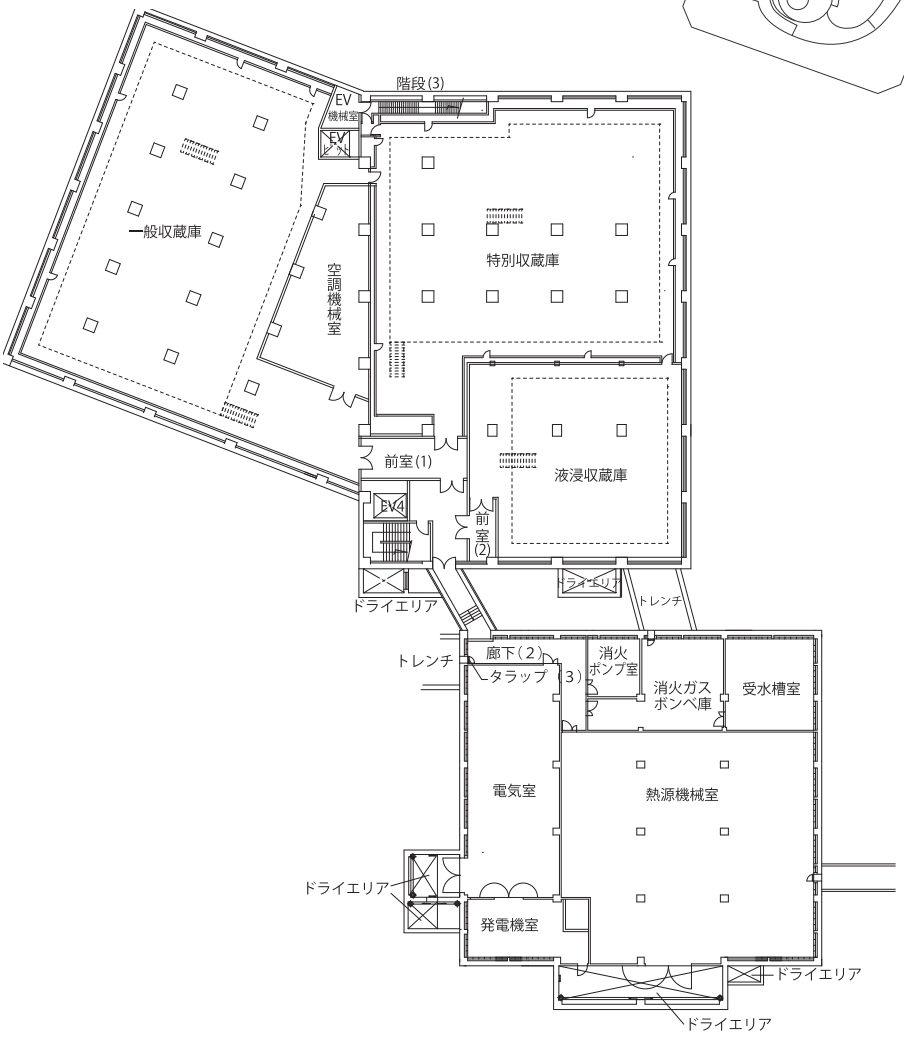
１階



花と緑と自然の情報センター
２階



花と緑と自然の情報センター
地下



Ⅷ. 規　　程

○大阪市立自然史博物館利用規程

制　　定　平成31年４月１日
大阪市博物館機構規程第37-２号

（趣旨）

第１条　大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）の利用に関しては、この規程の定めるところによる。

（休館日）

第２条　博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1)　月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）

(2)　12月28日から翌年１月４日まで

２　前項の規定にかかわらず、博物館の館長（以下「館長」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、事前に又は速やかに理事長の承認を得て同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

３　館長は、前項の休館を行う場合、事前に又は速やかにその内容を公告しなければならない。

（供用時間）

第３条　博物館の供用時間は、午前９時30分から午後５時までとする。ただし、11月１日から翌年２月末日までの期間については、午前９時30分から午後４時30分までとする。

２　前条第２項及び第３項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第２項中「前項」とあるのは「第３条第１項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第３項中「前項」とあるのは「第３条第２項の規定により読み替えられた第２条第２項」と読み替えるものとする。

（使用の許可）

第４条　別表第１に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

（使用許可の制限）

第５条　次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用を許可しない。

(1)　公安又は風俗を害するおそれがあるとき

(2)　建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき

(3)　管理上支障があるとき

(4)　暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成３年法律第77号）第２条第２号に規定する暴力団の利益になるとき

(5)　その他、不適当と認めるとき

（使用許可の取消し等）

第６条　次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

(1)　偽りその他不正の手段により第４条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき

(2)　前条各号に定める事由が発生したとき

(3)　この規程に違反し、又はこの規程に基づく指示に従わないとき

（意見の聴取）

第７条　館長は、必要があると認めるときは、第５条第４号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう理事長に求めるものとする。

２　理事長は、前項の規定による求めがあったときは、第５条第４号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

（入館の制限）

第８条　館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

(1)　他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者

(2)　建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者

(3)　他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者

(4)　管理上必要な指示に従わない者

(5)　その他管理上支障があると認める者

（研究の許可）

第９条　博物館等資料について研究をしようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

２　研究に関する手続きについては、別に定める。

（貸出しの許可）

第10条　博物館等資料の貸出しを受けようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

２　博物館等資料の貸出しに関する手続きについては、別に定める。

（利用料金）

第11条　博物館を観覧し、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、館長に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第１項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

２　利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

(1)　観覧料（特別の展示に係るものを除く。）１人１回につき別表第２に掲げる金額

(2)　特別の展示に係る観覧料 特別の展示ごとに定める額

(3)　貸出料 その都度理事長が定める額

(4)　施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、自然史博物館利用料金要項で定める額）

３　理事長は、前項の承認（貸出料の額に係るものを除

く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

4　館長は、公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、別に定める要項に基づき、利用料金を減額し、又は免除することができる。

5　館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

(1)　災害その他施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき

(2)　使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、館長がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき

(3)　その他館長が特別の事由があると認めるとき

（特別設備）

第12条　使用者は、館長の許可を受け、特別の設備をすることができる。

2　館長は、使用者に対して必要な設備をすることを命ずることができる。

3　使用者が前第１項、第２項の規定により、特別の設備をしたときは、使用後直ちにこれを撤去して、原状に復さなければならない。

（損害の賠償及び事故の責任）

第13条　博物館を観覧する者又は施設の使用の許可を受けた者が建物、設備又は博物館等資料を損傷し、又は亡失したときは、理事長の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

2　使用者は、使用に関して生じた一切の事故につき、その責めを負うものとする。

附則

（施行期日）

1　この規程の施行期日は、平成31年４月１日とする。

2　本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

別表第１（第４条、第11条関係）

区分	施設使用料
講堂	１室１日につき17,000円
特別展示室	１室１日につき32,000円

別表第２（第11条関係）

区分		観覧料	団体観覧料（30人以上50人未満）	団体観覧料（50人以上100人未満）	団体観覧料（100人以上）
常設展示室	高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	200円	180円	160円	140円
	その他の者	300円	270円	240円	210円

○大阪市立自然史博物館利用料金要項

制　　定　平成31年４月１日
大阪市博物館機構規程第38-２号

（趣旨）

第１条　この要項は、大阪市立自然史博物館利用規程（以下「規程」という。）第11条利用料金について、必要な事項を定めるものとする。

（利用料金の納付時期）

第２条　規程第11条第１項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ館長が定める日までに支払わなければならない。

（附属設備の利用料金）

第３条　規程第11条第２項に定める附属設備の種別及び金額は、別表のとおりとする。

（特別設備）

第４条　規程第12条の規定による特別の設備に係る費用は、施設の使用許可を受けた者の負担とする。

（施行の細目）

第５条　この要項の施行について必要な事項は、理事長が定める。

附則

1　この要項は、平成31年４月１日から施行する。

2　本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

別表（第３条関係）

区分		使用料		
		午前	午後	全日
特別展示室	冷房設備、暖房設備			16,000円
講堂	冷房設備、暖房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡声装置	1,800円	1,800円	3,600円
	マイク	500円	500円	1,000円
	ワイヤレスマイク	1,100円	1,100円	2,200円
	テープレコーダー	900円	900円	1,800円
	スライド映写機（スクリーン付）	1,300円	1,300円	2,600円
	16ミリ映写機（スクリーン付）	4,200円	4,200円	8,400円
	ビデオ装置	2,200円	2,200円	4,400円
	液晶プロジェクター（スクリーン付き）	1,900円	1,900円	3,800円

備考　この表中「午前」とは午前 9 時 30 分から正午までをいい、「午後」とは午後 1 時から午後 5 時までをいい、「全日」とは午前 9 時 30 分から午後 5 時までをいう。ただし、11月１日から２月末日までの期間については午後 5 時 までを 午後４時30分までとする

○大阪市立自然史博物館利用料金減免要項

制　　定　平成31年４月１日
大阪市博物館機構規程第39－２号

（趣旨）

第１条　この要項は、大阪市立自然史博物館利用規程（以下「規程」という。）第11条第４項の利用料金の減免について、必要な事項を定めるものとする。

（学校園等の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料）

第２条　保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校（以下「学校園等」という。）の保育士又は教職員が、学校園等行事で園児、児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときまた、その事前視察のときは、当該保育士又は教職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

２　前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに博物館の館長（以下「館長」という。）にあらかじめ提出しなければならない。

（1）入場の日時
（2）学校園等の名称、住所及び代表者氏名
（3）入場者の予定人員
（4）引率責任者の氏名
（5）その他館長が必要と認める事項

（社会福祉施設の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料）

第３条　次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の入所者及び入所者を引率した職員が博物館に入場しようとするときは、当該入所者及び入所者１名につき１名の職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

（1）　生活保護法（昭和25年法律第144号）
（2）　児童福祉法（昭和22年法律第164号）
（3）　身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）
（4）　知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）
（5）　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）
（6）　老人福祉法（昭和38年法律第133号）
（7）　障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）

２　前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに館長にあらかじめ提出しなければならない。

（1）　入場の日時
（2）　社会福祉施設の名称、所在地及び代表者氏名
（3）　施設の設置根拠となる法律の名称
（4）　入場者の予定人員
（5）　引率責任者の氏名
（6）　その他館長が必要と認める事項

３　次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及び所持者１名につき１名の介護者の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

（1）　第１項第３号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
（2）　第１項第5号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
（3）　知的障害者福祉法施行令（昭和35年政令103号）の規定による判定書
（4）　原子爆弾被害者に対する援護に関する法律（平成６年法律第117号）の規定による被爆者健康手帳
（5）　戦傷病者特別援護法（昭和38年法律第168号）の規定による戦傷病者手帳

（大阪市内在住者の観覧料の特例及び特別の展示に係る観覧料）

第４条　大阪市内在住の65歳以上の市民で大阪市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証等を所持している者は、観覧料を免除する。

２　前項の規定にかかわらず、特別の展示にかかる観覧料については、その展示毎にあらかじめ館長の承認を得て定める。

（大阪市施策による観覧料及び特別の展示に係る観覧料の特例）

第５条　大阪市が発行する以下のものを所持している者は、観覧料を免除する。

（1）　児童委員証
（2）　青少年指導員証、青少年福祉委員証
（3）　生涯学習推進員証
（4）　大阪市立ミュージアム御招待証（ふるさと納税寄付者）

（近隣施設及び団体・事業者等との連携に係る観覧料及び特別の展示に係る観覧料）

第６条　近隣の施設及び団体・事業者等との連携による広報及び誘客に向け、館長が特に必要と認めるとき、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を減額または、免除する。

２　減額の料金または免除については、館長の承認を得てその都度定める。

（視察等の観覧料）

第７条　次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除することがある。

（1）　市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
（2）　団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
（3）　その他特別な事由により、館長が必要であると認めるとき

２　前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに館長にあらかじめ提出しなければならない。

（1）　入場の日時
（2）　団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
（3）　視察の目的
（4）　入場者の予定人員
（5）　視察する者の代表者の氏名
（6）　その他館長が必要と認める事項

（施設使用料等）

第８条　次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、利用規程別表第１及び別表第２に規定する施設使用料並びに利用料金要項別表に規定する附属設備の利用料金を減額又は免除することがある。

（1）　館長が学術振興又は普及教育等に資すると認める行事に使用するとき
（2）　博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第１条の規定に基づく博物館実習に使用するとき

(3)　その他特別な事情により、館長が必要であると認めるとき

2　前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用する日の７日前までに館長に提出しなければならない。

(1)　使用の日時
(2)　申請者の氏名及び住所（団体にあっては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
(3)　使用の目的
(4)　使用する施設及び附属設備
(5)　入館者の予定人員
(6)　その他館長が必要と認める事項

附則

1　この要項は、平成31年４月１日から施行する。

2　本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

附則

1　この要項は、令和６年７月１日から施行する。

○大阪市立自然史博物館の標本・資料の研究及び貸出しに関する要項

制　　定　平成31年４月１日
大阪市博物館機構規程第40−２号

（趣旨）

第１条　この要項は、大阪市立自然史博物館利用規程第９条研究の許可及び第10条博物館等資料の貸出しの許可について、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1)　「保存的研究利用」は学術目的により資料を形態観察（撮影を含む）し、データなどの記録を利用するための利用及び精査のための貸出をいう。

(2)　「一部破壊を伴う研究利用」は学術目的により、外部からでは観察できない形態を観察するため、資料の特徴を損なわない配慮のもとで、解剖（軽微かつ重要な形質に関する情報が標本に記録されるものを除く）、成分などの分析、DNA採取を行うための利用及び館内ではできない精査のための貸出をいう。

(3)　「展示などの利用」は教育普及目的で展示などに供するための貸出をいう。

(4)　「撮影などの利用」は教育普及、または報道目的で、静止画撮影、動画撮影又は模写、模造のための利用及び館内の環境ではできない特別な撮影などの場合の貸出等を行うことをいう。

（手続き）

第３条　標本・資料を用いて研究及び貸出しを希望する者は、担当学芸員に、事前に次の事項を連絡して館長名による許可を受けなければならない。

なお、前条第１号にかかる「保存的研究利用」については学芸員の許可のもと、手続きを経て標本利用及び標本貸出を行う。様式は各研究室の定めるところによる。大阪市立自然史博物館「外部研究者の受入れに関する要綱」に定めるところの研究生および外来研究員が学芸員の指導のもとで行う研究については外部研究者としての許諾を持って許可と見なす。

一　博物館等資料名
二　研究の目的
三　実施する者の氏名
四　希望日時
五　その他、必要事項

２　標本・資料の「一部破壊を伴う研究利用」を希望するものは、担当学芸員との十分な相談の上で、館長に、次の事項を明記した上で利用願いまたは貸出し許可願を提出して許可を受けなければならない。学生及び大学院生は指導教官による申請を必要とする。

一　博物館等資料名
二　目的及び研究計画
三　借用の期間（最大６ヶ月）
四　借用する機関及び代表者の氏名
五　担当者の氏名
六　公表の予定及び博物館へのデータ還元の計画
七　その他、必要事項

３　標本・資料の「展示などの利用」、「撮影などの利用」を目的とした貸出を希望するものは担当学芸員との十分な相談の上で、館長に、次の事項を明記した貸出し許可願を提出して許可を受けなければならない。

一　博物館等資料名
二　目的
三　借用の期間（集荷日から返却日）
四　借用する機関及び代表者の氏名
五　担当者の氏名
六　その他、必要事項

（許可の制限）

第４条　次の各号に掲げる場合は、研究利用及び貸出しは許可しない。

(1)　博物館等資料の保存に悪影響が生ずると認められる場合

(2)　学術的利用として、目的または計画が適切と判断できない場合。一部破壊を伴う研究利用の場合はそれを回避する手段が十分検討されていない場合

(3)　既に行われている他の研究や展示の予定などに支障を生じる場合

(4)　自然保護や遺伝資源保護などの観点から支障があると判断された場合

(5)　一般観覧者の観覧又は,他の標本利用者の活動,博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合

(6)　博物館が所有権又は著作権を有さない博物館等資料については、事前にそれぞれ当該所有権者若しくは当該著作権者の同意を得ていない場合

(7)　その他許可することが適当でないと認められる場合

（許可書）

第５条　「一部破壊を伴う研究利用」および「展示などの利用」、「撮影など」を許可した場合は、館長は、次の事項を明記した許可書を交付する。ただし、館内で完結する撮影などについては特に請求のない場合許可証は省略する。

一　博物館等資料名
二　目的
三　実施する者の氏名
四　実施予定日
五　その他、必要事項

（費用負担及び損害賠償）

第６条　研究利用および貸出しに際し、特に費用を要する場合は、その費用は利用を願い出た者が負担するものとする。

２　博物館資料等について研究利用および貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料等を損傷し、又は亡失したときは、理事長の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

附則

１　この要項は、平成31年４月１日から施行する。

Annual Report

of the Osaka Museum of Natural History for the fiscal year of 2025

Osaka Museum of Natural History Issued: June 26, 2026.
1-23 Nagai Park, Higashi-Sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan